

西暦	年	月	劇 場	上演外題	場 割 ・ 備 考	主な人形役割
1772	安永1	12/26~	豊竹座	艶容女舞衣	上の巻（口加、奥武、切ノ口伊三、中岡、奥町）、中の巻（口氏、切ノ口町、詰岡）、下の巻（口加、切ノ口源、詰島）。 ※角書「美濃や三勝／あかねや半七」。 ※京都大学図書館蔵・大阪府立中之島図書館蔵、鱗形屋孫兵衛・阿波屋平七版七行正本に拠る。 ※『外題年鑑 安永版』に「茜屋半七／みのや三勝 艶容女舞衣 明和九年辰年十二月廿六日 岡太夫出座」。『浄瑠璃大系図』には「豊竹岡太夫 同（安永）忒年癸巳十二月廿六日より東の芝居へ出勤して艶姿女舞衣三かつ六つ目の大当りして…」とあるが、年次の誤りであろう。 ※絵尽の「山の口の段」に「此所引道具」とある。	(不明)
△ 1773~ 1774	安永2 ~ 安永3		江戸 外記座	(艶容女舞衣)	※『義太夫執心録』に「佐渡太夫 中の芝居が初舞台目見へ浄留り艶姿縁切大出来／＼」とあるに拠る。	
△ 1782~ 1783	天明2 ~ 天明3		江戸 土佐座	(艶容女舞衣)	※『義太夫執心録』に「川内太夫高松屋松之助……土佐座の目見へ、金兵衛家太夫座元にて、はで姿縁切場、第一声が美しく、女の見物嬉しがり素人請の大評判」とあるに拠る。	
1808	文化5	9/27~	御霊社内芝居	艶容女舞衣 上下	新町ばしの段（口芳、おく重）、長まちの段（口千賀、切巴）、十日戎の段（秀）、上しほ町の段（口中、切綱）、心中の段（宮戸）。 ※角書「かさや三勝／赤根半七」。 ※語り「吉けふの急びす参りは今やうふうのおうぼどの千両道ぐのかい主に心の合ぬしうとゝしうと手を打た祝言の去状／かづきぞめ宮参りはとうせいやうのいなか大じんしまの内の大よせに参らせ候の請取状さつぱりとした捨子のかきおき」。 ※豊竹古鞠太夫（豊竹山城少掾）旧蔵番付の書込みに「三世飴屋綱太夫也此時半兵衛ノセキ工夫有テ入ル」とある。	三かつ（金吾）、半七（三吾）、半兵へ（文吾）、半七はゝ（重三郎）、おその（新吾）、宗がん（三吾）。
1815	文化12	8/17~19	京 六角堂境内芝居	三勝	長町の段（口美代、切弥）。 ※「初日より三日目迄」（番付）。	三かつ（三吾）、半七（新吾）。
1816	文化13	5/3~	稲荷境内	艶容女舞衣	今宮戎の段（口富、おく筆）、半七内の段（口十七、切綱）。 ※角書「みのや三かつ／茜屋半七」。	三かつ（東造）、半七（新二）、半兵へ（千四）、半兵へ女房（重三郎）、おその（辰造）、宗かん（九孝）。
1816	文化13	閏8/8~	名古屋 清寿院御境内	艶容女舞衣	今宮の段（梶）、酒屋の段（むら、綱）。 ※角書「三勝／半七」。	三かつ（才治）、ほん七（兵吉）、勘兵衛（文吾）、勘兵へ女房（朝七）、おその（伝七）、宗がん（重五郎）。
1826	文政9	1/2~	いなり社内	艶容婦舞衣 上下	新町の段（入）、長町の段（口染、切湊）、十日戎の段（阿蘇）、酒やの段（口文字、切綱）。 ※角書「みのや三かつ／あかねや半七」。	三かつ（辰五郎）、半七（仙助）、半兵へ（熊造）、半七母（寅象）、おその（千四）、そうかん（源十郎）。
1834	天保5	9/27~	稲荷境内	艶容女舞衣	十日戎の段（島）、酒屋の段（口巴勢、切むら）。 ※角書「三かつ／半七」。	三かつ（門三）、半七（清七）、半兵へ（金四）、半兵へ女房（東十郎）、おその（辰五良）、宗かん（門蔵）。

	1839	天保10	9	ほり江市ノ側芝居	艶客(ママ)女舞衣	馬場先酒やのだん(口多満、切組)。 ※角書「かさや三かつ/赤根半七」。	三かつ(八蝶)、半七(寅造)、半兵衛(一京)、半兵へ女ぼう(咲造)、おその(新吾)、宗岸(清十郎)。
	1839	天保10	10	ほり江市ノ側芝居	艶客(ママ)女舞衣	馬場先酒やのだん(口多満、切組)。 ※角書「かさや三かつ/赤根半七」。 ※前項と一連の興行と思われるが、番付の月が異なる。	三かつ(八蝶)、半七(寅造)、半兵衛(一京)、半兵へ女ぼう(咲造)、おその(新吾)、宗岸(清十郎)。
	1843	天保14	9	道頓堀竹田芝居	艶容女舞衣	酒屋のだん(口多満、切江戸鞆)。	三かつ(文吾)、半七(金吾)、半兵へ(門十郎)、半兵へ女房(文吾)、おその(国八)、宗がん(門蔵)。
	1844	天保15	1	兵庫	女舞衣	酒やのだん(口多満、切鞆)。 ※角書「三かつ/半七」。	三かつ(国造)、半七(国三郎)、半兵へ(文吾)、はゝ(歌六)、おその(清十郎)、宗かん(門蔵)。
	1849	嘉永2	1/9~	西横堀清水町浜	(艶容女舞衣)	長町のだん(田喜=菊松)。 ※角書「三かつ/半七」。 ※「緑り浄瑠璃」の内。 ※番付の日付は「正月吉日」であるが『染太夫一代記』によって改めた。 ※「女舞剣紅楓」の可能性もある。	
	1849	嘉永2	1	堺 堺新地南芝居	艶容女舞衣	酒屋のだん(浦、生駒)。	三かつ(国三郎)、半七(兵吉)、半兵へ(文五郎)、半兵へ女房(辰之助)、おその(弥三郎)、宗がん(喜十郎)。
	1849	嘉永2	閏4/8~	京 左女牛北側芝居	三勝	酒や(筆の)。 ※素浄瑠璃。	
△	1850	嘉永3	1/3~	西横堀御池ばし	(艶容女舞衣)	酒屋(吾)。 ※角書「三かつ/半七」。 ※「緑浄留里」の内。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	1850	嘉永3	10カ/13	丹後田辺付近 願蔵寺	(艶容女舞衣)	酒屋(豊峰)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
	1850	嘉永3	11/14~	堺 さかい新地南芝居	三勝	さかやの段(菊寿)。 ※子供浄瑠璃興行。	
△	1851	嘉永4	4末頃	江戸 倉田屋庄助方	(艶容女舞衣)	酒屋のたん(理)。 ※角書「三勝/半七」。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	1851	嘉永4	7頃	江戸 木場	(艶容女舞衣)	酒屋のたん(理)。 ※角書「三勝/半七」。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	1851	嘉永4	7頃	江戸 扇屋	(艶容女舞衣)	酒屋のたん(登乃)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	

△	1851	嘉永4	7頃	江戸 さや丁	(艶容女舞衣)	酒屋のたん(理=泰治郎)。 ※角書「三かつ/半七」。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	1851	嘉永4	7頃	江戸 猿若町結城座	(艶容女舞衣)	酒屋のたん(燕子=米太郎)。 ※角書「三かつ/半七」。 ※「まい日かはり」とあるが二日目以後の演目は未詳。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	1852	嘉永5	5/16	上町鑪屋町大 ろうじ席	三 かつ	(トの)。 ※「女舞剣紅楓」の可能性もある。	
			5/17~18			(長子カ)。 ※「女舞剣紅楓」の可能性もある。	
			5/21			(長子カ)。 ※「女舞剣紅楓」の可能性もある。	
			5/22~24			(長子カ)。 ※「女舞剣紅楓」の可能性もある。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	1852	嘉永5	10/9	法善寺	三 かつ	酒屋(長子)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	1852	嘉永5	10/20	法善寺	(艶容女舞衣)	酒屋(小鞆=清六)。 ※角書「三勝/半七」。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
	1855	安政2	2/2~	京 寺町とら薬師 寺内	(艶容女舞衣)	酒や(山登=源平)。 ※角書「三かつ/半七」。 ※「かげ絵」浄瑠璃。	
	1855	安政2	10	道頓堀竹田芝 居	艶容女舞衣	酒屋の段(三国、生駒)。 ※角書「三かつ/半七」。 ※別番付には「口 竹本三国太夫、切 豊竹生駒太夫」とある。	三かつ(与十郎)、半七(小才)、半兵へ(徳三郎)、ぱゝ(福之助)、おその(冠十郎)、宗がん(音五郎)。
	1857	安政4	11上旬~	名古屋 若 宮	(艶容女舞衣)	酒屋の段(此母=直吉)。 ※角書「三かつ/半七」。	
	1859	安政6	11	法善寺丑若小 屋	艶容女舞衣	酒やのたん(口 絹=とん平、切 生駒=清吉)。 ※角書「三勝/半七」。	
	1859	安政6	11	京 四条南側大芝 居	三 かつ	酒やノ段(生駒=清吉)。	
△	1859	安政6	9/18	紀州 道成寺門前小 家	三 かつ	(筆太)。 ※「女舞剣紅楓」の可能性もある。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
	1859	安政6	10	京 寺町道場北新 小家	女 舞 衣 中の巻	三かつ/半七酒屋の段(口 緑り、切 蟻)。	
△	1860	万延1	6/19	淡州 佐 野	(艶容女舞衣)	酒や(栄=清治)。 ※角書「三かつ/半七」。 ※『弥太夫日記』に拠る。	

1862	文久2	閏8	京 寺町和泉式部 境内	艶容女舞衣	酒やノたん（口 淀、切 生駒）。 ※角書「三勝ノ半七」。	三かつ（冠三郎）、半七（辰助）、半兵へ（辰十郎）、半兵へ女房（玉丸）、おその（兵花）、宗閑（門造）。
1862	文久2	11	堺 新地南芝居	艶姿女舞衣	酒やのだん（口 咲野、切 生駒）。 ※角書「三勝ノ半七」。	三かつ（冠三郎）、半七（小玉）、半兵へ（辰十郎）、半兵へ女房（玉丸）、おその（兵花）、宗がん（門造）。
1862	文久2	11	兵庫 兵庫定芝居	艶姿女舞衣	酒やの段（口 咲の、切 生駒）。 ※角書「三勝ノ半七」。	三かつ（冠三郎）、半七（小玉）、半兵へ（辰十郎）、半兵へ女房（玉丸）、おその（兵花）、宗かん（門蔵）。
△ 1864	文久4	1/16	泉州 深 日	（艶容女舞衣）	酒屋（米）。 ※角書「三かつノ半七」。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
1864	元治1	3頃	広島カ	（艶容女舞衣）	酒屋のたん（勢見＝玉助）。 ※角書「三かつノ半七」。	
1864	元治1	12/3～	京 四条北側大芝居	（艶容女舞衣）	酒やノ段（殿母＝清二）。 ※角書「三かつノ半七」。 ※素浄瑠璃。	
1866	慶応2	3/23～	京 四条道場北ノ 小家	（艶容女舞衣）	酒や（津＝小熊）。 ※角書「三勝ノ半七」。	
1866	慶応2	9/9～	京 四条道場北の 小家	三 勝	酒やノ段（殿母＝亀助）。	
1867	慶応3	2/22～	京 四条道場北ノ 小家	艶姿女舞衣	酒やのだん（春戸＝常吉、生駒＝歌女造・琴 弥子）。	
1867	慶応3	5/5～	京 四条道場北ノ 小家	（艶容女舞衣）	酒やノ段（此母＝由松）。 ※角書「三勝ノ半七」。	
1867	慶応3	6中旬～	名古屋 清寿院御境内	女 舞 衣	酒屋のだん（蟻）。 ※人形役割の「親宗願」を「宗がん」と表記する別番付もある。	舞子三かつ（清治）、半七（清七）、半兵衛（才治）、半兵へ女房（才九）、おその（清十郎）、親宗願（金四）。
1868	慶応4	1/2～	京 四条北側大芝居	（艶容女舞衣）	酒や（春戸＝常吉）。 ※角書「三勝ノ半七」。	
1868	慶応4	8/28～	京 四条道場北ノ 小家	三 勝	酒や之段（須磨＝虎次郎）。	
1868	明治1	12/6～	京都 四条北側芝居	（艶容女舞衣）	酒や（咲賀＝大八）。 ※角書「三勝ノ半七」。 ※「外題一日替りニ相勤申候」（番付）。	

	1869	明治2	8	御 靈 芝 居	艶容女舞衣	酒屋のだん（口 国、切 靱）。 ※角書「三かつ／半七」。	三かつ（小辰）、半七（徳三郎）、半兵へ（光造）、三かつばゞ（卯の助）、おその（小兵改文三）、宗がん（東十郎）。
	1869	明治2	12/10～	京都 北側大芝居	（艶容女舞衣）	酒や（織）。 ※角書「三かつ／半七」。	
△	1869	明治2	12	兵庫	葉手姿女舞衣	※『義太夫年表 明治篇』欄外記事に拠る。	
	1871	明治4	9	いなり文らく 芝居	艶容女舞衣	酒屋のだん（中 弥、切 古靱）。 ※角書「みのや三かつ／あかねや半七」。 ※「九月廿七日ヨリ卅五日間」（『義太夫年表 明治篇』）。 ※「二日目（廿八日）古靱太夫急病二付キ、酒屋ノ段切場、弥太夫代役、千秋楽マデ好評」（『義太夫年表 明治篇』）。 ※「番附ノ右欄外ニ初メテ文楽芝居ト記ス」（『義太夫年表 明治篇』）。	みのや三かつ（玉之助）、茜や半七（小兵吉）、茜や半兵衛（玉造）、おその（辰造）、親宗岸（喜十郎）。
△	1872	明治5	3	天神芝居跡新 席	（艶容女舞衣）	酒や。 ※太夫 竹本山四郎。 ※『早稲田大学演劇博物館所蔵 特別資料目録10 千葉胤男（辻町）文庫 古浄瑠璃・義太夫節篇』に拠る。	
	1873	明治6	1/5～	京都 道 場 芝 居	艶容女舞衣	酒や之段（織登、織＝団六）。 ※角書「三勝／半七」。	
	1873	明治6	5	堀 江 新 席	（艶容女舞衣）	酒屋の段（琴＝竜糸）。 ※角書「三勝／半七」。	
	1874	明治7	4	道頓堀竹田芝 居	艶客（マ マ）女舞衣	酒屋のだん（中 津、切 古靱）。 ※角書「三かつ／半七」。	三かつ（新三郎）、酒や半兵へ（光造）、半兵へ女房（為十郎）、女房おその（喜十郎）、宗眼（金四）。
	1874	明治7	12	堺 宿 院 芝 居	艶客（マ マ）女舞衣	酒やのだん（中 津、切 古靱）。 ※角書「三勝／半七」。	三かつ（新三郎）、茜や半七（兵枝）、酒や半兵へ（千次郎）、酒や半兵へ女房（勢造）、女房おその（辰造）、宗がん（光造）。
	1875	明治8	5	名古屋 亀 の 家 座	三 勝	酒や（君＝時造）。 ※「浄瑠璃大寄」の内。	
	1875	明治8	7/1～	名古屋 亀 の 家 座	（艶容女舞衣）	酒やノ段（織の＝宗十郎）。 ※角書「三勝／半七」。 ※「浄瑠璃大寄」の内。	
	1875	明治8	7	名古屋 橘 座	（艶容女舞衣）	酒屋のだん（古靱＝清六）。 ※角書「三勝／半七」。 ※太夫 豊竹古靱太夫。	
	1875	明治8	7	名古屋 橘 座	（艶容女舞衣）	酒屋（十三＝広勝）。 ※角書「三かつ／半七」。 ※太夫 豊竹古靱太夫。	
	1875	明治8	1/11	竹 田 芝 居	（艶容女舞衣）	酒屋（小浜＝音次郎）。 ※素浄瑠璃。	
	1876	明治9	1/6	御 靈 裏 門 席	三勝半七	酒屋の段（小組＝仙治郎）。	

	1877	明治10	2/13~	弁天座	三勝半七	酒屋(古靱)。 ※「過し日の／其年月も／めぐり来て 連営手向の薫樹 礼拝三度」の内。故人太鼓卯之助追善。 ※初日は役割番付欄外の墨書に拠る。	
	1877	明治10	3/18~	座摩裏門新席	(艶容女舞衣)	酒屋の段(若=豊造)。 ※角書「三勝／半七」。 ※浄瑠璃糸操り。	
	1879	明治12	1/10	ばくろ町いなり北門定小家	艶容女舞衣	酒やのだん(宮、綱)。 ※角書「三勝／半七」。	みのや三かつ(喜市)、あかねや半七(光栄事栄蔵)、茜や半兵へ(光造)、酒やは(喜十郎)、女房おその(才治)、宗がん(金四)。
	1880	明治13	2/1~	京都 せいくわし本堂まへ	艶姿女舞衣	酒屋ノ段(君=時造)。 ※角書「三かつ／半七」。 ※浄瑠璃身振。	
△	1882	明治15	9	名古屋 真本座	女舞衣	酒屋の段(綱代=市十郎)。 ※角書「三勝／半七」。 ※浄瑠璃身振。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	1884	明治17	11/24~	彦六座	艶姿女舞衣	酒屋のだん(中 雛、切 住)。 ※角書「三かつ／半七」。 ※「十一月廿五日ヨリ十二月十八日マデ」(『千賀女日記』)。 ※『義太夫年表 明治篇』欄外記事(豊沢団平妻、千賀女日記)には「団平持役、盛衰記三段目柳適太夫、酒屋大隅」とある。	三勝(喜市)、あかねや半七(玉松)、酒や半兵へ(兵吉)、半兵へ女房(小三)、おその(才治)、宗岸(三吾)。
	1885	明治18	4/17	京都 南側劇場	(艶容女舞衣)	酒屋の段(住=勝七)。 ※角書「三かつ／半七」。 ※彦六座。	
	1887	明治20	7/24	名古屋 千歳座	(艶容女舞衣)	酒屋の段(住=勝七)。 ※角書「三かつ／半七」。	
		7/30	三勝半七		酒屋の段(朝=仙治郎)。 ※竹本住太夫・柳適太夫一座。		
△	1888	明治21	1/29	京都 南側劇場	三かつ半七	酒屋の段(綾=小重)。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1888	明治21	1/29	名古屋 末広座	三かつ半七	酒屋の段(越路)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1888	明治21	7/27	名古屋 千歳座	三勝半七	酒屋場(綾=勝鳳)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1889	明治22	1/26	京都 北の劇場	三勝半七	酒屋の段(越路=吉兵衛)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1889	明治22	8/6 8/18	京都 北側演劇場	三勝半七	酒屋の段(越路=広助)。 酒屋の段(綾=勝鳳)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

△	1889	明治22	12/18	名古屋 千歳座	三勝半七	酒屋の段（越路＝広助）。 ※竹本越路太夫・豊沢広介一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1890	明治23	2/19	名古屋 千歳座	三勝半七	酒屋の段（朝）。 ※大阪彦六座、朝太夫・広作一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1890	明治23	3/21	京都 南劇場	三勝半七	酒屋の段（朝＝広作）。 ※大坂彦六座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1890	明治23	4/24	名古屋 千歳座	三勝半七	酒屋の段（朝＝広作）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1890	明治23	5/8	京都 北側劇場	三勝半七	酒屋段（綾）。 ※大坂文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1890	明治23	12/2 12/7	名古屋 千歳座	三勝半七	酒屋の段（朝）。 酒屋の段（七五三）。 ※竹本組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1891	明治24	1/11	名古屋 末広座	三勝半七	酒屋（越路＝広助）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1891	明治24	1/25	京都 北座	達姿女舞衣	三勝／半七酒や（越路）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1891	明治24	8/4	京都 道場座	女舞衣艶姿	酒屋（高尾＝才吉）。 ※竹本津太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1891	明治24	8/17	京都 北座	女舞衣艶姿	酒屋（越路＝広助）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	1891	明治24	10	御霊文楽座	艶容女舞衣	酒屋の段（中谷、切越路）。 ※角書「美のや三かつ／阿かねや半七」。 ※「十月一日ヨリ十一月三日マデ卅二（卅一）日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	美のや三かつ（卯三郎）、茜や半七（金之助）、茜や半兵衛（玉助）、半兵衛女房（玉亀）、おその（玉造）、親宗岸（玉治）。
△	1892	明治25	7/26 7/30 7/31	名古屋 千歳座	三勝半七 三かつ半七	酒屋の段（小隅＝宗太郎）。 酒屋（高尾＝安次郎）。 酒屋の段（越＝吉弥）。 ※文楽・彦六両座合併。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1892	明治25	8/13	名古屋 笠屋座	三かつ半七	酒屋（高尾）。	

		8/18	天 備 座	三勝半七	酒屋（相生）。 ※相生太夫・久太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1892	明治25	8/14	京都 北 座	（艶容女舞衣） 三勝／半七酒屋の段（越路＝広助）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助・其外文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1892	明治25	8/15	名古屋 千 歳 座	三勝半七 （朝＝仙次郎）。 ※竹本朝太夫・豊竹新朝太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	1892	明治25	11	彦 六 座	艶姿女舞衣 酒屋のだん（中 芳、切 越）。 ※角書「三勝／半七」。	三かつ（紋之助）、半七（栄三）、半兵衛（光造）、女房（三吾）、嫁お園（亀松）、宗岸（門造）。
△	1893	明治26	8/2 8/10	名古屋 末 広 座	三勝半七 酒屋の段（越路＝広助）。 酒屋の段（高尾＝安次郎）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1893	明治26	8/18	京都 南 座	三勝半七 酒屋（越路＝広助）。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1893	明治26	10/11 10/15	名古屋 音 羽 座	三勝半七 酒屋の段（殿母＝芳三郎）。 酒屋（橋＝宗七）。 ※竹沢弥七一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1893	明治26	10/16	名古屋 千 歳 座	三勝半七 酒屋（伊達）。 ※大隅太夫・豊沢団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1894	明治27	2/1	京都 南 座	（艶容女舞衣） 酒屋（越路）。 ※角書「三勝／半七」。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1894	明治27	2/14	京都 南 座	三勝半七 酒屋（菅）。 ※彦六一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1894	明治27	7/14	名古屋 新 守 座	三勝半七 酒屋の段（綾＝勝七）。 ※綾太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1894	明治27	7/25	名古屋 宝 生 座	三勝半七 酒屋（綾）。 ※綾太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	1894	明治27	10/1～	御霊文楽座	艶姿女舞衣 酒屋のだん（中 綾、切 越路）。 ※「十月一日ヨリ十一月六日マデ卅五日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	三かつ（卯三郎）、茜屋半七（金之助）、親半兵衛（玉治）、半兵衛女房（亀松）、女房おその（玉造）、宗岸（玉助）。

△	1894	明治27	12/20	京都南座	(艶容女舞衣)	酒や(浪友)。 ※角書「三勝ノ半七」。 ※呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	1895	明治28	6/18~	稲荷座	艶容女舞衣	酒屋のだん(口雛、切越=*吉弥)、道行(角・一)。 ※角書「三かつノ半七」。 ※「本興行限り七代吉弥・吉子退座」(『義太夫年表 明治篇』)。	三勝(簗助)、酒や半七(栄三)、半兵卫(駒十郎)、半兵衛女房(松江)、女房おその(玉米)、宗岸(清十郎)。
△	1895	明治28	6/29	東京新声館	三勝半七	酒屋の段(綾瀬=豊吉)。 ※義太夫大演芸会第1回。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	
△	1895	明治28	8/10	名古屋千歳座	三勝半七	酒屋(高尾=花助)。 ※大坂文楽、豊竹呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1896	明治29	2/1 2/4 2/12	名古屋千歳座	三勝半七	酒屋(越=小团治)。 酒屋の段(菅=森助)。 酒や(綾登=松之助)。 ※竹本越太夫・七五三太夫・新靱太夫・菅太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1896	明治29	2/15 2/16	名古屋千歳座	三勝半七	酒や(綾登)。 酒屋(越)。 ※竹本越太夫。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1896	明治29	7/28	京都南座	三勝半七	酒屋(越路=広助)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※「本日は節季に付き一日休み明一日より引続き興行し、越路太夫は『先代萩』御殿場を語り、又持病の為め両三日欠勤し居りし広助も同日より出勤する由」(「日出新聞」7月31日)。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1896	明治29	8/4	名古屋末広座	三勝半七	酒屋の段(伊達=友松)。 ※大隅太夫・団平一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1896	明治29	12/18	名古屋千歳座	三勝半七	酒屋(伊達=友松)。 ※竹本越太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	1897	明治30	1	御霊文楽座	艶容女舞衣	上塩町酒屋のだん(中路、切越路)。 ※「一月二日ヨリ三月十二日迄四十二(四十)日間(一月十三日英照皇太后薨去二ツキ二月八日迄休ミ)」(『義太夫年表 明治篇』)。	三かつ(紋之助)、半七(助太郎)、親半兵衛(玉治)、半兵衛女房(玉五郎)、女房おその(紋十郎)、舅宗岸(玉造)。
△	1897	明治30	3/6	名古屋音羽座	三勝半七	酒屋(相生=大造)。 ※竹本相生太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

△	1897	明治30	3/16	名古屋 音羽座	三勝半七	酒屋（綾＝大七）。 ※前項の二の替り。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1897	明治30	4/13	名古屋 音羽座	三勝半七	酒屋の段（小綱）。 ※愛知浄瑠璃因社による「浄瑠璃大会」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1897	明治30	7/9	名古屋 千歳座	三勝半七	酒屋（朝＝松太郎）。 ※竹本組太夫・朝太夫・住太夫・伊達太夫合併大一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1897	明治30	7/17	名古屋 宝生座	三勝半七	酒屋（伊達＝友松）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1897	明治30	7/27	京都 南座	三勝半七	酒屋の段（越路＝広助）。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1897	明治30	11/28	京都 南座	（艶容女舞衣）	酒屋の段（さの）。 ※角書「三勝／半七」。 ※竹本さの太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	1898	明治31	2	稲荷座	艶容女舞衣	上塩町酒屋のだん（伊達＝*友松、此所人形出つかひにて御覧に入申候）。 ※角書「美濃や三勝／茜屋半七」。	美濃や三勝（三十郎）、茜屋半七（鶴松）、茜屋半兵へ（駒十郎）、茜屋ばゞ（玉子）、嫁おその（清十郎）、宗岸（玉松）。
△	1898	明治31	5/8	名古屋 宝生座	三勝半七	酒屋（路＝団六）。 ※路太夫・山城太夫・鶴尾太夫・三味線 団六・大三郎・卯三郎一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1898	明治31	8/7 8/10	京都 南座	三勝	酒屋（文字）。 酒屋（高尾）。 ※竹本文字太夫（佐野太夫改め）・竹本文太夫・竹本七五三太夫・竹本高尾太夫等の一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1898	明治31	8/22	名古屋 御園座	三勝半七	酒屋（文字＝猿系）。 ※大阪文楽座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1898	明治31	8/25	弁天座	三勝半七	酒屋（春子）。 ※稲荷座連中。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	1898	明治31	9/6	中劇場	三勝半七	酒屋（高尾）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	1898	明治31	12/15	名古屋 宝生座	三勝半七	酒屋（朝＝松太郎）。	

		12/19	御園座		(一=松吉)。 ※大阪 大隈(ママ)太夫一座・東京 朝太夫一座による「京阪合併浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	1899	明治32	1/15	京都南座	三勝半七	酒屋(春子)。 ※柳適太夫・春子太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1899	明治32	3/9	名古屋末広座	三勝半七	酒屋(春子=新左衛門)。 ※大阪稻荷座若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1899	明治32	4/25	名古屋西栄座	三勝半七	酒屋(春子)。 ※春子太夫・新左衛門一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1899	明治32	7/19	京都南座	三かつ	長町内の段(小さの=吉子)。 ※「女舞剣紅楓」の可能性もある。	
					(艶容女舞衣)	酒屋の段(越路=吉兵衛)。 ※角書「三勝/半七」。	
					三勝半七	酒屋(南部=吉作)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1899	明治32	12/24	京都南座	(艶容女舞衣)	酒屋の段(越路=吉兵衛)。 ※角書「三勝/半七」。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	1900	明治33	1/1	御霊文楽座	艶容女舞衣	上塩町酒屋のだん(中源、切越路)。 ※「一月一日ヨリ二月廿日マデ五十日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	傾城三勝(紋之助)、半七(栄三)、親半兵衛(玉治)、半兵衛女房(三吾)、女房おその(紋十郎)、宗岸(金之助)。
△	1900	明治33	7/25	京都南座	三勝半七	酒屋の段(越路)。	
					7/30	酒屋(南部)。 ※文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1900	明治33	8/9	名古屋末広座	三勝半七	酒屋(文字=猿系)。	
					8/13	酒屋(小富)。 ※大阪文楽座、竹本文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	1900	明治33	10/31~	明楽座	艶容女舞衣	上塩町酒屋のだん(中長子、切住)。 ※角書「三かつ/半七」。	みのや三かつ(兵枝)、茜屋半七(兵之助)、親半兵衛(門造)、酒屋女房(友造)、おその(清十郎)、親宗岸(冠二)。
△	1900	明治33	12/5	名古屋末広座	三勝半七	酒屋(住=小団二)。	
					12/14	酒屋(雛=猿九郎)。	

		12/15			長町腹切（一＝富子）。 ※明楽座一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		
△	1901	明治34	2/1	名古屋 御園座	三勝	酒屋（小隅＝力松）。 ※竹本組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1901	明治34	5/30	天満座	三勝半七	酒屋（文字）。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	1901	明治34	6/7	名古屋 千歳座	三勝半七	酒屋（伊達）。	
			6/16		（艶容女舞衣）	酒屋段（谷路）。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1901	明治34	7/22	名古屋 歌舞伎座	三勝半七	長町の段（さの）。 ※越路太夫・文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1901	明治34	8/3	京都 南座	三勝半七	長町（さの）。	
			8/4		艶姿女舞衣	酒屋（越路）。	
			8/9			酒屋（南部）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1901	明治34	8/16	京都 幾代亭	三勝	酒屋（小隅）。	
			8/24		三勝半七	酒屋（谷路）。 ※組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1901	明治34	8/22	名古屋 末広座	三勝半七	酒屋の場（春子＝猿治郎）。 ※大坂明楽座、竹本大隅太夫・鶴沢叶一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1901	明治34	12/5	名古屋 末広座	三勝半七	酒屋（朝＝松太郎）。	
			12/12			酒屋（住＝小団二）。 ※住太夫・朝太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1901	明治34	12/7	東京 歌舞伎座	三勝半七	酒屋（伊達＝友松）。 ※大隅太夫一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	1902	明治35	2/22	名古屋 御園座	三勝半七	酒屋の段（文字＝吉弥）。 ※大阪文楽座、文字太夫・吉弥一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1902	明治35	4/4	名古屋 末広座	三勝半七	酒屋（生島＝仙十郎）。 ※竹本七五三太夫・生島太夫・さの太夫・三味線 豊沢新左衛門・仙十郎・外十数名。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

	1902	明治35	5/27~	明 楽 座	艶姿女舞衣	酒屋のだん（中 此、切 大隅=叶・琴 富太郎）。 ※角書「三かつ／半七」。	三かつ（新三郎）、茜屋半七（玉治郎）、茜屋半兵衛（友造）、酒屋婆々（清十郎）、嫁おその（玉五郎）、親宗岸（玉松）。
△	1902	明治35	5/31	京 都 岩 神 座	三勝半七	（文字=吉弥）。 ※大阪文楽座、文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1902	明治35	8/4	京 都 南 座	（艶容女舞衣）	酒屋（文字=吉弥）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1902	明治35	8/24	京 都 歌 舞 伎 座	三勝半七	酒屋（隅）。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1902	明治35	8/30	京 都 岩 神 座	三勝半七	酒屋（大隅）。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	1902	明治35	12/7	兵 庫 朝 日 座	三勝半七	酒屋のだん（文字=吉弥）。	みのや三勝（紋太郎）、茜屋半七（玉丸）、茜屋半兵衛（玉朝）、酒屋ばゞ（紋之助）、嫁おその（玉助）、親宗岸（玉治）。
△	1902	明治35	12/17	名 古 屋 千 歳 座	三勝	酒屋（住）。	
			12/21		（艶容女舞衣）	酒屋（住）。 ※「大坂文楽明楽合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1902	明治35	12/20	京 都 夷 谷 座	三勝半七	酒屋（春子）。 ※組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1903	明治36	3/12	名 古 屋 歌 舞 伎 座	三勝	酒屋（路=浜右衛門）。 ※「大坂文楽座竹本越路太夫改め竹本春太夫門人若手一座」（「新愛知」3月10日）。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1903	明治36	7/27	天 満 座	三勝半七	酒屋（大隅）。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	（不明）
△	1903	明治36	8/12	名 古 屋 御 園 座	三勝半七	酒屋ノ段（越路=吉弥）。 ※竹本文字太夫改三代目竹本越路太夫改名披露。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1903	明治36	8/30	京 都 南 座	（艶容女舞衣）	酒屋（越路=吉弥）。	
			9/9			酒屋（南部=寛次郎）。 ※文字太夫改め越路太夫・むら太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1903	明治36	9/15	京 都 千 本 座	（艶容女舞衣）	酒屋（越路）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

△	1903	明治36	9/21~27	京都 南 座	女舞衣	酒屋（雛＝団丸）。 ※玉造・紋十郎一座。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	三勝（玉六）、半七（紋太郎）、半兵衛（玉亀）、半七母（紋之助）、お園（助太郎）、惣岸（玉次郎）。
△	1903	明治36	12/6	名古屋 千 歳 座	（艶容女舞衣）	酒屋（生嶋）。 ※大坂明楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	1904	明治37	6	御霊文楽座	艶容女舞衣	上塩町酒屋のだん（中 時、切 津＝猿糸）。 ※「六月七日ヨリ七月三日マデ廿五日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	三かつ（栄三）、茜屋半七（玉六）、親半兵衛（三吾）、半平べ女房（紋之助）、女房おその（紋十郎）、親宗岸（玉助）。
△	1904	明治37	7/18 7/25	名古屋 御 園 座	三勝半七	酒屋（越路）。 酒屋（時）。 ※越路太夫・文太夫・南都太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1904	明治37	7/30 8/9	京都 歌 舞 伎 座	（艶容女舞衣）	酒屋（越路＝吉弥）。 酒屋（南部＝寛次郎）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1904	明治37	8/15	京都 千 本 座	（艶容女舞衣）	酒屋（越路）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1904	明治37	9/16	天 満 座	（艶容女舞衣）	酒屋（越路）。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	1904	明治37	9/17	名古屋 歌 舞 伎 座	三かつ半七	酒屋段（伊達）。 ※竹本大隅太夫・伊達太夫・長子太夫・綴太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1904	明治37	12/15 12/23	東京 歌 舞 伎 座	三勝半七	酒屋（摂津大掾＝吉兵衛）。 酒屋（南部＝寛治郎）。 ※大阪文楽義太夫一座。23日は「慈善興行」。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	1904	明治37	12/19	角 座	（艶容女舞衣）	酒屋（大隅）。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	1905	明治38	1/17 1/26	京都 朝 日 座	（艶容女舞衣）	酒屋（伊達＝市二郎）。 酒屋（葉＝団三郎）。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1905	明治38	2/18	名古屋 新 守 座	艶容女舞衣	三勝半七酒屋の段（越路＝吉弥）。 ※竹本住太夫・竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	1905	明治38	3	御霊文楽座	艶容女舞衣	酒屋のだん（中 南部、切 摂津大掾）。 ※「三月一日ヨリ四月五日マデ卅六日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	三かつ（政亀）、茜屋半七（玉六）、半兵衛（門造）、半兵衛女房（玉五郎）、おその（紋十郎）、親宗岸（玉助）。

△	1905	明治38	6/6	京都 岩神座	(艶容女舞衣)	酒屋(伊達)。 ※竹本伊達太夫・竹本長子太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1905	明治38	7/9	名古屋 新守座	三勝半七	酒屋(富)。 ※竹本文太夫一座による「大阪/文楽若手浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1905	明治38	7/20	東京 歌舞伎座	(艶容女舞衣)	酒屋(大隅=清六)。 ※竹本大隅太夫一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	1905	明治38	8/20	京都 南座	(艶容女舞衣)	酒屋(南勢)。 ※大阪文楽座青年連、南部太夫・猿糸一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1905	明治38	9/5	名古屋 千歳座	女舞衣	長町の段(南勢)。	
			9/6		三勝半七	酒屋の段(南部)。 ※大阪両座撰抜若手揃浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1905	明治38	12/11	京都 明治座	(艶容女舞衣)	酒屋(摂津大掾=広助)。 ※撰津大掾・大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1906	明治39	2/6	京都 南座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1906	明治39	2/12	京都 南座	(艶容女舞衣)	酒屋(さの)。 ※故紫福七回忌追悼の浄瑠璃会。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1906	明治39	2/18	京都 岩神座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	1906	明治39	7/1~	堀江座	艶容女舞衣	上塩町酒屋のだん(中角、切春子、此所人形出遣いにて御覧に入候)、道行のだん(角・一・組栄・一子・敷嶋)。 ※角書「三かつ/半七」。	三かつ(小兵吉)、半七(玉市)、酒屋半兵へ(玉治)、酒屋の婆々(兵三)、おその(玉松)、親宗岸(兵吉)。
△	1906	明治39	7/27	京都 歌舞伎座	(艶容女舞衣)	酒屋(南部)。	
			8/1			酒屋(叶)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1906	明治39	8/4	名古屋 末広座	三勝半七	酒屋(越路=吉弥)。	
			8/7		女扇(ママ)衣	長町(さの)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1906	明治39	8/9	京都 工太座	(艶容女舞衣)	酒屋(津磨)。	

		8/10	下平座	女)	酒屋(南部)。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。
△	1906	明治39	8/9	名古屋 歌舞伎座	三勝半七 酒屋(春子=新左衛門)。 ※竹本津ばめ太夫ほかによる「大阪若手浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
△	1906	明治39	12/3	名古屋 末広座	三勝半七 酒屋(朝=松太郎)。
		12/7	(艶容女舞 衣)		酒屋(朝登)。
		12/8			酒屋(住=龍助)。 ※朝太夫・松太郎一座、住太夫・龍助一座による「合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
△	1907	明治40	8/8	京都 南座	(艶容女舞 衣) 酒屋(摂津大掾=広助)。 ※摂津大掾一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。
△	1907	明治40	12/11	名古屋 御園座	三勝半七 酒屋の段(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫・メ太夫・南部太夫・時太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
△	1907	明治40	12/20	名古屋 末広座	三勝半七 酒屋(住=龍助)。 ※「大阪文楽/堀江両座合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
△	1908	明治41	2/1	南地演舞場	(艶容女舞 衣) 酒屋(富)。 ※第1回浄瑠璃奨励若葉会。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。
△	1908	明治41	2/27	京都 歌舞伎座	三勝半七 酒屋(南部)。 ※大阪文楽・堀江両座合併若手連。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。
△	1908	明治41	4/12	名古屋 末広座	三勝半七女 舞衣 酒屋の段(伊達=吉三郎・琴団吾)。 ※「大坂堀江座大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
△	1908	明治41	7/12	名古屋 御園座	三勝半七 酒屋(摂津大掾=広助)。 ※大阪文楽一座。竹本摂津大掾名古屋一世一代。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
△	1908	明治41	8/8	京都 南座	三勝半七 酒屋(伊達)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。
△	1908	明治41	8/18	中座	(艶容女舞 衣) 酒屋(伊達)。 ※竹本大隅太夫・豊沢団平一座。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。
△	1908	明治41	9/6	京都 南座	(艶容女舞 衣) 酒屋(越路=吉兵衛)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。

△	1908	明治41	9/18	京都 岩神座	(艶容女舞衣)	酒屋(鏝)。 ※文太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1908	明治41	12/9	名古屋 御園座	三勝半七	酒屋(叶=吉松)。 ※「大阪文楽・堀江合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1908	明治41	12/11	東京 歌舞伎座	(艶容女舞衣)	酒屋(摂津大掾=広助)。 ※竹本摂津大掾一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	1908	明治41	12/23	京都 歌舞伎座	(艶容女舞衣)	酒屋(南部=寛次郎)。 ※大阪文楽若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	1909	明治42	1/2~	堀江座	艶容女舞衣	酒屋のだん(中角、切春子)、道行のだん(角・静・敷島・湖・隅栄・初音・新菅・春代、此所人形出遣いにて御覧に入申候)。 ※角書「三勝ノ半七」。	三かつ(政亀)、酒屋半七(玉市)、酒屋半兵へ(紋三)、酒やばゞ(兵三)、おその(簀助)、親宗岸(兵吉)。
△	1909	明治42	2/16	京都 南座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※文楽一座、越路太夫・村太夫・南部太夫・呂太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	1909	明治42	5/16~	御霊文楽座	艶容女舞衣	酒屋のだん(中時、切摂津大掾)。 ※「五月十六日ヨリ六月十三日マデ廿九日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	三かつ(三左衛門)、半七(琴糸)、半兵衛(玉治)、半兵衛女房(三吾)、おその(紋十郎)、親宗岸(門造)。
△	1909	明治42	8/15~	松山 新栄座	(艶容女舞衣)	酒屋。 ※「春子太夫の伊予行大成功…(中略)…十一日間興行し、同地にて是迄に無き大当りを占め、日本一の酒屋の出番の如きは、楽屋迄聴客詰るあり様にてありき」(『浄瑠璃雑誌』第78号)。 ※『義太夫年表 明治篇』欄外記事、『浄瑠璃雑誌』第78号に拠る。	
△	1909	明治42	8/18カ	名古屋 御園座	(艶容女舞衣)	酒屋の段(越路)。 ※『御園座七十年史』に拠る。	
△	1909	明治42	8/19	京都 岩神座	(艶容女舞衣)	酒屋(鏝)。 ※大阪文楽座、染太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1909	明治42	8/22~	常盤座	(艶容女舞衣)	酒屋(里)。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	1909	明治42	9/1	京都 南座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽一座、越路太夫・南部太夫・鶴尾太夫・常子太夫・古靱太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1909	明治42	9/10 9/14	京都 国華座	(艶容女舞衣)	酒屋(三根=団七)。 酒屋(二葉=金之助)。 ※東阪合同浄瑠璃会。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

△	1909	明治42	12/5	角座	三勝	酒屋（伊達）。 ※堀江座連による「浄瑠璃会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	1910	明治43	2/4	名古屋 千歳座	（艶容女舞衣）	酒屋（鳴門＝善次郎）。 ※呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1910	明治43	2/16	京都 明治座	（艶容女舞衣）	酒屋（越路＝吉兵衛）。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	1910	明治43	5/14～	御霊文楽座	艶容女舞衣	長町みのやのだん（口葉、奥南部）、上塩町酒屋のだん（中源＝*勝太郎、切越路＝吉兵衛）。 ※「五月十四日より十二日マデ卅（廿九）日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	三かつ（三左衛門）、茜屋半七（紋之助）、親半兵衛（玉治郎）、半兵衛女房（玉五郎）、女房おその（紋十郎）、親宗岸（助太郎）。
△	1910	明治43	7/4	名古屋 末広座	三勝半七	酒屋（伊達＝吉三郎）。 ※大隅太夫・団平一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1910	明治43	7/16	名古屋 御園座	三かつ半七	酒屋（越路＝吉兵衛）。 ※大阪文楽座附竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	
△	1910	明治43	8/1	京都 南座	（艶容女舞衣）	酒屋（越路＝吉兵衛）。 ※文楽一座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1910	明治43	8/13	京都 国華座	三勝	酒屋（越路＝吉兵衛）。 ※越路太夫・津太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1910	明治43	8/24	京都 歌舞伎座	女舞衣	酒屋（南部）。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1910	明治43	9/5	京都 岩神座	（艶容女舞衣）	酒屋（南部）。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1910	明治43	12/12	名古屋 御園座	三かつ半七	酒屋の段（越路＝吉兵衛）。 ※大阪文楽座、越路太夫・七五三太夫・古靱太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1911	明治44	3/22	名古屋 御園座	（艶容女舞衣）	酒屋（南部＝猿糸）。 ※竹本南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	1911	明治44	4/1～	堀江座	艶容女舞衣	酒屋のだん（中角、切伊達）、道行のだん（菅・組栄・薫・隅の・雛子、此所人形出遣いにて御覧に入申候）。 ※角書「三かつ／半七」。 ※「角太夫相三味線富太郎ノ代役仙之助」（『義太夫年表 明治篇』）。	美濃屋三かつ（政亀）、茜屋半七（小兵吉）、酒屋半兵衛（駒十郎）、半兵衛女房（冠四）、嫁おその（玉造）、親宗岸（兵吉）。

△	1911	明治44	5/12	繁栄座	(艶容女舞衣)	酒屋(大島)。 ※座主江田孫太郎還暦祝演芸会。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	1911	明治44	5/27~6/4	京都 京都座	(艶容女舞衣)	酒屋(春子=新左衛門)。 ※大隅太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	(不明)
△	1911	明治44	7/6	京都 歌舞伎座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※越路一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1911	明治44	8/13	浪花座	三勝	酒屋(南部)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	1911	明治44	9/4	京都 南座	(艶容女舞衣)	酒屋(南部=猿糸)。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1911	明治44	9/9	京都 岩神座	(艶容女舞衣)	酒屋(南部)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1911	明治44	10/9	名古屋 末広座	(艶容女舞衣)	酒屋(春子=新左衛門)。 ※「大阪堀江座大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1911	明治44	10/14~	名古屋 吾妻座	三勝半七	※大阪初上り 吉田清五郎一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1911	明治44	12/18	名古屋 御園座	三勝半七	酒屋(越路)。 ※越路太夫・南部太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	1912	明治45	3/1~	近松座	艶容女舞衣	長町美濃屋のだん(錦=*竹三郎)、酒屋のだん(中 録=*吉作、切春子=*新左衛門)。 ※角書「三かつ/半七」。	美濃屋三かつ(政亀)、茜屋半七(玉市)、茜屋半兵衛(駒十郎)、半兵衛女房(冠四)、嫁おその(玉造)、親宗岸(兵吉)。
△	1912	明治45	4/12	京都 開盛座	(艶容女舞衣)	酒屋(録)。 ※近松座若手連中。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1912	明治45	7/16	浪花座	三勝	酒屋(越路)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	1912	大正1	10/11	京都 開盛座	(艶容女舞衣)	酒屋(蒼=宗三郎)。 ※文楽座、呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1912	大正1	12/3	東京 新富座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※『演芸倶楽部』(大正2年1月号)に拠る。	

△	1913	大正2	2/9	京都 南座	(艶容女舞衣)	酒屋(春子)。 ※大阪近松座引越し、大隅一派。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1913	大正2	2/22	名古屋 末広座	(艶容女舞衣)	酒屋(伊達=徳太郎)。 ※大隅太夫・団平、伊達太夫・徳太郎、錦太夫・仙市、ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1913	大正2	6/21~26	東京 有楽座	(艶容女舞衣)	酒屋(春子)。 ※近松座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	1913	大正2	7/1	京都 京都座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路)。 ※大阪文楽座連、越路太夫・吉兵衛。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	1913	大正2	10/26~	御霊文楽座	艶容女舞衣	酒屋のだん(中呂、切越路=吉兵衛)。 ※「二十三日間、十一月十六日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	三勝(玉吉)、茜屋半七(紋枝)、半兵衛(文三)、半兵衛女房(駒十郎)、おその(栄三)、宗岸(多為蔵)。
△	1913	大正2	11/8	名古屋 帝国座	(艶容女舞衣)	酒屋(伊達=猿二郎)。 ※近松座、竹本伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1913	大正2	11/25	京都 明治座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1913	大正2	12/5	東京 新富座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	1913	大正2	12/8	東京 明治座	(艶容女舞衣)	酒屋(勇=助三郎・琴小団)。 ※近松座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	1913	大正2	12/14	名古屋 御園座	三勝半七	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※竹本越路太夫・野沢吉兵衛一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1914	大正3	7/16	京都 南座	(艶容女舞衣)	酒屋(伊達)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1914	大正3	8/1	東京 新富座	(艶容女舞衣)	酒屋(伊達=仙糸)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
	1914	大正3	10/3~	近松座	艶容女舞衣 一巻	酒屋のだん(中三笠=大之助、切春子=新左衛門・琴新之助)。 ※角書「三勝ノ半七」。	三かつ(玉米)、茜屋半七(玉徳)、酒屋半兵衛(兵三)、半兵衛女房(冠四)、嫁おその(文五郎)、親宗岸(兵吉)。
	1915	大正4	1/2~	御霊文楽座	艶容女舞衣	酒屋のだん(中録=*勝平、切伊達=吉三郎)、道行のだん(淀・越見・源路・和・南治=*勇造・*兵内・*卯三郎・*吉右・*吉雄)。 ※「三十二日間、二月二日打上(大入十五日間)」(『義太夫年表 大正篇』)。	みのや三かつ(玉七)、茜屋半七(政亀)、茜屋半兵衛(文三)、半兵衛女房(玉五郎)、おその(文五郎)、親宗岸(多為蔵)。

△	1915	大正4	7/1	京都 南座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1915	大正4	7/9	浪花座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	1915	大正4	7/17	名古屋 御園座	三勝半七	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※越路太夫一行。素浄瑠璃。 ※『義太夫年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	
	1915	大正4	9/15~	御霊文楽座	艶容女舞衣	酒屋のだん(中 駒=*三二、切 南部=*寛治郎)。 ※「二十五日間、九月三十日節季休、十月一日返り初日、十日打上」 (『義太夫年表 大正篇』)。	美濃屋三勝(政亀)、茜屋半七(紋三)、茜屋半兵衛(駒十郎)、半兵へ女房(玉五郎)、女房おその(栄三)、親宗岸(文三)。
△	1915	大正4	12/3	名古屋 御園座	(艶容女舞衣)	酒屋の段(越路=吉兵衛)。 ※大阪御霊文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	(不明)
△	1915	大正4	12/12	名古屋 末広座	(艶容女舞衣)	酒屋(伊達=吉三郎)。 ※竹本伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	おその(文五郎)。
△	1915	大正4	12/19	東京 新富座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	1916	大正5	5/9	名古屋 末広座	三勝半七	酒屋(春子=新左衛門)。 ※竹本春子太夫・鶴沢寛六等外十数名の大一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1916	大正5	7/4	京都 南座	三勝半七	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1916	大正5	7/12	浪花座	(艶容女舞衣)	酒屋(朝=松太郎)。 ※竹本朝太夫・豊沢松太郎・近松座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	1916	大正5	8/3	京都 明治座	三勝半七	酒屋(朝)。 ※竹本朝太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1916	大正5	8/11	名古屋 末広座	(艶容女舞衣)	酒屋(朝=松太郎・琴 芳太郎)。 ※東京 竹本朝太夫・豊沢松太郎一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1916	大正5	9/23	名古屋 明治座	三勝	(駒)。 ※豊竹呂太夫一座。 ※「女舞剣紅楓」の可能性もある。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1916	大正5	12/7	東京 歌舞伎座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	

△	1917	大正6	5/4	名古屋 末広座	(艶容女舞衣)	酒屋(鏝=徳太郎)。 ※豊竹古鞠太夫・鶴沢清六一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	1917	大正6	5/20~	御霊文楽座	艶容女舞衣	長町美のやのだん(口八十、奥南部=*寛治郎)、酒屋のだん(中源=*勝市、切越路=吉兵衛)。 ※角書「三勝/半七」。 ※「六月十三日打上(大入七回)」(『義太夫年表 大正篇』)。	美濃屋三勝(文五郎)、茜屋半七(玉松)、茜屋半兵衛(文三)、半兵衛女房(玉五郎)、おその(栄三)、親宗岸(玉蔵)。
△	1917	大正6	7/10	京都 南座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1917	大正6	7/12	名古屋 末広座	(艶容女舞衣)	酒屋(春次=兵之助)。 ※近松座、竹本錦太夫・竹本角太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1917	大正6	7/21	名古屋 蓬座	(艶容女舞衣)	酒屋(春治=小兵)。 ※竹本錦太夫・竹本角太夫・三味線 竹沢団六・豊沢兵吉。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	1917	大正6	9/1	東京 有楽座	(艶容女舞衣)	酒屋(雛)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	1917	大正6	12/3 12/8	東京 歌舞伎座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路=吉兵衛)。 酒屋(叶=叶)。 ※大阪文楽座浄瑠璃一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	1917	大正6	12/19 12/24	名古屋 御園座	三勝半七	酒屋の段(越路=吉兵衛)。 酒屋(叶)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	(不明)
△	1918	大正7	7/14~21	東京 有楽座	(艶容女舞衣)	酒屋(鏝=徳太郎)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	お園(文五郎)。
△	1918	大正7	7/15	名古屋 御園座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	
△	1918	大正7	7/26	京都 南座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路)。 ※大阪文楽座引越、越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1918	大正7	8/7	中座	三勝	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※文楽座、越路太夫一座による「浄瑠璃大会」。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事には「六日 酒屋(源=勝市)」とある。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	

	1918	大正7	11/29~	京都 竹豊座	艷容女舞衣	酒屋のだん(簾)、道行のだん(南登・春美・松重・徳)。 ※角書「三勝／半七」。	三勝(扇太郎)、半七(鶴松)、半兵衛(文太郎)、半兵衛女房(兵三)、おその(小兵吉)、宗岸(玉松)。
△	1918	大正7	12/2	東京 歌舞伎座	(艷容女舞衣)	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	1918	大正7	12/2	名古屋 千歳座	三勝半七	酒屋(越名)。 ※研声会一座による「大阪文楽座青年浄瑠璃」。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	1919	大正8	4/23~	御霊文楽座	艷容女舞衣	長町美濃屋のだん(口 淀、奥 古靱=*清六)、酒屋のだん(中 叶、切 越路=吉兵衛)。 ※角書「三かつ／半七」。 ※「三十日間 五月二十二日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。 ※「長町美濃屋の段丸本通りで広助節付のもの」(『義太夫年表 大正篇』)。	美濃屋三かつ(栄三)、茜屋半七(玉七)、茜屋半兵衛(文三)、半兵衛女房(玉五郎)、おその(文五郎)、親宗岸(玉蔵)。
△	1919	大正8	7/7	京都 南座	三勝半七	酒屋の段(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座引越、竹本越路太夫。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1919	大正8	7/9	名古屋 御園座	(艷容女舞衣)	酒屋の段(古靱=清六)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』には、酒屋(鏝=徳太郎)とある。 ※『御園座七十年史』に拠る。	(不明)
△	1919	大正8	8/12~ 17カ	東京 新富座	(艷容女舞衣)	酒屋(南部=寛治郎)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	おその(栄三)。
△	1919	大正8	8/20	浪花座	(艷容女舞衣)	酒屋(南部=寛治郎)。 ※素浄瑠璃。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事、『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	1919	大正8	9/16	名古屋 末広座	(艷容女舞衣)	酒屋(伊達=吉三郎)。 ※大阪文楽座大浄瑠璃。竹本伊達太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	1919	大正8	9/18~	京都 竹豊座	艷容女舞衣	酒屋のだん(古金改メ 嶋菊、角)。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝(玉米)、茜屋半七(浅造)、茜屋半兵衛(光造)、半兵衛女房(兵三)、娘おその(小兵吉)、親宗岸(辰五郎)。
△	1919	大正8	12/3	東京 歌舞伎座	(艷容女舞衣)	酒屋(越路=吉兵衛・ツレ 勝市)。 ※大阪文楽座浄瑠璃大一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	1919	大正8	12/18	名古屋 御園座	(艷容女舞衣)	酒屋の段(越路=吉兵衛)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『御園座七十年史』に拠る。	(不明)
	1920	大正9	3/1~	京都 竹豊座	艷容女舞衣	酒屋のだん(大嶋、春子=*新左衛門)。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝(扇太郎)、茜屋半七(富十郎)、親半兵衛(兵十郎)、半兵衛女房(兵三)、娘おその(小兵吉)、親宗岸(玉松)。

△	1920	大正9	7/1	中座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	1920	大正9	7/24	名古屋御園座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※越路一座。 ※『御園座七十年史』に拠る。	おその(栄三)、宗岸(文三)。
△	1920	大正9	8/2	京都南座	三勝半七	酒屋(越路=吉兵衛)。 ※大阪文楽座引越、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	1921	大正10	3/31~	京都竹豊座	艶容女舞衣	酒屋のだん(中 南登=弥十郎、切 角=弥七・琴 弥太郎)。 ※角書「三勝/半七」。 ※「竹豊座本興行限り」(『義太夫年表 大正篇』)。	美濃屋三勝(花吉)、茜屋半七(兵十郎)、茜屋半兵衛(冠造)、半七の母(兵三)、おその(小兵吉)、親宗岸(玉松)。
△	1921	大正10	5/9	竹本伊達太夫宅	三勝	長町(越名=清二郎)。 ※大序会。 ※「女舞剣紅楓」の可能性もある。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
	1921	大正10	6/15~	御霊文楽座	艶容女舞衣	酒屋のだん(中 源=*勝市、切 南部=*寛治郎・高音 *寛市)。 ※角書「三勝/半七」。 ※「二十日間、七月四日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	三勝(政亀)、半七(玉七)、茜屋半兵衛(文三)、半兵衛女房(辰五郎)、おその(栄三)、親宗岸(玉蔵)。
△	1921	大正10	7/5	京都南座	(艶容女舞衣)	酒屋の段(南部=寛次郎)。 ※角書「三勝/半七」。 ※大阪文楽一座引越し。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1921	大正10	8/2	名古屋御園座	(艶容女舞衣)	酒屋(南部=寛次郎)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	1921	大正10	12/9	名古屋末広座	艶容女舞衣	酒屋(伊達=吉三郎)。 ※文楽座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	お園(文五郎)、宗岸(玉次郎)。
	1922	大正11	4/18~	御霊文楽座	艶姿女舞衣	酒屋のだん(中 相生、切 伊達=*吉三郎)。 ※「二十三日間、五月十日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	美のや三勝(太郎)、茜屋半七(玉八)、茜屋半兵衛(玉次郎)、半兵衛女房(辰五郎)、お園(文五郎)、親宗岸(玉蔵)。
△	1922	大正11	7/20	名古屋末広座	(艶容女舞衣)	酒屋(源=勝市)。 ※大阪文楽座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	(不明)
△	1922	大正11	7/26	京都中座	(艶容女舞衣)	酒屋(駒=錦糸)。 ※大阪文楽座若手連引越し。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1922	大正11	12/10	東京新富座	(艶容女舞衣)	酒屋(鑊=団六)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	1923	大正12	8/2	浪花座	(艶容女舞衣)	酒屋(伊達=吉三郎)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	

△	1923	大正12	8/21~23	京都 南座	艶姿女舞衣	酒屋の段（つばめ=八造、鏝=団六・琴 団二郎）。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	三かつ（玉七）、半兵衛（玉二郎）、半兵衛女房（琴糸）、おその（文五郎）、宗岸（文三）。
	1924	大正13	3/19~	京都 新京極文楽座	艶容女舞衣	酒屋の段（切 叶=叶）。	三勝（扇太郎）、半七（文之助）、茜屋半兵衛（兵十郎）、同 女房（三郎）、おその（栄三）、親宗岸（辰五郎）。
△	1924	大正13	7/20	中座	（艶容女舞衣）	酒屋（鏝=団六）。 ※文楽座連中による「浄瑠璃演奏会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	1924	大正13	8/21	京都 南座	艶姿女舞衣	三勝半七酒屋の段（鏝=団六）。 ※大阪文楽。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	1924	大正13	9/18~	京都 新京極文楽座	艶容女舞衣	酒屋の段（切 駒=燕四改メ 才治）。	みのや三勝（文之助）、茜屋半七（紋太郎）、茜屋半兵衛（光造）、同 女房（三郎）、おその（文五郎）、親宗岸（辰五郎）。
	1925	大正14	2/4~	御霊文楽座	艶容女舞衣	酒屋の段（中 町、切 土佐=*吉三郎）。 ※「二十一日間」（『義太夫年表 大正篇』）。	美濃屋三勝（玉米）、茜屋半七（文作）、茜屋半兵衛（玉次郎）、半兵衛女房（琴糸）、おその（文五郎）、親宗岸（玉蔵）。
	1925	大正14	5/1~	京都 新京極文楽座	艶容女舞衣	酒屋の段（中 越穂=八助、切 鏝=新左衛門・琴 新之助）。	みの屋三勝（紋太郎）、茜屋半七（文之助）、茜屋半兵衛（冠造）、半兵衛女房（三郎）、嫁おその（文五郎）、親宗岸（辰五郎）。
△	1925	大正14	7/10~11	神戸 松竹劇場	（艶容女舞衣）	酒屋（土佐=吉三郎）。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	お園（文五郎）。
△	1925	大正14	7/20~21	名古屋 御園座	（艶容女舞衣）	酒屋の段（土佐=吉三郎）。 ※『御園座七十年史』に拠る。	お園（文五郎）。
△	1925	大正14	7/30~8/2	東京 歌舞伎座	艶容女舞衣	酒屋（中 相生=団六、切 伊達改め 土佐=吉三郎）。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	半兵衛（政亀）、お園（文五郎）、宗岸（辰五郎）。
△	1925	大正14	8/12	中座	（艶容女舞衣）	酒屋（鏝=新左衛門）。 ※文楽座連中による「涼み素浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	1925	大正14	9/20~21	京都 南座	艶姿女舞衣	酒屋の段。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	（不明）
△	1925	大正14	12/4カ	高知	（艶容女舞衣）	酒屋（土佐）。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	1926	大正15	1/30	京都 京都座	艶容女舞衣	酒屋之段（越名=友衛門）。 ※大阪文楽座、竹本文字太夫・竹本相生太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1926	大正15	2/15	本田吾妻倶楽部	（艶容女舞衣）	酒屋（陸路=叶七）。 ※文楽若手会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	

△	1926	大正15	6/22	京都 南座	艷容女舞衣	酒屋の段（土佐＝吉三郎）。 ※文楽座引越し、豊竹古靱太夫・竹本土佐太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	1926	大正15	7/11	富田林 塚屋	（艷容女舞衣）	酒屋（春次＝竹弥）。 ※第2回近松会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	1926	大正15	9/28	堺 龍神座	（艷容女舞衣）	酒屋（春次＝竹弥）。 ※近松会。門造一座の人形入。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事には10月27・28日とあるが、『浄瑠璃雑誌』第254号所載劇評により、9月と改めた。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事、『浄瑠璃雑誌』第253・254号に拠る。	（不明）
△	1926	大正15	12/12～16 の内	名古屋 御園座	（艷容女舞衣）	酒屋の段（鏝＝新左衛門）。 ※『御園座七十年史』に拠る。	
	1927	昭和2	4/29～	弁天座	艷容女舞衣	酒屋の段（中 鏝＝新左衛門、切 土佐＝吉兵衛・琴 団二郎）。	美濃屋三勝（扇太郎）、茜屋半七（玉徳）、茜屋半兵衛（政亀）、半兵衛女房（冠四）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（小兵吉）。
△	1927	昭和2	6/22～27	弁天座	艷容女舞衣	酒屋。 ※文楽若手向上会。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	1927	昭和2	8/27 9/1	東京 歌舞伎座	（艷容女舞衣）	酒屋（鏝＝新左衛門）。 酒屋（播路＝叶太郎）。 ※大阪文楽義太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	1927	昭和2	12/12	浅草 宮戸座	（艷容女舞衣）	酒屋の段（巖＝紋左衛門）。 ※大日本義太夫因会大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第265号に拠る。	
	1927	昭和2	12/18	浪花座	三勝半七	酒屋の段（駒＝才治）。 ※若手素浄瑠璃。	
△	1928	昭和3	1/7	岡山 岡山劇場	艷容女舞衣	酒屋（土佐＝吉兵衛）。 ※竹本土佐太夫一行巡業（1月6～23日、山陽・九州）の内。素浄瑠璃。 ※「山陽新報」（1月5・7日の記事、1月5日の広告）に拠る。	
△	1928	昭和3	3/1～3	神戸 八千代座	艷容女舞衣	酒屋の段（土佐＝吉兵衛）。 ※「神戸新聞」（2月26・28～29日・3月1～6日の記事、2月28～29日・3月1～8日の広告）に拠る。	半兵衛（門造）、お園（文五郎）、宗岸（玉次郎）。
			3/10～13	名古屋 御園座		酒屋の段（中 相生＝芳之助、切 土佐＝吉兵衛）。 ※大阪文楽座巡業（3月1～20日、神戸・名古屋・広島）の内。	美濃屋三勝（光之助）、茜屋半七（玉市）、茜屋半兵衛（門造）、半兵衛女房（冠四）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉次郎）。
△	1928	昭和3	5/26	丹波 柏原劇場	（艷容女舞衣）	酒屋（駒＝才治）。 ※『浄瑠璃雑誌』第270号に拠る。	

△	1928	昭和3	6/24	神戸 八千代座	三勝半七	酒屋（越名＝友衛門）。 ※若手幹部連の素浄瑠璃。 ※「神戸新聞」（6月23～25日の記事、6月23～26日の広告）に拠る。	
△	1928	昭和3	7/2	金沢 尾山倶楽部	（艶容女舞衣）	酒や（土佐＝吉兵衛・琴 新之助）。 ※竹本土佐太夫一行巡業（7月1～13日、北陸）の内。素浄瑠璃。 ※「北国新聞」（6月28・30日・7月1・3～5日）に拠る。	
△	1928	昭和3	7/16	神戸 八千代座	（艶容女舞衣）	酒屋（土佐＝吉兵衛）。 ※文楽中堅花形の大一座。素浄瑠璃。 ※「神戸新聞」（7月12・14～15・17～18日の記事、7月12～18日の広告）に拠る。	
	1928	昭和3	8/23	浪花座	艶姿女舞衣	三勝／半七酒屋の段（つばめ＝猿太郎）。 ※文楽座若手素浄瑠璃。	
△	1928	昭和3	8/26	九条会館	（艶容女舞衣）	酒屋（春次）。 ※幼声会審査連。竹本春次太夫は審査員。 ※『浄瑠璃雑誌』第273号に拠る。	
	1928	昭和3	9/4～5	京都 南座	艶容女舞衣	酒屋の段（中 源路＝友衛門、切 鏝＝新左衛門・琴 新之助）。	美濃屋三勝（扇太郎）、茜屋半七（玉幸）、茜屋半兵衛（門造）、半兵衛女房（冠四）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉次郎）。
	1928	昭和3	10/1～	弁天座	艶容女舞衣	酒屋の段（切 鏝＝新左衛門・琴 福太郎／小庄／友駒／新之助）。	美濃屋三勝（紋太郎）、茜屋半七（玉市）、茜屋半兵衛（門造）、半兵衛女房（冠四）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉次郎）。
△	1928	昭和3	10/26	東京 三越ホール	（艶容女舞衣）	酒屋（和国＝吉松郎）。 ※第1回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃世界』第300号に拠る。	
	1928	昭和3	11/11～13	京都 南座	艶容女舞衣	酒屋の段（中 鏡＝団六、切 土佐＝吉兵衛・琴 団二郎）。	美濃屋三勝（扇太郎）、茜屋半七（玉市）、茜屋半兵衛（門造）、半兵衛女房（玉七）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉治郎）。
	1928	昭和3	12/11～15	東京 新橋演舞場	艶容女舞衣	酒屋の段（中 つばめ＝勝市、切 土佐＝吉三郎改め 吉兵衛・琴 団二郎）。	美濃屋三勝（扇太郎）、茜屋半七（玉市）、茜屋半兵衛（門造）、半兵衛女房（玉七）、嫁お園（紋十郎）、親宗岸（玉治郎）。
△	1929	昭和4	1/8～10	神戸 八千代座	（艶容女舞衣）	酒屋。 ※「神戸新聞」（1月8～10日の記事、1月9日の広告）に拠る。	（不明）
△	1929	昭和4	1/17～18	名古屋 御園座	（艶容女舞衣）	酒屋の段（朝＝猿糸）。 ※大阪文楽座巡業（1月15～25日、東海）の内。 ※「新愛知」（1月17～18日の記事、1月17日の広告）、『御園座八十年史』、『御園座百年史』に拠る。	お園（紋十郎）。
△	1929	昭和4	2/4	岡山 岡山劇場	艶容女舞衣	酒屋の段。 ※「山陽新報」（1月22日・2月1・5日の記事、2月2日の広告）に拠る。	（不明）
			2/6	広島 寿座		酒屋の段（鏝＝新左衛門・琴 新之助）。 ※「中国新聞」（2月7～8日の記事、2月5～8日の広告）に拠る。	

		2/22	下関 弁天座	三勝半七	酒屋の段（鏝）。 ※大阪文楽座巡業（2月4～22日、山陽・九州）の内。 ※「大阪毎日新聞西部毎日」山口版（2月21～22日）、「防長新聞」（2月22日）に拠る。		
△	1929	昭和4	4/16	浜松 浜松座	（艶容女舞衣）	酒屋（つばめ＝勝市）。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
			4/18	豊橋 東雲座	艶容女舞衣	三勝半七酒屋（つばめ＝勝市・琴小庄）。 ※大阪文楽座巡業（4月16～22日、東海）の内。 ※「参陽日報」（4月14～20日）、「新朝報」（4月14～15・17・20日）、「豊橋新報」（4月14・16～20日の記事、4月16日の広告）、「豊橋日日新聞」（4月14～20日の記事、4月16日の広告）に拠る。	
△	1929	昭和4	5/26	東京 主婦の友講堂	（艶容女舞衣）	酒屋（生駒＝前吉松郎、奥泰助）。 ※第6回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃世界』第305号、『浄瑠璃雑誌』第280号に拠る。	
△	1929	昭和4	6/1～2	名古屋 御園座	艶容女舞衣	酒屋の段（中 つばめ＝勝市、切鏝＝新左衛門・琴新之助）。 ※「新愛知」（5月23・25～26・28～31日・6月1～2・4日の記事、5月31日の広告）、「御園座百年史」に拠る。	半兵衛（門造）、お園（文五郎）、宗岸（玉次郎）。
			6/6	豊橋 東雲座		酒屋の段（中 つばめ＝勝市、切鏝＝新左衛門・琴新之助）。 ※「参陽新報」（5月26・29・31日・6月1～4・6～7日の記事、6月4・6日の広告）、「新朝報」（5月26・29・31日・6月1～5日の記事、6月4日の広告）、「豊橋新報」（5月24・26・29・31日・6月2・4～7日の記事、6月4・6日の広告）、「豊橋日日新聞」（5月29・31日・6月1～7日の記事、6月3・6日の広告）に拠る。	（不明）
			6/11～12	神戸 八千代座		酒屋の段（中 つばめ＝勝市、切鏝＝新左衛門・琴新之助）。 ※「神戸新聞」（6月10～15日の記事、6月9～15日の広告）に拠る。	三勝（紋太郎）、半七（玉市）、半兵衛（門造）、母親（冠四）、お園（文五郎）、宗岸（玉次郎）。
			6/18	岡山 岡山劇場	三勝半七	酒屋の段（鏝＝新左衛門）。 ※大阪文楽座巡業（6月1～19日、東海・山陽）の内。 ※「山陽新報」（6月15～16・18日の記事、6月18日の広告）に拠る。	（不明）
△	1929	昭和4	6/15～19	東京 報知講堂	女舞衣	酒屋（米＝新次郎）。 ※第6回義太夫人形座。 ※『浄瑠璃世界』第305号に拠る。	
△	1929	昭和4	6/16	東京銀座	（艶容女舞衣）	酒屋（巖＝新造）。 ※新撰所作浄瑠璃（浄瑠璃舞踊）。 ※『浄瑠璃雑誌』第280号に拠る。	
	1929	昭和4	7/1～5	東京 新橋演舞場	艶容女舞衣	酒屋の段（中綾＝勝三郎、切朝＝松太郎・琴宗之助）。	美濃屋三勝（市松）、茜屋半七（玉市）、茜屋半兵衛（門造）、半兵衛女房（玉七）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉次郎）。
△	1929	昭和4	8/7	長崎 南座	三勝半七	酒屋の段（春雄＝団二郎）。 ※竹本角太夫一行巡業（7月25日～8月14日、九州）の内。 ※「長崎日日新聞」（8月7～8日）、「浄瑠璃雑誌」第282号に拠る。	

△	1929	昭和4	9/8	名古屋 新守座	三勝半七	酒屋の段（鏝＝新左衛門）。 ※大阪文楽座巡業（9月7～23日、名古屋・神戸・高松）の内。 ※「新愛知」（9月3～8・10～11日の記事、9月6～7・9・11日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第283号に拠る。	
△	1929	昭和4	9/17	岡山 高砂座	三勝半七	酒屋の段（駒司＝吉子）。 ※豊竹駒太夫一行巡業（9月16～20日、岡山）の内。 ※「山陽新報」（9月15日）、『浄瑠璃雑誌』第283号に拠る。	
△	1929	昭和4	9/18	岡崎 松栄座	（艶容女舞衣）	酒屋（友＝広三）。	
			9/20	愛知カ 安城座	（艶容女舞衣）	酒屋（友）。 ※竹本陸路太夫一行巡業（9月18日～10月3日、東海・京都）の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第284号に拠る。	
△	1929	昭和4	9/20	東京 三越ホール	（艶容女舞衣）	酒屋（滝）。 ※第9回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第282号に拠る。	
△	1930	昭和5	1/26	実業会館	（艶容女舞衣）	酒屋（春次＝竹弥）。 ※第7回近松会。 ※『浄瑠璃雑誌』第288号に拠る。	
△	1930	昭和5	3/1	東京 飛行館	（艶容女舞衣）	三勝／半七酒屋の段（滝＝新造）。 ※五代竹本さの太夫改メ七代豊竹湊太夫披露会。竹澤竜造身振劇出演。 ※『浄瑠璃雑誌』第289号に拠る。	
△	1930	昭和5	3/2	東京 電気倶楽部	（艶容女舞衣）	三勝／半七酒屋の段（米＝新次郎）。 ※鶴沢重二郎、竹本津賀太夫門となり竹本東太夫と改名披露。 ※『浄瑠璃雑誌』第289号に拠る。	
△	1930	昭和5	3/29	浅草 並木倶楽部	（艶容女舞衣）	三勝酒屋の段（巴磨＝文之助）。 ※第1回浄瑠璃研声会。 ※『浄瑠璃雑誌』第289・290号に拠る。	
	1930	昭和5	4/10～	四ツ橋文楽座	艶容女舞衣	酒屋の段（切土佐＝吉兵衛・琴小庄）。 ※「二十日間」（『文楽興行記録昭和篇』）。 ※『文楽興行記録昭和篇』では半兵衛女房の人形遣い名の表記は「兵十郎」。	美濃屋三勝（市松）、茜屋半七（玉市）、茜屋半兵衛（門造）、半兵衛女房（瓢寿呂）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉治郎）。
△	1930	昭和5	4/21	東京 三越ホール	（艶容女舞衣）	酒屋（越栄＝重助）。 ※第16回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第290号に拠る。	
△	1930	昭和5	5/20	東京 甲子屋倶楽部	女舞衣	酒屋（君＝松四郎）。 ※第17回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第291号に拠る。	
△	1930	昭和5	7/15	東京 三越ホール	（艶容女舞衣）	酒屋の段（都＝松四郎）。 ※第19回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第293号に拠る。	
	1930	昭和5	8/22	東京 東京劇場	艶姿女舞衣	三勝／半七酒屋の段（鏝＝新左衛門）。 ※素浄瑠璃。	

△	1930	昭和5	12/1	四日市 湊 座	(艶容女舞衣)	酒屋(源平=吉男)。 ※文楽座若手人形浄瑠璃。桐竹門造後見女兒一人遣い人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第298号に拠る。	
△	1931	昭和6	4/4	広島 豊屋町演舞場 〈竹本座〉	(艶容女舞衣)	酒屋(春治)。 ※『浄瑠璃雑誌』第301号に拠る。	
4/9			博多 柳 座 〈竹本座〉	酒屋(春次)。 ※竹本角太夫一行巡業(4月3~12日、広島・博多)の内。吉田玉徳人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第301号に拠る。			
△	1931	昭和6	6/28	東京 市 村 座	(艶容女舞衣)	酒屋(津賀=猿之助・琴 民之助)。 ※豊竹巴磨太夫改め七代豊竹巴太夫襲名披露会。 ※『浄瑠璃雑誌』第304号に拠る。	
	1931	昭和6	7/5~6	京都 南 座	艶容女舞衣	酒屋の段(中 鏡=歌助、切 録=新左衛門・琴 新之助)。	美濃屋三勝(光之助)、半七(玉市)、半兵衛(門造)、女房(小兵吉)、嫁お園(文五郎)、宗岸(玉次郎)。
	1931	昭和6	7/11~14	東京 明 治 座	艶容女舞衣	酒屋の段(中 鏡=吉左、切 土佐=吉兵衛・琴 福太郎)。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉市)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
	1931	昭和6	10/3~20	四ツ橋文楽座	艶容女舞衣	酒屋の段(中 島=芳之助/猿太郎、切 古鞆=清六・琴 勝芳)。 ※千穉楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	美濃屋三勝(文作)、茜屋半七(玉市)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(伝之助)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。
△	1931	昭和6	10/8	広島 寿 座	艶容女舞衣	酒屋の段(土佐=吉兵衛)。 ※10月12日松山・国伎座で同公演あり。 ※「中国新聞」(10月2・9~10日の記事、10月2・6・8日の広告)、「海南新聞」(10月8・13日の記事)に拠る。	(不明)
10/16			徳島 稲 荷 座	艶容女舞衣	酒屋(鏡=吉左、切 土佐=吉兵衛・琴 団二郎)。 ※竹本土佐太夫一行巡業(10月1~18日、九州・山陽・四国)の内。 ※「大阪朝日新聞」徳島版(10月13日)、「徳島毎日新聞」(10月15~17日)、『浄瑠璃雑誌』第306号に拠る。		
△	1931	昭和6	11/24	南地演舞場	(艶容女舞衣)	酒屋(お園—薫・半兵衛—鷹・宗岸—栄・母親—敷島=竹弥)。 ※竹本春次太夫追善会。生前兄弟弟子の総掛合。 ※『浄瑠璃雑誌』第310号に拠る。	
	1931	昭和6	11/27~30	東京 明 治 座	艶容女舞衣	酒屋の段(中 南部=吉弥、切 古鞆=清六)。 ※角書「三かつ/半七」。	美濃屋三勝(紋太郎)、茜屋半七(市松)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(小兵吉)、嫁おその(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。
△	1932	昭和7	1/22	堺 聚 楽 館 〈竹本座〉	(艶容女舞衣)	酒屋(浪華津=勝童)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	

△	1932	昭和7	5/6	名古屋 御園座	三勝半七	(鑊=新左衛門)。 ※竹本鑊太夫一行巡業(5月4~14日、東海)の内。文楽座の若手による 素浄瑠璃。 ※「新愛知」(5月1・3~8日)、『浄瑠璃雑誌』第312号、『御園座七 十年史』に拠る。	
	1932	昭和7	5/13~15	東京 東京劇場	艶容女舞衣	酒屋の段(中 南部=吉弥、切 土佐=吉兵衛・琴 綱治)。 ※角書「三かつ/半七」。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉幸)、茜 屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お 園(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
	1932	昭和7	5/21~22	神戸 松竹劇場	艶容女舞衣	酒屋の段(中 越名改め 南部=吉弥、切 土佐=吉兵衛・琴 綱治)。 ※角書「三かつ/半七」。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉幸)、茜 屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、娘お 園(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
△	1932	昭和7	6/20	北新地演舞場	三 勝	酒屋(陸路=吉房)。 ※花菱会。少女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第312・313号に拠る。	
△	1932	昭和7	7/2	綿業会館	(艶容女舞 衣)	酒屋(源平=才六)。 ※三人会(竹本喜鳳太夫・竹本長尾太夫・豊竹和泉太夫)。 ※『浄瑠璃雑誌』第313号に拠る。	
△	1932	昭和7	7/7 7/8	姫路 山陽座 〈竹本座〉	(艶容女舞 衣)	酒屋(滝=団弥)。 酒屋(春香=新吉)。 ※『浄瑠璃雑誌』第314号に拠る。	
△	1932	昭和7	8/3~4	京都 京都座	艶容女舞衣	酒屋の段(南部=友衛門)。 ※「京都日出新聞」(7月29・31日・8月2~3・5~7日)に拠る。	美濃屋三勝(栄三郎)、茜屋半七(光之助)、 舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(玉七)、嫁お 園(紋十郎)、親宗岸(門造)。
			8/13~14	名古屋 御園座		酒屋の段(南部=友衛門・琴 団二郎)。 ※文楽若手連五人会(竹本相生太夫・豊竹呂太夫・豊竹つばめ太夫・竹 本南部太夫・竹本小春太夫)巡業(8月1日~下旬、近畿・東海)の内。 ※「新愛知」(8月9~13・15~16日)、『御園座七十年史』に拠る。	半兵衛女房(玉七)、嫁お園(紋十郎)、宗岸 (門造)。
	1932	昭和7	9/1~20	四ツ橋文楽座	艶容女舞衣	酒屋の段(切 鑊=新左衛門、後 呂=叶・琴 勝芳)。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	美濃屋三勝(扇太郎)、茜屋半七(文作)、舅 半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園 (文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
	1932	昭和7	10/24	東京 東京劇場	艶容女舞衣	酒屋の段(土佐=吉兵衛・琴 市松)。 ※角書「三勝/半七」。 ※素浄瑠璃。	
△	1932	昭和7	12/1	広島 寿座	(艶容女舞 衣)	酒屋(南部=吉左・ツレ 勝芳)。 ※「中国新聞」(11月27日の記事、11月23・30日の広告)、『浄瑠璃雑 誌』第318号に拠る。	
			12/12	長崎 みなみ座		酒屋の段(南部=吉左・琴 勝芳)。 ※大阪文楽座若手連巡業(12月1日~、広島・九州)の内。 ※「長崎日日新聞」(12月6~13日)に拠る。	三勝(栄三郎)、半七(紋太郎)、半兵衛(玉 市)、お園(紋十郎)、宗岸(門造)。
△	1932	昭和7	12/13	四ツ橋文楽座	(艶容女舞 衣)	酒屋(駒=団六)。 ※英彦山国立公園運動寄附公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第319号に拠る。	

△	1932	昭和7	12/20	今治 和泉座	(艶容女舞衣)	酒屋(町=歌助)。 ※竹本津太夫一行巡業(12月16~24日、四国)の内。12月24日高松・大衆座で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第319号、「海南新聞」(12月16日)、「香川新報」(12月20日)に拠る。	
△	1933	昭和8	2/1	松屋町鳳来館	(艶容女舞衣)	酒屋(敷島)。 ※竹本座巡業(2月1~19日、大阪)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第320号に拠る。	(不明)
	1933	昭和8	6/1~18	四ツ橋文楽座	艶容女舞衣	酒屋の段(中 南部=吉弥、切 土佐=吉兵衛・琴 市松)。 ※千穉楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉幸)、茜屋半兵衛(玉松)、半兵衛女房(玉七)、嫁おその(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。
△	1933	昭和8	6/23	高知 堀詰座	三 勝	酒屋(土佐=吉兵衛・琴 市松)。 ※竹本土佐太夫一行巡業(6月22~26日、高知)の内。25日にも同公演あり(琴は表記なし)。 ※『浄瑠璃雑誌』第325号に拠る。	
△	1933	昭和8	6	浜松 歌舞伎座	(艶容女舞衣)	酒屋。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	(不明)
	1933	昭和8	7/4~6	東京 東京劇場	艶容女舞衣	酒屋の段(中 鏡=吉左、切 土佐=吉兵衛・琴 市松)。	美濃屋三勝(文作)、茜屋半七(玉幸)、茜屋半兵衛(玉松)、半兵衛女房(玉七)、嫁おその(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
△	1933	昭和8	7/14~	地方公演 (九州)	(艶容女舞衣)	酒屋(津磨=綱延)。 ※竹本津太夫一行巡業。 ※『浄瑠璃雑誌』第325号に拠る。	
△	1933	昭和8	7/24~25	神戸 松竹劇場	(艶容女舞衣)	酒屋(南部)。 ※大阪文楽座人形浄瑠璃若手花形銷夏競演大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第326号、「神戸新聞」(7月20~23日の記事、7月22日の広告)に拠る。	(不明)
	1933	昭和8	9/9~20	四ツ橋文楽座	艶容女舞衣	酒屋の段(つばめ=芳之助//南部=吉左//小春=綱右衛門//呂=重造)。 ※第2回文楽若手特別興行。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(文作)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。
△	1933	昭和8	11/25	京都 六角会館	三勝半七	酒屋の段(鑊=新左衛門)。 ※慈善文楽会。 ※「大阪朝日新聞」京都版(11月24日)に拠る。	
	1933	昭和8	12/7~9	東京 歌舞伎座	艶容女舞衣	酒屋の段(中 相生=清二郎、切 土佐=吉兵衛)。	美濃屋三勝(文作)、茜屋半七(玉幸)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
△	1934	昭和9	2/17~18	名古屋 御園座	艶容女舞衣	酒屋の段(南部=吉左・琴 綱延)。 ※豊竹古靱太夫一行巡業(2月4~19日、東海)の内。 ※「豊橋日日新聞」(2月1~9日)、「新愛知」(2月9~11・13~19日)、『浄瑠璃雑誌』第330号に拠る。	三勝(文之助)、半七(栄三郎)、半兵衛(瓢寿呂)、母(多三郎)、お園(紋十郎)、宗岸(玉幸)。
	1934	昭和9	2/21~26	京都 南 座	艶容女舞衣	酒屋の段(南部=吉左//小春=団二郎・琴 綱延)。	美濃屋三勝(扇太郎)、茜屋半七(光之助)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁おその(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。

△	1934	昭和9	3/25	長浜 日比劇場	(艶容女舞衣)	酒屋(鏗=新左衛門)。 ※まこと改め竹本松栄太夫披露会。桐竹門造指導少女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第332号に拠る。	
△	1934	昭和9	4/25	京都 上六人部小学校	女舞衣三勝	酒屋(友路)。 ※竹本陸路太夫一行巡業(4月23~27日・5月15日、大阪・京都)の内。 竹本陸路太夫亡父米田亀蔵追善のため故人の縁故地方を巡業。 ※『浄瑠璃雑誌』第334号に拠る。	
△	1934	昭和9	5/24	山口下松町 大黒座	(艶容女舞衣)	酒屋(陸路=吉房)。 ※竹本陸路太夫一行巡業(5月23~30日、山口)の内。5月29日小野田町・須恵座で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第334号に拠る。	
△	1934	昭和9	6/23~	地方公演 (中国・東海)	(艶容女舞衣)	酒屋(南部=吉弥・琴綱延)。 ※豊竹古鞠太夫一行巡業。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	園(紋十郎)、宗岸(玉幸)。
	1934	昭和9	7/4~6	京都 南座	艶容女舞衣	酒屋の段(切 鏗=新左衛門・琴綱延)。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉幸)、舅半兵衛(門造)、半兵衛女房(多三郎)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
△	1934	昭和9	7/22~27	神戸 松竹劇場	(艶容女舞衣)	酒屋。 ※『松竹百年史』に拠る。	
△	1934	昭和9	7/25	満州 大連検番ホール	(艶容女舞衣)	酒屋(叶=友造・ツレ友太郎)。 ※竹本叶太夫一行巡業(7月25日~8月15日、満州)の内。8月3日奉天演芸館(三味線不明)、8月6日撫順公会堂(三味線不明)、8月11日中央銀行宿舎(三味線不明)で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
	1934	昭和9	8/9~10	東京 明治座	艶容女舞衣	酒屋の段(南部=吉左・琴綱延)。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(文作)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(多三郎)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。
△	1934	昭和9	9/14	東京 歌舞伎座前木村屋別館	(艶容女舞衣)	酒屋(巴=文之助)。 ※鶴澤司好発起勉強会。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
△	1934	昭和9	9/15	堀江演舞場本館	(艶容女舞衣)	酒屋(駒=団六・琴弥一)。 ※花菱会。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
△	1934	昭和9	11/24	和歌山 紀国座	(艶容女舞衣)	酒屋(鏗=新左衛門)。 ※桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第337号に拠る。	
△	1935	昭和10	2/24~26	神戸 松竹劇場	艶容女舞衣	酒屋の段。 ※「神戸新聞」(2月24日の記事と広告)に拠る。	(不明)
	1935	昭和10	5/4~	四ツ橋文楽座	艶容女舞衣	酒屋の段(中 相生=団六/重造//呂=叶、切 土佐=吉兵衛)。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(文作)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(政亀)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。

△	1935	昭和10	6/2	福岡 大博劇場	艶容女舞衣	酒屋（小春＝芳之助）。 ※豊竹古鞠太夫一行巡業（5月28日～6月14日、山陽・九州）の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第340号に拠る。	美濃屋三勝（紋司）、茜屋半七（栄三郎）、舅半兵衛（門造）、半兵衛女房（玉七）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉次郎）。
△	1935	昭和10	6/15	和歌山 和歌山市公会 堂日本館	（艶容女舞衣）	酒屋（津磨＝綱平）。 ※竹本津太夫一座。 ※『浄瑠璃雑誌』第340号に拠る。	
	1935	昭和10	7/5～8	東京 明治座	艶容女舞衣	酒屋の段（中 相生＝清二郎、切 土佐＝吉兵衛・琴 市松）。 ※角書「三かつ／半七」。	美濃屋三勝（光之助）、茜屋半七（文作）、舅半兵衛（門造）、半兵衛女房（玉七）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉次郎）。
△	1935	昭和10	7/24～25	満州 大連劇場	艶容女舞衣	酒屋の段（つばめ＝猿系）。 ※皇軍在満同胞慰問興行（7月23日～8月12日、満州）の内。7月31日奉天劇場、8月2日新京公会堂、8月9～10日京城で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第342号に拠る。	美濃屋三勝（紋司）、茜屋半七（栄三郎）、舅半兵衛（紋太郎）、半兵衛女房（玉徳）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（門造）。
△	1935	昭和10	8/23	浪花座	（艶容女舞衣）	酒屋（駒＝清二郎）。 ※文楽若手浄瑠璃会納涼浄瑠璃。 ※「大阪毎日新聞」（8月21日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第342号に拠る。	
	1935	昭和10	10/26	御影公会堂	艶容女舞衣	酒屋の段（昼夜替 呂＝重造／つばめ＝猿系）。	美濃屋三勝（紋太郎）、茜屋半七（玉市）、茜屋半兵衛（多三郎）、半兵衛女房（玉七）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉蔵）。
△	1935	昭和10	11/4	堀江演舞場 〈竹本座〉	（艶容女舞衣）	三勝／半七酒屋の段（喜＝仙松）。 ※『浄瑠璃雑誌』第343号に拠る。	
△	1935	昭和10	12/5	東京 並木倶楽部	（艶容女舞衣）	三勝酒屋の段（掛合）。 ※大日本義太夫因会秋季大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第345号に拠る。	
△	1935	昭和10	12/20～21	神戸 松竹劇場	艶容女舞衣	酒屋の段。 ※「神戸新聞」（12月16・19～21日の記事、12月17・20・22日の広告）に拠る。	園（文五郎）。
△	1936	昭和11	2/3	松本 建国座	艶容女舞衣	酒屋の段。 ※「信濃毎日新聞」（1月30日）に拠る。	
			2/5	長野 菊田劇場	（艶容女舞衣）	酒屋（綴）。 ※大阪文楽座一行巡業（2月2日～）の内。 ※「信濃毎日新聞」（2月1日）に拠る。	
△	1936	昭和11	2/4	一の宮 花岡劇場 〈新義座〉	（艶容女舞衣）	三勝酒屋（南部＝勝平）。 ※『浄瑠璃雑誌』第346号に拠る。	
	1936	昭和11	2/16～18	京都 南座	艶容女舞衣	酒屋の段（切 駒＝清二郎・琴 猿若）。	美濃屋三勝（栄三郎）、茜屋半七（紋太郎）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（玉七）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉次郎）。
△	1936	昭和11	3/26	京都 華頂会館 〈新義座〉	三 勝	酒屋（南部＝勝平）。 ※乙女人形入。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

△	1936	昭和11	5/3~	地方公演 (中国・九州)	艷容女舞衣	酒屋の段(切 鏝=新左衛門・琴 猿若)。 ※竹本鏝大夫一行巡業。 ※『浄瑠璃雑誌』第349号に拠る。	三勝(光之助)、半七(文作)、半兵衛(門造)、半兵衛女房(小兵吉)、お園(文五郎)、宗岸(玉次郎)。
	1936	昭和11	7/3~12	四ツ橋文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段(切 駒=清二郎・琴 猿若/重次郎)。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(文作)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
	1936	昭和11	7/28~30	東京歌舞伎座	艷容女舞衣	酒屋の段(中 和泉=重造、切 土佐=吉兵衛・琴 市松)。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉市)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、娘お園(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
	1936	昭和11	9/4~6	京都南座	艷容女舞衣	酒屋の段(中 長尾=友衛門、切 鏝=新左衛門)。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉市)、茜屋半兵衛(玉蔵)、半兵衛女房(政亀)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。
△	1936	昭和11	10/11	釜山釜山劇場 (新義座)	三勝半七	酒屋の段。 ※大阪文楽新義座巡業(10月10日~12月、満州・九州・中国・四国)の内。乙女人形入。 ※「大阪朝日新聞」朝鮮版(10月6日)に拠る。	
△	1936	昭和11	12/7~8	上海東劇	(艷容女舞衣)	三勝酒屋(陸路=徳若)。 ※竹本陸路大夫一行巡業(12月7~11日、上海)の内。上海皇軍慰問公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第356号に拠る。	
△	1937	昭和12	1/21~23	北陽演舞場 (竹本座)	三勝半七	酒屋の段(春香=団弥)。 ※人形吉田徳三郎一座。 ※『浄瑠璃雑誌』第356・357号、「大阪朝日新聞」(1月19日)に拠る。	
△	1937	昭和12	1/27	盛岡盛岡劇場 (新義座)	艷容女舞衣	三勝半七酒店(南部=勝平)。 ※「岩手日報」(1月27・29日の記事、1月20・26~27日の広告)に拠る。	
			2/6	新潟新潟劇場 (新義座)	三勝半七	酒屋の段。 ※「新潟新聞」(1月24日)に拠る。	
			2/16	徳島徳島温泉劇場 (新義座)		酒屋の段(南部=勝平)。 ※「徳島毎日新聞」(2月9・15~18日)に拠る。	
			2/27	香川上高瀬松竹座 (新義座)	艷容女舞衣	※新義座巡業(1月19日~3月中旬、東海・関東・東北・北陸・四国・中国)の内。乙女人形入。 ※「香川新報」(3月2日)に拠る。	
△	1937	昭和12	3/1~5	東京小石川倶楽部	(艷容女舞衣)	酒屋(近衛=団童)。 ※第1回日本帝都因会奨励会。5日間演題毎日順廻り。 ※『浄瑠璃雑誌』第362号、『浄瑠璃時報』第177・178号に拠る。	
△	1937	昭和12	3/23~28	地方公演 (中国)	(艷容女舞衣)	三勝酒屋(鏝=新左衛門)。 ※竹本鏝大夫一行巡業。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れ、『浄瑠璃雑誌』第359号に拠る。	(不明)

△	1937	昭和12	4/2	東京 飛行会館	(艶容女舞衣)	酒屋(卯=猿蔵)。 ※日本帝都義太夫因会春季公演大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第362号、『浄瑠璃時報』第179号に拠る。	
△	1937	昭和12	4/4	八日市 大正座 (新義座)	(艶容女舞衣)	酒屋(南部=勝平)。 ※大阪新義座巡業(4月4~28日、東海・関東)の内。乙女人形入。4月9日郡上八幡劇場、4月14日岩村劇場、4月15日付知劇場で同公演あり。 ※「大阪朝日新聞」滋賀版(4月2日)、『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
△	1937	昭和12	6/2	平 聚楽館 (新義座)	(艶容女舞衣)	酒屋(南部=勝平)。 ※大阪新義座巡業(6月1日~末、関東・東北・北海道・上越・北陸・東海)の内。乙女人形入。6月7日八戸・錦座、6月9日函館・吉野演芸場、6月12日秋田・秋田演舞場、6月13日湯沢・湯沢劇場、6月25日石動・末広座で同公演あり。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れ、「函館新聞」(6月7~8日の記事、6月4・6~7・9~11日の広告)、「秋田魁新報」(6月10・12日の記事、6月12日の広告)に拠る。	
	1937	昭和12	6/8~10	東京 明治座	艶容女舞衣	酒屋の段(中源路改メ 源=吉弥、切土佐=吉兵衛・琴市松)。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉徳)、茜屋半兵衛(玉市)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(門造)。
△	1937	昭和12	7/19	台北 栄座 (新義座)	(艶容女舞衣)	酒屋(南部=勝平)。 ※大阪新義座巡業(7月19日~8月2日、台湾・山陽)の内。桐竹門造指導乙女人形入。7月22日台南・宮古座、7月23日高雄座、7月25日虎尾交遊クラブ、7月28日基隆劇場、8月2日小郡・寿座(役割不明)で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第364号、「台湾日日新報」(7月20日)、「大阪毎日新聞」台湾版(7月22日)、『文楽興行記録昭和篇』書入れ、「関門日日新聞」(7月28日)に拠る。	
	1937	昭和12	7/21~22	京都 南座	艶容女舞衣	酒屋の段(切 鑿=新左衛門・琴猿若)。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉市)、舅半兵衛(玉蔵)、半兵衛女房(小兵吉)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(政亀)。
△	1937	昭和12	8/11	京都 朝日会館 (新義座)	三勝半七	酒屋の段(つばめ=猿系)。 ※「京都日出新聞」(8月5日)に拠る。	
	1937	昭和12	10/10~17	北陽演舞場	艶容女舞衣	酒屋の段(切 鑿=新左衛門・琴吉蔵)。 ※角書「三勝/半七」。 ※『浄瑠璃時報』第192号では千種楽は15日。	美濃屋三勝(小兵吉)、茜屋半七(玉幸)、舅半兵衛(政亀)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。
△	1937	昭和12	10/19	大紙倶楽部	(艶容女舞衣)	三勝酒屋(播路=団伊三)。 ※床世話救援会。 ※『浄瑠璃雑誌』第365号に拠る。	

△	1937	昭和12	10/27	浅草 並木倶楽部	艷容女舞衣	三勝／半七酒屋の段（杵＝團八）。 ※日本帝都義太夫因会慰問会。 ※『浄瑠璃雑誌』第365・366号、『浄瑠璃時報』第193・194号、『太棹』第90号に拠る。	
△	1938	昭和13	1/27	東京 東京劇場	（艷容女舞衣）	酒屋（呂＝吉左）。 ※大阪文楽座義太夫若手花形特別公演。素浄瑠璃。 ※『浄瑠璃雑誌』第368号、「東京朝日新聞」（1月26日の広告）に拠る。	
△	1938	昭和13	2/9	東京 鈴木演芸場	（艷容女舞衣）	酒屋（巖香＝扇七）。 ※第2回義太夫会。 ※『浄瑠璃雑誌』第368号、『太棹』第94号に拠る。	
	1938	昭和13	3/4～13	新町演舞場	艷容女舞衣	酒屋の段（切 駒＝清二郎・琴 友駒）。 ※角書「三かつ／半七」。	美濃屋三勝（文作）、茜屋半七（玉市）、舅半兵衛（玉蔵）、半兵衛女房（政亀）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉次郎）。
△	1938	昭和13	3/14	東京 鈴木演芸場	（艷容女舞衣）	酒屋（津賀＝紋左衛門）。 ※第3回義太夫会。 ※『太棹』第94号に拠る。	
△	1938	昭和13	3/15	岐阜 金華劇場 〈新義座〉	艷姿女舞衣	三勝半七酒屋の段（南部＝勝平）。 ※大阪新義座巡業（3月14～22日、東海・近畿）の内。 ※「岐阜日日新聞」（3月11～12・14～16日）に拠る。	
△	1938	昭和13	4/1	北陽演舞場 〈新義座〉	艷容女舞衣	酒屋の段（南部＝勝平）。 ※『浄瑠璃雑誌』第369・370号、「大阪毎日新聞」（3月27日）に拠る。	
△	1938	昭和13	4/21	台湾 栄座 〈新義座〉	艷姿女舞衣	三勝半七酒屋の段（陸路＝徳若）。 ※大阪新義座巡業（4月20日～、台湾）の内。 ※「台湾日日新報」（4月17・19～20日の記事、4月20日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第369号に拠る。	
△	1938	昭和13	5/25	東京 仁寿講堂 〈新義座〉	（艷容女舞衣）	酒屋（叶＝観西翁）。 ※大阪新義座巡業（5月25日～6月上旬、東京・東海）の内。 ※『太棹』第94・95号、「東京朝日新聞」（5月13日）に拠る。	
△	1938	昭和13	6/19	高知 堀詰座	三勝半七	酒屋（駒＝清二郎・琴 重次郎）。 ※『浄瑠璃雑誌』第371号、「高知新聞」（6月13・15～16・19～23日）に拠る。	
	1938	昭和13	7/1～4	東京 新橋演舞場	艷容女舞衣	酒屋の段（切 鑓＝新左衛門・琴 友三郎）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（栄三郎）、茜屋半七（玉市）、舅半兵衛（門造）、半兵衛女房（玉七）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉次郎）。
△	1938	昭和13	8/8～9	京都 南座	艷容女舞衣	酒屋の段（伊達＝友衛門・友三郎）。 ※角書「三勝／半七」。 ※『浄瑠璃雑誌』第373号、『昭和の南座 資料編（上）』、「京都日日新聞」（8月8・10日）に拠る。	半七（玉市）、お園（紋十郎）、宗岸（政亀）。
△	1938	昭和13	8/23	信州岩村田町 千曲錦三階 ホール	（艷容女舞衣）	酒屋（都＝扇之助）。 ※義太夫大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第373号に拠る。	

	1938	昭和13	9/26~28	東京 明治座	艷容女舞衣	酒屋の段（呂＝叶／／伊達＝友衛門・琴 清友）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（栄三郎）、茜屋半七（玉徳）、舅半兵衛（門造）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁お園（紋十郎）、親宗岸（小兵吉）。
△	1938	昭和13	10/7	北海道 吉野演芸場 （新義座）	三勝半七	酒屋（南部）。 ※大阪新義座巡業（9月中旬～10月下旬、東北・北海道）の内。 ※「函館新聞」（9月27日・10月8日の記事、10月4～9日の広告）に拠る。	
△	1938	昭和13	12/23	東京 日比谷公会堂	（艷容女舞衣）	酒屋（織＝団六・清友）。 ※支那事変戦死者遺家族第3回感謝と慰安の夕。 ※『太棹』第100号に拠る。	
△	1939	昭和14	1/26	東京 日本橋倶楽部	女 舞 衣	酒屋（都＝猿蔵）。 ※東京南北座初春興行。 ※『浄瑠璃雑誌』第377号、『太棹』第101号、『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	三勝（国三郎）、半七（東十郎）、半兵衛（高瀬弦之丞）、半兵衛女房（国若）、お園（池田三国）、宗岸（清三郎）。
	1939	昭和14	2/4~5	京都 南 座	艷容女舞衣	酒屋の段（切 鑿＝新左衛門）。 ※角書「三勝／半七」。	三濃屋三勝（文之助）、茜屋半七（玉徳）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（小兵吉）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（門造）。
△	1939	昭和14	2/11~12	神戸 松竹劇場	艷容女舞衣	酒屋の段（駒）。 ※角書「三勝／半七」。 ※「神戸新聞」（2月9・14～15日の記事、2月7日の広告）に拠る。	（不明）
△	1939	昭和14	2/18	神戸 神港倶楽部 （新義座）	三勝半七艷容女舞衣	酒屋の段（南部＝勝平）。 ※新浄瑠璃発表会。 ※『浄瑠璃雑誌』第377号に拠る。	
△	1939	昭和14	2/19	福岡 大博劇場	艷容女舞衣	酒屋の段（駒）。 ※角書「三勝／半七」。 ※文楽座一行巡業（2月17～23日、広島・博多・山口）の内。2月17日広島・新天劇場（役割不明）で同公演あり。 ※「中国新聞」（2月13・17日の広告）、「九州日報」（2月19・21～23・25日）に拠る。	（不明）
	1939	昭和14	3/27~29	東京 明治座	艷容女舞衣	長町美濃屋の段（三勝＝相生・伯母＝伊勢＝仙糸）、酒屋の段（切 駒＝清二郎・琴 吉蔵）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（政亀）、茜屋半七（玉市）、舅半兵衛（門造）、半兵衛女房（玉七）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉蔵）。
	1939	昭和14	4/2~	四ツ橋文楽座	艷容女舞衣	長町美濃屋の段（駒＝清二郎／／鑿＝新左衛門）、酒屋の段（切 鑿＝新左衛門／／切 駒＝清二郎・琴 吉蔵）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（政亀）、茜屋半七（玉市）、舅半兵衛（門造）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁お園（紋十郎）、親宗岸（玉蔵）。
△	1939	昭和14	4/4	京城 朝日座 （新義座）	三勝半七艷容女舞衣	酒屋の段（陸路＝徳若）。 ※大阪新義座巡業（4月1～12日、大陸）の内。乙女人形入。 ※「京城日報」（3月30日・4月2日の記事、4月5～6日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第378号に拠る。	
△	1939	昭和14	4/24	北陽演舞場 （新義座）	（艷容女舞衣）	酒屋（陸路＝徳若）。 ※桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第379号に拠る。	

△	1939	昭和14	5/2	東京 日本橋俱樂部	艷容女舞衣	酒屋の段（浪花＝猿平・松四郎）。 ※南北座春季公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第379号、『太棹』第103号に拠る。	三勝（国五郎）、半兵衛（高瀬弦之丞）、お園（池田三国）。
△	1939	昭和14	5/3	東京 仁寿講堂 （新義座）	（艷容女舞衣）	酒屋（陸路＝徳若）。 ※大阪新義座巡業（4月～5月9日、関東・東海）の内。乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第378号、『浄瑠璃時報』第231号に拠る。	
△	1939	昭和14	5/21～22	名古屋 御園座	三勝半七	酒屋（駒＝清二郎）。 ※「新愛知」（5月21日の記事と広告）に拠る。	（文五郎）、（玉蔵）。
△	1939	昭和14	6/23	東京 日本橋俱樂部	（艷容女舞衣）	美濃屋（朝見＝芳太郎）。 ※日本帝都義太夫因会男子部春季大会。 ※『太棹』第105号、『浄瑠璃月報』第13号に拠る。	
	1939	昭和14	12/1～	四ツ橋文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段（中 千駒＝団伊三／／播路＝新太郎、切 鏝＝寛治郎・琴 綱延）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（栄三郎）、茜屋半七（文之助）、茜屋半兵衛（玉市）、半兵衛女房（政亀）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（小兵吉）。
△	1940	昭和15	5/9	東京 日本橋俱樂部	（艷容女舞衣）	酒屋（弥国＝寛三郎）。 ※日本義太夫因会春季大会。 ※『太棹』第114号に拠る。	
△	1940	昭和15	9/21	東京 新橋演舞場	艷容女舞衣	酒屋の段（南部＝重造・琴 友三郎）。 ※「朝日新聞（東京）」（9月20～22・25～27日の広告）、「報知新聞」（9月20～27日の広告）、「東京日日新聞」（9月25日の記事、9月22日の広告）、『太棹』第118号、『浄瑠璃雑誌』第394・395号に拠る。	
	1940	昭和15	9	朝鮮・満州	艷姿女舞衣	酒屋の段（呂＝吉左）。 ※角書「三勝／半七」。 ※文楽座大陸巡業。	美濃屋三勝（紋司）、茜屋半七（文二郎）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（多三郎）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（政亀）。
△	1940	昭和15	10/8	東京 日本橋俱樂部	（艷容女舞衣）	酒屋（巖＝猿蔵）。 ※日本義太夫因会男子部秋季大会。 ※『太棹』第119号、『浄瑠璃雑誌』第394号に拠る。	
△	1940	昭和15	10/16	東京 日本橋俱樂部	艷容女舞衣	美濃屋（巴＝猿喜知）、酒屋（都＝桑造）。 ※東京浄瑠璃人形芝居第7回秋季報国公演。 ※『太棹』第119号、『浄瑠璃雑誌』第394号に拠る。	三勝（三春）、半七（高瀬弦之丞）、お園（池田三国）。
△	1940	昭和15	12/7	神奈川 相模原第三陸軍病院	（艷容女舞衣）	酒屋（春香＝扇之助）。 ※竹本春香太夫が慰問芸術家兵庫代表として病院慰問。 ※『浄瑠璃雑誌』第396号に拠る。	
△	1941	昭和16	1/24	東京 日本橋俱樂部	（艷容女舞衣）	酒屋（近衛＝松四郎）。 ※南北座第1回東京浄瑠璃人形芝居初春公演。 ※『太棹』第123号に拠る。	（不明）
	1941	昭和16	3/1～23	四ツ橋文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段（切 文字＝新左衛門、駒＝清二郎・琴 吉蔵）。 ※角書「三勝／半七」。 ※千穉楽は『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	美濃屋三勝（紋司）、茜屋半七（紋太郎）、親半兵衛（門造）、半兵衛女房（政亀）、嫁お園（文五郎）、舅宗岸（小兵吉）。

△	1941	昭和16	3/27	京都朝日会館	艶姿女舞衣	酒屋の段（雛＝吉季）。 ※国粹古典芸術鑑賞会主催、第10回春季文楽浄瑠璃の夕。 ※「京都日出新聞」（3月27日）に拠る。	
△	1941	昭和16	7/26	浅草並木倶楽部	（艶容女舞衣）	酒屋（津磨＝友花）。 ※鶴澤綱八追善会。 ※『太棹』第127・128号に拠る。	
△	1941	昭和16	10/5	東京国民新劇場	（艶容女舞衣）	酒屋（浪花＝猿平・松四郎）。 ※南北座秋季公演。 ※『太棹』第130号に拠る。	お園（池田三国）。
	1941	昭和16	12/9～13	東京新橋演舞場	艶容女舞衣	酒屋の段（前 文字改め 住＝喜代之助、後 南部＝重造／／伊達＝勝平・琴 綱延）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（栄三郎）、茜屋半七（文作）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（政亀）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（門造）。
△	1942	昭和17	4/10	浅草並木倶楽部	（艶容女舞衣）	美濃屋（巴＝猿喜知）。酒屋（都＝新造）。 ※日本義太夫因会春季大会。 ※『太棹』第134号、『浄瑠璃月報』第42号に拠る。	
	1942	昭和17	5/1～	四ツ橋文楽座	艶容女舞衣	酒屋の段（前／後 役毎日替 呂＝仙糸／／伊達＝勝平／／南部＝重造・琴 綱延）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（紋司）、茜屋半七（紋太郎）、半兵衛（玉徳）、半兵衛女房（小兵吉）、嫁お園（紋十郎）、舅宗岸（門造）。
	1942	昭和17	7/6～10	東京新橋演舞場	艶容女舞衣	酒屋の段（前 相生＝吉五郎／／織＝団六、後 南部＝重造／／伊達＝勝平・琴 勝芳）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（紋司）、茜屋半七（栄三郎）、茜屋半兵衛（玉徳）、半兵衛女房（小兵吉）、嫁お園（紋十郎）、父親宗岸（門造）。
△	1942	昭和17	8/2	福岡大博劇場	（艶容女舞衣）	酒屋。 ※文楽座特別地方巡業（8月1～28日、九州）の内。 ※「福岡日日新聞」（7月19・26・30日・8月1日）、『浄瑠璃雑誌』第412号、『文楽芸術』第11号、『太棹』第137号に拠る。	（不明）
	1942	昭和17	9/26	四ツ橋文楽座	艶容女舞衣	三勝／半七酒屋の段（呂＝友花）。 ※日本因協会技芸奨励会第3回公演。素浄瑠璃。	
△	1942	昭和17	10/2	浅草並木倶楽部	（艶容女舞衣）	美濃屋（朝見＝和孝）。 ※義太夫古曲発表会。 ※『浄瑠璃月報』第52号、『太棹』第138号、『浄瑠璃雑誌』第415号に拠る。	
△	1942	昭和17	10/28	京都朝日会館	（艶容女舞衣）	三勝半七酒屋の段（呂＝仙糸）。 ※国粹古典芸術鑑賞会主催、第13回秋季文楽浄瑠璃の夕。 ※『文楽芸術』第13号、「朝日新聞（大阪）」京都版（10月25～26日の広告）に拠る。	
△	1942	昭和17	11/25～27	東京軍人会館	（艶容女舞衣）	三勝半七酒屋の段（南部＝重造）。 ※人形浄瑠璃の夕。 ※『浄瑠璃雑誌』第415号、『文楽芸術』第13号、『太棹』第140号に拠る。	お園（文五郎）。
	1942	昭和17	12/6～10	東京新橋演舞場	艶容女舞衣	酒屋の段（住＝喜代之助改め 吉三郎、南部＝重造／／伊達＝勝平改め 喜左衛門・琴 綱延改め 錦糸）。	美濃屋三勝（紋司）、茜屋半七（栄三郎）、親半兵衛（玉徳）、半兵衛女房（小兵吉）、娘おその（紋十郎）、舅宗岸（門造）。

	1943	昭和18	10/1~	四ツ橋文楽座	艶容女舞衣	酒屋の段（前 南部=重造／／伊達=喜左衛門、後 伊達=喜左衛門／／南部=重造・琴 寛子）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（紋司）、茜屋半七（玉男）、舅半兵衛（亀松）、半兵衛女房（政亀）、娘お園（紋十郎）、親宗岸（門造）。
△	1943	昭和18	10/16	東京すゞ本	（艶容女舞衣）	酒屋（都=新造）。 ※第2回義太夫錬成道場。 ※『浄瑠璃月報』第78・79号、『太棹』第149号に拠る。	
△	1943	昭和18	10/24	浅草並木倶楽部	（艶容女舞衣）	酒屋（紅葉=猿三郎）。 ※日本義太夫因会男子部秋季大会。 ※『太棹』第149号、『浄瑠璃月報』第79号に拠る。	
	1943	昭和18	12/15~21	東京新橋演舞場	艶容女舞衣	酒屋の段（前 住=絃平改め 吉二郎、後 南部=重造・琴 仙三郎）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（紋司）、茜屋半七（玉男）、舅半兵衛（光造）、半兵衛女房（政亀）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉助）。
△	1944	昭和19	1/16	東京寿々本	（艶容女舞衣）	酒屋（浪花=吉二郎）。 ※義太夫特選会。 ※『浄瑠璃月報』第83号に拠る。	
	1944	昭和19	6/1~	四ツ橋文楽座	艶容女舞衣	酒屋の段（前 七五三=綱造、切 呂=友衛門・高音 錦糸／新三郎）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（紋司）、茜屋半七（紋太郎）、舅半兵衛（玉徳）、半兵衛女房（小兵吉）、嫁お園（光造）、親宗岸（亀松）。
△	1944	昭和19	10/5~7	名古屋御園座	艶容女舞衣	酒屋の段（南部=寛治郎）。 ※『御園座七十年史』、「中部日本新聞」（9月27日の記事、9月26~30日・10月2~4・6~7日の広告）に拠る。	（不明）
△	1944	昭和19	11/1~6	神戸松竹劇場	艶容女舞衣	酒屋の段。 ※角書「三勝／半七」。 ※「神戸新聞」（10月30日・11月4~5日の広告）に拠る。	（不明）
△	1945	昭和20	6	地方公演（四国・九州）	（艶容女舞衣）	酒屋の段。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
	1945	昭和20	8/5~14	朝日会館	艶容女舞衣	酒屋の段（一日替り 南部=寛治郎／／伊達=喜左衛門）。 ※第2回復興公演。	三勝（亀夫）、半七（藤一）、半兵衛（玉徳）、母親（多三郎）、お園（光造）、宗岸（玉助）。
△	1945	昭和20	9/1~6	京都南座	艶容女舞衣	酒屋の段（呂）。 ※『昭和の南座 資料編（上）』、『文楽人形の芸術』、「京都新聞」（8月27~28・30~31日・9月1・6~7・12~13日の広告）に拠る。	（不明）
△	1945	昭和20	11/16~21	神戸八千代劇場	艶容女舞衣	酒屋の段。 ※「神戸新聞」（11月16・21日の広告）に拠る。	（不明）
	1945	昭和20	12/18	三重カ富田劇場	艶容女舞衣	三勝半七酒屋の段（南部=寛治郎・高音 団作）。 ※大阪文楽座巡業（12月12~21日、東海）の内。12月21日松阪市・松阪劇場（役割不明）で同公演あり。	三勝（紋之助）、茜屋半七（紋昇）、半兵衛（玉徳）、半兵衛女房（常次）、娘お園（文五郎）、親宗岸（門造）。

	1946	昭和21	3/31~ 4/14	京都 南 座	艷容女舞衣	酒屋の段（中 源=清二郎、切 古靱=清六・琴 寛弘）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（栄三郎）、茜屋半七（紋司）、茜屋半兵衛（門造）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉助）。
	1946	昭和21	4/28~ 5/19	四ツ橋文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段（中 源=清二郎、切 古靱=清六・琴 寛弘）。 ※角書「三勝／半七」。 ※千種楽は第1回若手向上会（『文楽興行記録昭和篇』『松竹百年史』）。	美濃屋三勝（栄三郎）、茜屋半七（紋司）、茜屋半兵衛（門造）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉助）。
△	1946	昭和21	6/1~	地方公演 （中国・九州）	艷容女舞衣	酒屋（呂=友衛門）。 ※6月21日佐賀・佐賀劇場は竹本伊達太夫が勤める（「西日本新聞」地方版（6月18~19日の広告）に拠る）。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	三勝（紋之助）、半七（亀三）、半兵衛（玉徳）、半兵衛女房（紋太郎）、お園（文五郎）、宗岸（光造）。
△	1946	昭和21	8/27	ラジオ放送	（艷容女舞衣）	酒屋（古靱）。 ※「朝日新聞（大阪）」「毎日新聞（大阪）」（8月27日）に拠る。	
	1946	昭和21	9/26	東京 帝国 劇場	艷容女舞衣	酒屋の段（古靱=清六・箏 団六）。 ※帝劇芸術祭。	
	1946	昭和21	11/24	京都 南 座	艷容女舞衣	酒屋の段（織=団六）。 ※邦楽鴨風会第1回公演。	
			11/25	兵庫 宝塚大劇場			
△	1946	昭和21	11/24~26	地方公演 （島根）	三勝半七艷容女舞衣	酒屋の段（伊達=喜左衛門）。 ※「島根新聞」（11月20日の記事、11月22・24日の広告）に拠る。	お園（紋十郎）。
	1946	昭和21	12/5~23	四ツ橋文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段（相生=吉五郎／／呂=友衛門／／織=団六／／伊達=喜左衛門・琴 寛弘）。	美濃屋三勝（玉男）、茜屋半七（紋昇）、舅半兵衛（玉徳）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉助）。
			12/24		艷容女舞衣	酒屋の段（松=清二郎・琴 錦糸）。 ※第3回若手向上会。	美濃屋三勝（文五郎）、茜屋半七（玉市）、舅半兵衛（玉枝）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁お園（栄三郎）、親宗岸（玉男）。
	1947	昭和22	2	地方公演 （東海）	艷容女舞衣	酒屋の段（切 呂=友衛門）。 ※角書「三勝／半七」。	三勝（紋之助）、半七（亀三）、舅半兵衛（玉徳）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（光造）。
	1947	昭和22	3/24~25	奈良 友 楽 座	艷容女舞衣	酒屋の段（切 呂=友衛門）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（和夫）、茜屋半七（玉枝）、舅半兵衛（玉徳）、半兵衛女房（紋太郎）、娘お園（文五郎）、親宗岸（門造）。
	1947	昭和22	5/3~27	四ツ橋文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段（中 越名=勝太郎、切 織改め 綱=団六改め 弥七）。 ※角書「三勝／半七」。 ※豊竹山城少掾受領披露・織太夫改め竹本綱太夫・団六改め竹沢弥七襲名披露興行。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。	美濃屋三勝（紋之助）、茜屋半七（玉枝）、舅半兵衛（玉徳）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁お園（紋十郎）、親宗岸（門造）。
	1947	昭和22	6/25~	地方公演 （中国）	艷容女舞衣	酒屋の段（切 呂=友衛門）。	美の屋三勝（和夫）、茜屋半七（紋之助）、舅半兵衛（亀三）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉徳）。

△	1947	昭和22	6/30	愛媛 八幡浜劇場	三勝半七艶 容女舞衣	酒屋の段（伊達＝喜左衛門・琴 重造）。 ※四国巡業（6月25～30日）の内。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れ、「愛媛新聞」（6月23・26日の広 告）に拠る。	（不明）
	1947	昭和22	7/4～11	京都 南 座	艶容女舞衣	酒屋の段（前 住＝広助、後 伊達＝喜左衛門）。	美濃屋三勝（玉男）、茜屋半七（紋昇）、茜屋 半兵衛（兵次）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁お その（亀松）、親宗岸（玉徳）。
	1947	昭和22	7/26	和歌山 和歌山会館	艶容女舞衣	酒屋の段（伊達＝喜左衛門）。 ※角書「三かつ／半七」。 ※和歌山会館柿茸落し（『文楽因会三和会興行年表』）。	美濃屋三かつ（玉男）、茜屋半七（玉枝）、舅 半兵衛（玉徳）、半兵衛女房（兵次）、嫁お園 （文五郎）、親宗岸（玉市）。
	1947	昭和22	8/31～9/7	名古屋 中京劇場	艶容女舞衣	酒屋の段（切 織改め 綱＝団六改め 弥七）。 ※角書「三勝／半七」。 ※「一日日延べ」（『文楽興行記録昭和篇』）。	三勝（玉男）、半七（亀三）、茜屋半兵衛（玉 徳）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁お園（文五 郎）、親宗岸（玉市）。
	1947	昭和22	9/14～19	東京 東京劇場	艶容女舞衣	酒屋の段（切 織改め 綱＝団六改め 弥七・琴 寛弘）。 ※角書「三勝／半七」。 ※芸術祭参加・掾位受領披露。	美濃屋三勝（玉男）、茜屋半七（亀三）、舅半 兵衛（玉市）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁おそ の（紋十郎）、親宗岸（玉助）。
	1947	昭和22	12/2～3	姫路 姫路公会堂	艶容女舞衣	酒屋の段（綱＝弥七）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（紋昇）、茜屋半七（玉男）、舅半 兵衛（玉市）、舅女房（浜次）、嫁おその（紋十 郎）、親宗岸（玉助）。
△	1947	昭和22	12/17	ラジオ放送	（艶容女舞 衣）	酒屋（雛）。 ※「朝日新聞（大阪）」「読売新聞」（12月17日）に拠る。	
△	1948	昭和23	3	地方公演 （九州）	艶容女舞衣	酒屋の段。 ※25日間。 ※「西日本新聞」地方版（3月3・11・16・21日の広告）、「熊本日日新 聞」（3月3日の広告）、「長崎日日新聞」（3月13日の記事と広告）、 『文楽』（昭和23年4月号）に拠る。	（不明）
	1948～ 1955カ	昭和23 ～ 昭和30 カ	4/5	協 和 会 館 〈三和会〉	艶姿女舞衣	三勝半七酒屋の段（前 つばめ＝燕三、後 若＝喜左衛門）。 ※大阪文楽鑑賞会。	三勝（紋二郎）、半七（紋弥）、半兵衛（紋 市）、半兵衛女房（紋之丞）、嫁おその（紋十 郎）、親宗岸（辰五郎）。
△	1948	昭和23	7/16	浜松 江 東 劇 場	艶容女舞衣	酒屋の段。 ※東海巡業（7月13～16日）の内。 ※「浜松民報」（7月21日の記事、7月16日の広告）に拠る。	（不明）
△	1948	昭和23	7/19～20	岡山 岡 山 劇 場	三勝半七	酒屋（相生）。 ※山陽巡業の内。 ※「山陽朝報」（7月21日の記事、7月18日の広告）、「山陽新聞」（7 月17日の広告）に拠る。	（不明）
△	1948	昭和23	7/30	ラジオ放送	（艶容女舞 衣）	酒屋（伊達）。 ※「朝日新聞（大阪）」「読売新聞」（7月30日）に拠る。	

	1948	昭和23	10/2~24	中 座	艶容女舞衣	酒屋の段（切 綱=弥七）。 ※角書「三勝／半七」。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。 ※竹本綱太夫の代役で豊竹つばめ太夫の日あり（『文楽興行記録昭和篇』）。	三勝（玉男）、半七（紋之助）、半兵衛（玉徳）、半兵衛女房（紋太郎）、おその（文五郎）、宗岸（亀松）。
△	1948	昭和23	12/3~4	高知 堀 詰 座	艶容女舞衣	三勝半七酒屋の段。 ※「高知新聞」（12月1・4日の広告）に拠る。	（不明）
△	1948	昭和23	12/4	東京 芝美術会館	（艶容女舞衣）	酒屋（綱=弥七）。 ※東京における山城会発会。 ※『幕間』（昭和24年1月号）、『芝居手帳』（昭和24年1月号）に拠る。	
△	1948	昭和23	12/14~15	京都 福知山市公会堂	三勝半七	酒屋の段。 ※「京都新聞」（12月11日の広告）に拠る。	
△	1949	昭和24	1/12	ラジオ放送 〈組合〉	（艶容女舞衣）	酒屋（伊達）。 ※「朝日新聞（大阪）」「毎日新聞（大阪）」（1月12日）に拠る。	
△	1949	昭和24	1/16	浜松 江 東 劇 場 〈組合〉	三勝半七	酒屋の段。 ※1月18日愛知県知多市・喜楽座で同公演あり。 ※「浜松民報」（1月15日の広告）、チラシに拠る。	（不明）
	1949	昭和24	3/3~	地方公演 （九州） 〈組合〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段（前 住=吉兵衛、後 伊達=喜左衛門）。	三勝（紋三郎）、半七（作十郎）、半兵衛（玉徳）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁おその（紋十郎）、親宗岸（国五郎）。
	1949	昭和24	5/1~6	東京 有 楽 座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 浜=清友、後 相生=松之輔・琴 清友）。 ※角書「三かつ／半七」。	美濃屋三勝（和夫）、茜屋半七（光次）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（兵次）、嫁おその（光造）、親宗岸（玉助）。
△	1949	昭和24	5/28	滋賀 大 通 寺 〈因会〉	（艶容女舞衣）	酒屋（綱=弥七）。 ※山城を聴く会。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
	1949	昭和24	7/21~22	京都 祇 園 会 館 〈組合〉	（艶容女舞衣）	酒屋の段（住=吉兵衛、伊達=喜左衛門）。	三勝（紋三郎）、半七（紋二郎）、半兵衛（作十郎）、半七母（紋太郎）、おその（紋十郎）、宗岸（国五郎）。
△	1949	昭和24	7	地方公演 （関東・東海・四国） 〈組合〉	三勝半七	酒屋の段。 ※11日間。 ※『三和会公演控』、「岐阜タイムス」（7月18・21日の広告）、「東海夕刊」（7月21日の広告）、「中部日本新聞（岐阜版）」（7月21日の広告）に拠る。	（不明）
	1949	昭和24	8~9	地方公演 （東北・北海道） 〈因会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段（前 相生=松之輔、後 綱=弥七・琴 清友）。	美濃屋三勝（和夫）、茜屋半七（光次）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（兵次）、娘おその（光造）、親宗岸（玉助）。

△	1949	昭和24	9/17	岡崎 岡崎劇場 〈組合〉	三勝半七	酒屋の段。 ※東海巡業の内。9月15日の公演予定が、荷物延着のため17日に延期。 ※「東海新聞(岡崎)」(9月15~17日の広告)に拠る。	(不明)
△	1949	昭和24	9/28~29	和歌山新宮市 日の出映画劇場 〈組合〉	三勝半七	酒屋の段(前住=吉兵衛、後伊達=喜左衛門)。 ※新宮市警察署庁舎落成記念興行。 ※「紀南新聞」(9月27日の広告)に拠る。	
△	1949	昭和24	10/1	紀伊田辺 常盤座 〈組合〉	三勝半七	酒屋の段。 ※「紀伊民報」(9月23日・10月2日)、「紀伊新聞」(9月29日)、『三和会公演控』に拠る。	(不明)
△	1949	昭和24	10/14	姫路 姫路市公会堂 〈組合〉	三勝半七	酒屋の段(つばめ)。 ※「姫路新聞」(10月8日)に拠る。	(不明)
			10/18	今治市 大劇 〈組合〉	三勝半七 艶容女舞衣	酒屋の段。 ※柿葺落公演。 ※播州路・四国巡業の内。10月23日徳島・歌舞伎座で同公演あり。 ※「愛媛新聞」(10月16日の広告)、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』、「徳島民報」(10月22日の広告)に拠る。	(不明)
△	1949	昭和24	11/1	ラジオ放送 〈因会〉	(艶容女舞衣)	酒屋(綱)。 ※「朝日新聞(大阪)」 「毎日新聞(大阪)」(11月1日)に拠る。	
	1949	昭和24	12/1~8	東京 三越劇場 〈組合〉	艶容女舞衣	酒屋の段(前つばめ=勝太郎、後伊達=喜左衛門)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(紋之助)、半七(作十郎)、半兵衛(紋昇)、半兵衛女房(紋太郎)、おその(紋十郎)、宗岸(玉徳)。
	1949	昭和24	12/1	広島 〈因会〉	艶容女舞衣	(綱=弥七)。	三勝(和夫)、半七(光次)、舅半兵衛(玉市)、女房(兵次)、娘おその(光造)、親宗岸(玉助)。
△	1949	昭和24	12/10	桐生 東宝劇場 〈組合〉	艶容女舞衣	酒屋の段(前つばめ=勝太郎、後伊達=喜左衛門)。 ※角書「三勝/半七」。 ※「上毛新聞」(12月8日の広告)に拠る。	三勝(紋之助)、半七(作十郎)、半兵衛(紋昇)、半兵衛女房(紋太郎)、おその(紋十郎)、宗岸(玉徳)。
△	1949	昭和24	12/24	浪華屋百貨店 〈組合〉	三勝半七	酒屋の段(伊達=喜左衛門)。 ※「大阪日日新聞」(12月19日)に拠る。	(不明)
△	1949	昭和24	12/25	四ツ橋文楽座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋(浜=清友)。 ※文楽デー。 ※「大阪日日新聞」(12月27日の記事、12月24日の広告)に拠る。	(不明)
	1950	昭和25	1/2~20	四ツ橋文楽座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(中浜=八造、切山城少掾=弥七・琴清友)。 ※角書「三勝/半七」。 ※千種楽は『松竹百年史』に拠る。	美濃屋三勝(紋司)、茜屋半七(玉男)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(兵次)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉助)。
	1950	昭和25	2/4~5	枚方パーク 〈因会〉	(艶容女舞衣)	酒屋の段(中浜=八造、切山城少掾=弥七)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(紋司)、茜屋半七(玉男)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(兵次)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉助)。

	1950	昭和25	2/11~14	名古屋 御園座 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段（中 浜＝八造、切 山城少掾＝弥七）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（紋司）、茜屋半七（玉男）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（兵次）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉助）。
△	1950	昭和25	2/11~12	兵庫 洲本劇場 〈組合〉	三勝半七	酒屋。 ※淡路芸能文化協会主催、洲本市制10周年記念行事。 ※「神戸新聞」淡路版（2月10日）に拠る。	（不明）
△	1950	昭和25	2/22	豊橋 豊橋大劇場 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段（中 浜＝八造、切 山城少掾＝弥七）。 ※角書「三勝／半七」。 ※「東三新聞」（2月8日）に拠る。	美濃屋三勝（紋司）、茜屋半七（玉男）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（兵次）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉助）。
	1950	昭和25	3/4~8	東京 新橋演舞場 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段（中 浜＝八造、切 山城少掾＝弥七）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（紋司）、茜屋半七（玉男）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（兵次）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉助）。
△	1950	昭和25	4/12	富山 富山座 〈組合〉	（艷容女舞衣）	酒屋。 ※高知・北陸巡業（11日間）の内。4月18日金沢市・北国第一劇場で同公演あり。 ※「富山新聞」（4月6・12日の広告）、「北陸夕刊」（4月10日の広告）、「石川新聞」（4月16日の記事、4月17日の広告）、「北国新聞」（4月11・17日の広告）に拠る。	（不明）
△	1950	昭和25	4/29	枚方パーク 〈因会〉	（艷容女舞衣）	酒屋（松＝清友）。 ※人形遣ひの名人吉田文五郎を讃えるよい子の会。 ※『幕間』（昭和25年6月号）に拠る。	お園（文五郎）。
△	1950	昭和25	5/13	帯広 帯広劇場 〈組合〉	三勝半七	酒屋の段。 ※東北・北海道巡業（13日間）の内。 ※「北海道新聞（札幌市内）」（5月12日の広告）に拠る。	（不明）
	1950	昭和25	7/6~	地方公演 （東北・信越） 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段（切 山城少掾＝弥七）。 ※角書「三勝／半七」。 ※豊竹山城少掾休演、代役未詳。	美濃屋三勝（文五郎）、茜屋半七（光次）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（兵次）、嫁おその（栄三）、親宗岸（玉助）。
△	1950	昭和25	7/13~14	岐阜市 真砂座 〈組合〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段。 ※名古屋・岐阜巡業（10日間）の内。 ※「岐阜タイムス」（7月7・12日の広告）、「中部日本新聞」岐阜版（7月7・12日の広告）、「三和会公演控」、「文楽因会三和会興行記録」に拠る。	（不明）
	1950	昭和25	8/4~15	四ツ橋文楽座 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段（前 静＝八造、後 松＝豊助・琴 寛弘／／前 静＝新三郎、後 雛＝友十郎・琴 寛弘）。 ※角書「三勝／半七」。 ※若手奮闘納涼興行。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（光次）、半兵衛（常次）、半兵衛女房（登一）、嫁おその（文五郎）、親宗岸（兵次）。
△	1950	昭和25	8/7	倉敷 松竹劇場 〈組合〉	三勝半七艷容女舞衣	酒屋の段。 ※中国巡業の内。 ※「山陽新聞」「夕刊岡山」（8月7日の広告）、「三和会公演控」、「文楽因会三和会興行記録」に拠る。	（不明）

	1950	昭和25	8/19~26	三越劇場 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段（前 つばめ=勝太郎／錦糸、後 伊達=喜左衛門）。 ※8月19日ラジオ放送（「朝日新聞（大阪）」「毎日新聞（大阪）」（8月19日）に拠る）。	三勝（紋二郎）、半七（紋弥）、半兵衛（作十郎）、女房（紋太郎）、おその（紋十郎）、宗岸（玉徳）。
	1950	昭和25	9/7	和歌山湯浅町警察署 〈三和会〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段（前 つばめ=叶太郎、後 伊達=喜左衛門）。	（不明）
	1950	昭和25	9/12~	地方公演 （関東・北陸） 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段（伊達=喜左衛門）。 ※角書「三勝／半七」。	三勝（紋二郎）、半七（作十郎）、半兵衛（斉次郎）、母親（豊三郎）、おその（紋十郎）、宗岸（玉徳）。
△	1950	昭和25	9/28	田辺市常盤座 〈三和会〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段。 ※和歌山巡業の内。9月5日の予定が台風により順延。 ※「紀伊民報」（9月6日の記事、9月20・28日の広告）に拠る。	（不明）
	1950	昭和25	10/21	兵庫兵庫県立加古川東高等学校講堂 〈三和会〉	三勝半七艷容女舞衣	酒屋の段。	（不明）
△	1950	昭和25	11/25	鹿児島市日本劇場 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段。 ※11月24日熊本・歌舞伎座、11月27日長崎市・西日本会館（人形役割不明）、11月29日直方市・多賀劇場（人形役割不明）、11月30日小倉・小倉劇場、12月2日延岡市・新世界劇場で同公演あり。 ※「南日本新聞」（11月24・26日の記事、11月24日の広告）、「熊本日日新聞」（11月19・21日）、「夕刊西日本新聞」（11月24日）、「西日本新聞」北九州版（11月29日の広告）、「日向日日新聞」（12月7日）に拠る。	お園（文五郎）。
			11/28	佐世保佐世保市公会堂 〈因会〉		（綱=弥七）。 ※九州・山陰巡業の内。 ※「時事新聞」（12月1日の記事、11月28日の広告）に拠る。	お園（文五郎）。
	1951	昭和26	1/14	日芸会館 〈三和会〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段（前 住=友衛門、後 伊達=喜左衛門）。	三勝（紋二郎）、半七（紋弥）、半兵衛（年一）、母親（紋太郎）、おその（紋十郎）、宗岸（玉徳）。
△	1951	昭和26	2/6	静岡静岡市公会堂 〈三和会〉	三勝半七艷容女舞衣	酒屋の段。 ※東海巡業の内。 ※「静岡新聞」（1月31日の広告）に拠る。	（不明）
△	1951	昭和26	3/10~16	地方公演 （北陸） 〈三和会〉	三勝半七艷容女舞衣	酒屋の段。 ※『三和会公演控』、「富山新聞」（3月8・10日の広告）、「北日本新聞」（3月6・7日の広告）、「北国新聞」（3月7・15日の広告）、「石川新聞」（3月4・14日の広告）、「福井新聞」（3月16日の記事、3月6・15日の広告）に拠る。	（不明）

	1951	昭和26	4/1	〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段。 ※藤浪紡績株式会社阪和久米田工場新築記念。床は素人義太夫。 ※場所不明。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（光次）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（辰造）、嫁お園（栄三）、親宗岸（玉市）。
	1951	昭和26	4/3～10	名古屋御園座 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段（前 河内=清友、後 松=清二郎・高音 寛弘）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（光次）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（登一）、嫁お園（亀松）、親宗岸（玉市）。
	1951	昭和26	4/14～16	能勢中谷公民館 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段（切 綱=弥七・高音 寛弘）。 ※角書「三勝／半七」。 ※落成祝賀会。	美濃屋三勝（玉男）、茜屋半七（栄三）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（登一）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（辰造）。
△	1951	昭和26	4/25	ラジオ放送 〈因会〉	（艷容女舞衣）	酒屋（松）。 ※「朝日新聞（大阪）」「毎日新聞（大阪）」（4月25日）に拠る。	
△	1951	昭和26	5/1	滋賀真盛座 〈三和会〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段（伊達=喜左衛門）。 ※北陸巡業の内。5月2日大垣市・日本劇場（役割不明）、5月6日松本市・松本市第二公民館、5月19日仙台・仙台劇場で同公演あり。 ※「滋賀新聞」（4月29日の広告）、「東海夕刊」（5月1～2日の広告）、「岐阜タイムス」（5月1日の広告）、「信濃毎日新聞」（5月6～7日の記事、5月1日の広告）、「河北新報」（5月13日の記事、5月18日の広告）、「東北日報」（5月19日の広告）、「夕刊とうほく」（5月14日の広告）、「三和会公演控」、「文楽因会三和会興行記録」に拠る。	三勝（紋二郎）、半七（紋昇）、半兵衛（作十郎）、女房（駒三郎）、おその（紋十郎）、宗岸（玉徳）。
	1951	昭和26	6/1～6	東京三越劇場 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段（前 つばめ=勝太郎、後 伊達=喜左衛門）。 ※桐竹紋昇改め二代桐竹勘十郎襲名披露。	美濃屋三勝（紋二郎）、茜屋半七（紋弥）、茜屋半兵衛（勘十郎）、女房（紋之丞）、嫁おその（紋十郎）、おその父宗岸（玉徳）。
	1951	昭和26	6/4～	地方公演 （北陸・北海道・東北・信越） 〈因会〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段（切 山城少掾=弥七）。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（玉男）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（辰造）、嫁おその（文五郎）、親宗岸（亀松）。
△	1951	昭和26	7/20～22	名古屋松坂屋ホール 〈三和会〉	三勝半七	酒屋の段（伊達=喜左衛門）。 ※「夕刊新東海」（7月19日）、「三和会公演控」、「文楽因会三和会興行記録」に拠る。	お園（紋十郎）。
			7/28	岐阜市公会堂 〈三和会〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段（伊達=喜左衛門）。 ※東海巡業の内。7月24日横浜市・神奈川体育館で同公演あり。 ※「東海夕刊」（7月24・29日の記事、7月24日の広告）、「岐阜タイムス」（7月28～29日の記事、7月24日の広告）、「神奈川新聞」（7月21日）、「三和会公演控」、「文楽因会三和会興行記録」に拠る。	おその（紋十郎）。
	1951	昭和26	8/17～21	京都南座 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段（中 河内=清友、切 山城少掾=弥七）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（紋司改め 玉五郎）、茜屋半七（光次）、半兵衛（兵次）、半兵衛女房（辰造）、娘おその（文五郎）、親宗岸（玉市）。

	1951	昭和26	9/8~27	四ツ橋文楽座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（中 宮／長子＝錦糸、切 山城少掾＝弥七・寛弘）。 ※角書「三勝／半七」。 ※9月30日ラジオ放送（「朝日新聞（大阪）」「読売新聞」（9月30日）に拠る）。 ※鶴沢寛弘はラジオ放送の典拠に拠る。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（光次）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（辰造）、お園（文五郎）、親宗岸（玉助）。
	1951	昭和26	9/29	神戸 神戸商工会議所 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（中 宮＝錦糸、切 山城少掾＝弥七）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（光次）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（辰造）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉助）。
△	1951	昭和26	11/24	松山 国際劇場 〈因会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段（前 河内＝清友、後 松＝豊助）。 ※「愛媛新聞」（11月23日の広告）に拠る。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（玉男）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（辰造）、娘おその（文五郎）、親宗岸（亀松）。
			11/27	愛媛宇和 〈因会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段（前 河内＝清友、後 松＝豊助）。 ※四国巡業の内。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（玉男）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（辰造）、娘おその（文五郎）、親宗岸（亀松）。
	1951	昭和26	12/18~21	名古屋 御園座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（中 静＝豊助、切 山城少掾＝弥七）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（光次）、茜屋半七（玉昇）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（常次）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉市）。
	1951	昭和26		〈三和会〉	艶姿女舞衣	三勝半七 酒屋の段（前 つばめ＝勝太郎、切 伊達＝喜左衛門）。 ※日程・場所不明。	
△	1952	昭和27	3/10~12	四ツ橋文楽座 〈因会〉	（艶容女舞衣）	酒屋（松＝松之輔・寛弘）。 ※本公演終演後、記録映画「文楽人形劇の妙技」（文部省・松竹）のため「酒屋」のお園のサワリを撮影。文五郎ほか（『文楽興行記録昭和篇』）。 ※「朝日新聞（東京）」（3月11日）、『幕間』（昭和27年4月号）に拠る。	お園（文五郎）。
△	1952	昭和27	3/24	金沢 北国第一劇場 〈三和会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段（伊達＝喜左衛門）。 ※北陸巡業（3月21~29日）の内。 ※「北国新聞」（3月24日の記事、3月17・19・24日の広告）、「新夕刊」（3月21日）に拠る。	半七（紋二郎）、半兵衛（駒三郎）、お園（紋十郎）、宗岸（辰五郎）。
	1952	昭和27	7/1~4	東京 新橋演舞場 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（中 河内＝豊助、切 山城少掾＝清二郎改め 藤蔵・高音 寛弘）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（光次）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（紋太郎）、お園（文五郎）、親宗岸（玉助）。
	1952	昭和27	8/6~10	京都 南座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 相生＝松之輔、後 松＝清六・高音 寛弘）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（光次）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁お園（栄三）、親宗岸（玉市）。
	1952	昭和27	9/12~21	中座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（中 河内＝鱗系改め 喜八郎、切 山城少掾＝藤蔵・高音 寛弘）。 ※近松門左衛門生誕三百年記念特別公演。 ※野沢鱗系改め野沢喜八郎、大正9年以来出座（『文楽興行記録昭和篇』）。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（光次）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（常次）、嫁おその（文五郎）、親宗岸（玉市）。

△	1952	昭和27	11/3	徳島 歌舞伎座 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段。 ※九州・四国巡業（19日間）の内。10月30日高知市・中央公民館、10月31日高知県後免町・日の出座で同公演あり。 ※「徳島民報」（11月2日の広告）、「徳島新聞」（11月2・4日）、「高知新聞」（10月15・29～30日の広告）に拠る。	（不明）
	1952	昭和27	11/15～20	三越劇場 〈三和会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段（前 源＝叶太郎、後 伊達＝喜左衛門）。	三勝（紋二郎）、半七（紋寿）、舅半兵衛（紋市）、半兵衛女房（紋之丞）、おその（紋十郎）、親宗岸（辰五郎）。
	1952	昭和27	12/8～12	東京 新橋演舞場 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 雛＝清八、後 松＝清六）。 ※角書「三勝／半七」。 ※近松門左衛門生誕三百年記念文楽祭。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（文昇）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（常次）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉助）。
	1952	昭和27		〈因会〉	（艶容女舞衣）	酒屋（松＝錦糸）。 ※今橋クラブ春季総会懇親会。 ※日程・場所不明。	（文雀）、（文昇）。
△	1953	昭和28	1/11・ 15・18	四ツ橋文楽座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（雛＝吉三郎）。 ※第2回義太夫教室。 ※チラシに拠る。	
△	1953	昭和28	1/11	広島 広島市児童文 化会館 〈三和会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段。 ※「中国新聞」（1月10日の記事、1月8・10日の広告）に拠る。	（不明）
	1953	昭和28	3/27～29	神戸 織維会館 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（中 河内＝豊助、切 山城少掾＝藤蔵・琴 寛弘）。 ※角書「三勝／半七」。	三勝（文昇）、半七（玉昇）、茜屋半兵衛（兵次）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁おその（文五郎）、親宗岸（玉助）。
	1953	昭和28	3/30	兵庫 兵庫旧青年学 校 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（中 静＝喜八郎、切 山城少掾＝藤蔵）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（玉昇）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁おその（文五郎）、親宗岸（玉助）。
△	1953	昭和28	4/4	敦賀市 国際劇場 〈三和会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段。 ※4月5日福井市・国際劇場、4月6日富山・富山座、4月7日金沢市・北国第一劇場で同公演あり。 ※「福井新聞」（4月1・3～5日の広告）、「富山新聞」（4月4・6日の広告）、「北国新聞」（4月5日の記事、4月7日の広告）に拠る。	（不明）
			4/20	呉市 本願寺会館 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 つばめ＝勝太郎、後 伊達＝喜左衛門）。 ※北陸・山陽・九州巡業の内。4月22日八幡市・花月劇場、4月28日大牟田市・太陽館、4月30日熊本市・歌舞伎座、5月3日宇部市・記念会館で同公演あり。 ※『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』、「西日本新聞」地方版（4月28日の広告）、「熊本日日新聞」（4月27日の記事、4月30日の広告）に拠る。	三勝（紋二郎）、半七（紋寿）、半兵衛（紋市）、母親（紋之丞）、おその（紋十郎）、宗岸（辰五郎）。
△	1953	昭和28	4/23	広島市 横川旭劇場 〈因会〉	三勝半七艶 姿女舞衣	酒屋の段。 ※「中国新聞」（4月21日の記事、4月15・22日の広告）に拠る。	（不明）

	1953	昭和28	5/2~24	四ツ橋文楽座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（松＝松之輔・琴 寛弘）。 ※角書「三勝／半七」。 ※土・日・祭日の昼の部のみ上演。千種楽は「毎日新聞（大阪）」（5月23日）に拠る。	美濃屋三勝（光次）、茜屋半七（文昇）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（淳造）、嫁お園（亀松）、親宗岸（玉助）。
	1953	昭和28	5/3	山口 宇部市記念会館 〈三和会〉	（艶容女舞衣）	酒屋（つばめ＝勝太郎、伊達＝喜左衛門）。	三勝（紋二郎）、半七（紋寿）、半兵衛（紋市）、半兵衛女房（紋之丞）、お園（紋十郎）、宗岸（辰五郎）。
	1953	昭和28	6/9~14	東京 三越劇場 〈三和会〉	艶姿女舞衣	酒屋の段（前 つばめ＝市治郎、後 伊達＝喜左衛門）。 ※角書「三勝／半七」。	三勝（紋二郎）、半七（作十郎）、半兵衛（紋市）、半兵衛女房（紋之丞）、お園（紋十郎）、宗岸（辰五郎）。
	1953	昭和28	6/29~	地方公演 （関東・東北・信越） 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（伊達＝喜左衛門）。	三勝（紋二郎）、半七（紋寿）、半兵衛（紋市）、母親（紋之丞）、お園（紋十郎）、宗岸（辰五郎）。
	1953	昭和28	7/2~	地方公演 （関東・信越） 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（切 綱＝弥七）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（光次）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁おその（文五郎）、父親宗岸（玉市）。
△	1953	昭和28	7/8	ラジオ放送 〈三和会〉	（艶容女舞衣）	酒屋の段（つばめ＝勝太郎）。 ※「朝日新聞（大阪）」「読売新聞」（7月8日）に拠る。	
	1953	昭和28	8/7~16	京都 南座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（中 河内＝喜八郎、切 山城少掾＝藤蔵・琴 寛弘）。 ※角書「三勝／半七」。	三勝（文雀）、半七（光次）、半兵衛（淳造）、半兵衛女房（常次）、おその（文五郎）、宗岸（玉市）。
	1953	昭和28	8/21~30	中座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（切 綱＝弥七）。 ※角書「三勝／半七」。	三勝（文昇）、半七（光次）、舅半兵衛（淳造）、半兵衛女房（常次）、娘おその（文五郎）、親宗岸（玉市）。
△	1953	昭和28	9/7	木材会館 〈因会〉	（艶容女舞衣）	酒屋（綱＝弥七）。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	（栄三）。
	1953	昭和28	9/23	鳥取 大黒座 〈三和会〉	艶姿女舞衣	三勝半七 酒屋の段（伊達＝喜左衛門）。	三勝（紋二郎）、半七（紋寿）、舅半兵衛（紋市）、半兵衛女房（紋之丞）、嫁おその（紋十郎）、親宗岸（辰五郎）。
	1953	昭和28	9/26~27	四ツ橋文楽座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段。 ※人形浄瑠璃素義会公演。	三勝（玉昇）、半七（光次）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（常次）、嫁おその（亀松）、親宗岸（玉市）。
	1953	昭和28	10/28~ 11/3	四ツ橋文楽座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大顔合せ特別公演。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（光次）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉助）。
△	1953	昭和28	11/6	長野市 長野商工会館 〈三和会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段（伊達＝喜左衛門）。 ※東海道巡業（10月2日～、8日間）の内。 ※「信濃毎日新聞」（10月19日の広告）に拠る。	（紋十郎）。

1953	昭和28	11/8~19	地方公演 (北海道) 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(切 綱=弥七)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(文昇)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(紋太郎)、嫁おその(文五郎)、父親宗岸(玉助)。
1954	昭和29	1/25~27	名古屋 御園座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(切 綱=弥七・高音 寛弘)。	三勝(玉昇)、半七(文昇)、舅半兵衛(紋太郎)、半兵衛女房(常次)、娘おその(文五郎)、親宗岸(玉市)。
1954	昭和29	3/1~6	神戸 仏教会館 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(前 つばめ=勝太郎、後 伊達=喜左衛門)。 ※八代野沢吉兵衛・鶴沢友衛門追善興行。	三勝(紋二郎)、半七(紋弥)、半兵衛(紋市)、母親(紋之丞)、おその(紋十郎)、宗岸(辰五郎)。
1954	昭和29	3/29	門司 稲荷座 〈三和会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(つばめ=燕三、切 若=喜左衛門)。 ※中国・九州巡業(3月20日~4月11日)の内。	三勝(紋二郎)、半七(紋七/紋弥)、半兵衛(紋市)、半兵衛女房(紋之丞)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。
1954	昭和29	4/2	神戸 第一楼 〈因会〉	(艶容女舞衣)	三勝半七 酒屋の段(松=清友)。	(不明)
1954	昭和29	6/11~15	東京 新橋演舞場 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(切 相生=松之輔、後 松=清六・高音 清好)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(文昇)、半七(玉昇)、茜屋半兵衛(兵次)、半兵衛女房(紋太郎)、嫁おその(文五郎)、親宗岸(玉市)。
△	昭和29	8/21	奈良 奈良市庁別館 〈三和会〉	艶容女舞衣	※「大和タイムス」(8月19日)に拠る。	
1954	昭和29	8/24~30	三越劇場 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(切 若=綱造)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(紋二郎)、茜屋半七(紋七)、舅半兵衛(紋市)、半兵衛女房(紋之丞)、娘おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。
1954	昭和29	8/31	三越劇場 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(呂賀=燕三)。 ※角書「三勝/半七」。 ※第1回若手勉強会。	三勝(勘之助)、半七(小紋)、舅半兵衛(紋市)、半兵衛女房(紋之丞)、嫁おその(紋二郎)、親宗岸(紋四郎)。
1954	昭和29	9/17~26	四ツ橋文楽座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(前 津=寛治郎、後 伊達=八造・琴 寛弘)。 ※角書「三勝/半七」。	みのや三勝(文昇)、茜屋半七(玉昇)、舅半兵衛(淳造)、半兵衛女房(常次)、娘お園(文五郎)、親宗岸(玉市)。
1954	昭和29	9/30~ 10/4	四ツ橋文楽座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大顔合せ特別公演。	みのや三勝(文雀)、茜屋半七(文昇)、舅半兵衛(淳造)、半兵衛女房(常次)、娘お園(前=文五郎、後=玉五郎)、親宗岸(玉市)。
1954	昭和29	10/6~	地方公演 (四国・九州・中国) 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(前 津=寛治郎、後 伊達=八造)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(文昇)、舅半兵衛(淳造)、半兵衛女房(常次)、嫁お園(亀松)、親宗岸(玉市)。
1954	昭和29	10/10~15	名古屋 新歌舞伎座 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(若=綱造)。 ※角書「三勝/半七」。 ※日程は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。『三和会公演控』『文楽因会三和会興行記録』は10月16~22日とする。	三勝(紋二郎)、半七(紋七)、舅半兵衛(紋市)、半兵衛女房(紋之丞)、娘おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。

△	1954	昭和29	10/20	ラジオ放送 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（伊達）。 ※「朝日新聞（大阪）」「毎日新聞（大阪）」（10月20日）に拠る。	
	1954	昭和29	11/25	大槻能楽堂 〈合同〉	艶容女舞衣	酒屋の段（若＝綱造・琴 勝平）。 ※第9回文部省芸術祭文楽合同素浄瑠璃会。 ※鶴沢綱造休演、鶴沢燕三代演（『文楽興行記録昭和篇』、『幕間』昭和30年1月号）。	
			11/28	東京 東横ホール 〈合同〉			
	1954	昭和29	12/10～18	東京 三越劇場 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 つばめ＝喜左衛門、後 源＝燕三）。 ※角書「三勝／半七」。 ※『文楽興行記録昭和篇』の人形役割は、三勝（紋寿）、半七（紋七）、お園（紋十郎）、他同じ。	三勝（紋二郎）、半七（紋弥）、半兵衛（紋市）、女房（紋之丞）、お園（紋之助）、宗岸（辰五郎）。
	1954	昭和29	12/17～19	神戸 八千代座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（伊達＝八造）。 ※角書「三勝／半七」。	三勝（文雀）、半七（玉昇）、茜屋半兵衛（淳造）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁おその（栄三）、親宗岸（玉市）。
△	1954	昭和29	12/18	三越劇場 〈因会〉	（艶容女舞衣）	酒屋の段（山城少掾）。 ※大阪市民文化祭賞受賞記念三越名人会。 ※「大阪日日新聞」（12月15日）に拠る。	
	1955	昭和30	3/4～13	京都 南座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（伊達＝八造）。 ※角書「三勝／半七」。	三勝（文昇）、半七（玉昇）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（常次）、娘おその（文五郎）、親宗岸（玉助）。
△	1955	昭和30	3/23	山形 山形市公民館 〈因会〉	三勝半七 艶容女舞衣	酒屋の段（山城少掾＝藤蔵）。 ※東海・東北巡業（3月16日～）の内。3月16日静岡・静岡市公会堂（三味線不明）、3月18日青森・三本木映画劇場（三味線不明）、3月19日青森市・国際劇場（三味線不明）、3月20日盛岡市・岩手県公会堂（三味線不明）、3月21日秋田市・スポーツセンター山王体育館（三味線不明）で同公演あり。 ※「山形新聞」（3月12・24日の記事、3月21日の広告）、「静岡新聞」（3月11日の広告）、「東奥日報」（3月16日）、「岩手日報」（3月3・9・20～21日）、「秋田魁新報」（3月20日の記事と広告）に拠る。	その（文五郎）。
	1955	昭和30	5/1～20	地方公演 （九州） 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 津＝寛弘、切 綱＝弥七・高音 団二郎）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（光次）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（常次）、娘お園（栄三）、親宗岸（玉助）。
	1955	昭和30	7/20～25	東京 新橋演舞場 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 相生＝松之輔、後 松＝清六・清好）。 ※角書「三勝／半七」。	三勝（文昇）、半七（玉昇）、茜屋半兵衛（兵次）、半兵衛女房（常次）、嫁おその（亀松）、親宗岸（玉助）。
	1955	昭和30	8/17～21	京都 南座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 津＝寛治郎、後 松＝清六・清好）。 ※角書「三勝／半七」。	三勝（文昇）、半七（玉昇）、茜屋半兵衛（兵次）、半兵衛女房（常次）、嫁おその（亀松）、親宗岸（玉助）。
	1955	昭和30	9/15～18	神戸 仏教会館 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 源＝叶太郎、切 若＝綱造）。	三勝（紋二郎）、半七（紋七）、半兵衛（作十郎）、女房（国秀）、おその（紋十郎）、宗岸（辰五郎）。

	1955	昭和30	10/4~23	地方公演 (東海・近畿・四国・九州・中国) (因会)	艶容女舞衣	酒屋の段(前 雛=吉三郎、後 伊達=八造・高音 団二郎)。 ※日程は『松竹百年史』に拠る。	三勝(文雀)、半七(光次)、茜屋半兵衛(兵次)、半兵衛女房(常次)、嫁おその(前=文五郎、後=玉五郎)、親宗岸(玉市)。
	1955	昭和30	10/16	福岡大博劇場 (三和会)	艶姿女舞衣	三勝半七 酒屋の段(前 つばめ=喜左衛門、後 若=燕三)。	三勝(紋二郎)、半七(紋七)、舅半兵衛(紋市)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。
	1955	昭和30	11/26~29	東京新橋演舞場 (因会)	艶容女舞衣	酒屋の段(切 山城少掾=藤蔵・琴 寛弘)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(玉昇)、茜屋半兵衛(兵次)、半兵衛女房(淳造)、嫁おその(文五郎)、親宗岸(玉助)。
	1956	昭和31	1/1~25	道頓堀文楽座 (因会)	艶容女舞衣	酒屋の段(切 綱=弥七)。 ※角書「三勝/半七」。 ※新築初春興行(道頓堀文楽座柿葺落し)。 ※千種楽は「朝日新聞(大阪)」(1月25日の広告)に拠る。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(玉昇)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(常次)、嫁お園(栄三)、親宗岸(玉市)。
△	1956	昭和31	1/5	ラジオ放送 (因会)	(艶容女舞衣)	酒屋。 ※「朝日新聞(大阪)」「毎日新聞(大阪)」「読売新聞(大阪)」(1月5日)に拠る。	
	1956	昭和31	2/26	兵庫姫路市公会堂 (三和会)	艶姿女舞衣	酒屋の段(つばめ=喜左衛門)。	三勝(紋寿)、半七(紋七)、半兵衛(紋市)、半兵衛女房(紋之丞)、おその(紋十郎)、宗岸(辰五郎)。
	1956	昭和31	3/3~4/27	地方公演 (中国・九州・東海) (三和会)	艶姿女舞衣	酒屋の段(切 若=喜左衛門)。	美濃屋三勝(紋二郎)、茜屋半七(紋七)、舅半兵衛(紋市)、半兵衛女房(紋之丞)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。
△	1956	昭和31	5/4	静岡静岡市公会堂 (三和会)	艶姿女舞衣	酒屋の段。 ※関東・東北巡業の内。 ※「静岡新聞」(4月24日)に拠る。	
	1956	昭和31	6/9~16	東京三越劇場 (三和会)	艶容女舞衣	酒屋の段(切 若=綱造)。	三勝(紋二郎)、半七(紋弥)、半兵衛(紋市)、女房(国秀)、おその(紋十郎)、宗岸(辰五郎)。
	1956	昭和31	6/17~21	東京東横ホール (因会)	艶容女舞衣	酒屋の段(切 綱=弥七・団二郎)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(文雀)、半七(玉昇)、舅半兵衛(淳造)、半兵衛女房(常次)、娘お園(文五郎)、親宗岸(玉市)。
△	1956	昭和31	6/18	宇都宮市栃木会館ホール (三和会)	艶姿女舞衣	酒屋の段。 ※「下野新聞」(6月17~19日の記事、6月16日の広告)に拠る。	
	1956	昭和31	9/28	下関東宝劇場 (三和会)	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(切 源=叶太郎)。 ※九州巡業(9月18日~、11日間)の内。	三勝(紋寿)、半七(勘十郎)、半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(国秀)、おその(紋之助)、宗岸(辰五郎)。

	1956	昭和31	9/30	名古屋 御園座 〈因会〉	艶姿女舞衣	酒屋の段（綱＝弥七）。 ※第7回邦楽名人大会。	
	1956	昭和31	10/6～14	地方公演 （信越・北陸） 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（切 つばめ＝勝太郎）。 ※10月8日富山県・高岡市公会堂の配役は次の通り。（前 つばめ＝喜左衛門、後 源＝燕三）。また人形役割も、お園（紋之助）とする（「富山新聞」（10月5・7日の記事、10月3・7日の広告）に拠る）。	三勝（紋寿）、半七（紋七）、舅半兵衛（紋市）、半兵衛女房（紋之丞）、嫁おその（紋十郎）、親宗岸（辰五郎）。
△	1956	昭和31	11/15	新潟 佐渡新穂村 〈三和会〉	艶容女舞衣	※「佐渡新報」（11月14～15日）に拠る。	
△	1956	昭和31	11/21	兵庫 洲本市人形会館 〈三和会〉	三勝半七	※「産経新聞」淡路版（11月20・23日）に拠る。	
	1956	昭和31	12/11～16	東京 東横ホール 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 津＝寛治、後 松＝清六・琴 清好）。 ※角書「三勝／半七」。	三勝（文雀）、半七（玉昇）、茜屋半兵衛（兵次）、半兵衛女房（常次）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（玉市）。
	1957	昭和32	2/9～14	名古屋 毎日ホール 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 津＝寛治、後 伊達＝藤蔵）。 ※角書「三勝／半七」。 ※吉田文五郎難波掾受領披露。	三勝（文昇）、半七（東太郎）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（淳造）、嫁おその（文五郎事 難波掾）、親宗岸（玉助）。
	1957	昭和32	2/10	愛知 森町公民館 〈三和会〉	三勝半七艶 姿女舞衣	酒屋の段（つばめ＝喜左衛門）。	三勝（紋寿）、半七（紋弥）、舅半兵衛（紋市）、半兵衛女房（紋之丞）、嫁おその（紋十郎）、親宗岸（辰五郎）。
	1957	昭和32	2/16～17	神戸 神戸新聞会館 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 津＝寛治、後 伊達＝藤蔵）。 ※角書「三勝／半七」。 ※吉田難波掾受賞（ママ）記念。	三勝（文昇）、半七（東太郎）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（淳造）、嫁お園（文五郎事 難波掾）、親宗岸（玉助）。
	1957	昭和32	4/11～	地方公演 （中国） 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 相生＝豊助、後 綱＝弥七・琴 団二郎）。 ※角書「三勝／半七」。 ※吉田難波掾受領記念。	三勝（文雀）、茜屋半七（東太郎）、舅半兵衛（淳造）、半兵衛女房（常次）、嫁おその（前＝文五郎事 難波掾、後＝玉五郎）、親宗岸（玉市）。
△	1957	昭和32	4/13	ラジオ放送 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（伊達＝藤蔵）。 ※「朝日新聞（大阪）」「毎日新聞（大阪）」「読売新聞（大阪）」（4月13日）に拠る。	
	1957	昭和32	4/28	兵庫 兵庫県立加古川東高等学校 〈三和会〉	三勝半七艶 容女舞衣	酒屋の段（切 源＝叶太郎）。	舅半兵衛（紋之丞）、半兵衛女房（国秀）、おその（紋之助）、宗岸（辰五郎）。
△	1957	昭和32	5/2	三重 伊勢会館 〈三和会〉	艶姿女舞衣	酒屋の段。 ※「伊勢新聞」（4月30日）に拠る。	

1957	昭和32	5/4~28	道頓堀文楽座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（伊達改め 土佐＝藤蔵）。 ※角書「三勝／半七」。 ※七世土佐大夫襲名披露、三世津大夫・六世土佐大夫十七回忌追善。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（東太郎）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（常次）、嫁おその（文五郎事 難波掾）、親宗岸（玉市）。
1957	昭和32	5/26	大津市 滋賀会館 〈三和会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段（切 つばめ＝喜左衛門）。	三勝（紋二郎）、半七（紋弥）、舅半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（紋之丞）、嫁おその（紋十郎）、親宗岸（辰五郎）。
1957	昭和32	6/22~24	山口 山陽パルプ株 式会社岩国工 場 〈因会〉	三勝半七艶 容女舞衣	酒屋の段（津＝寛治、伊達改め 土佐＝藤蔵）。 ※伊達大夫改め七世竹本土佐大夫襲名披露。 ※日程は『松竹百年史』に拠る。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（玉幸）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（常次）、嫁おその（前＝文五郎事 難波掾、後＝玉五郎）、親宗岸（玉助）。
△ 1957	昭和32	6/25	直方 国際劇場 〈因会〉	（艶容女舞 衣）	酒屋（津＝寛治、土佐＝藤蔵）。 ※七世竹本土佐大夫襲名披露。 ※役割は『文楽興行記録昭和篇』に、その他は『松竹百年史』に拠る。	（不明）
1957	昭和32	6/27~	地方公演 （北海道・東 北・関東・東 海） 〈三和会〉	艶姿女舞衣	酒屋の段（切 つばめ＝喜左衛門）。 ※角書「三勝／半七」。	三勝（紋寿）、半七（紋弥）、舅半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（紋之丞）、嫁おその（紋之助）、親宗岸（辰五郎）。
		7/18	仙台 仙台市公会堂 〈三和会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段。 ※文楽教室。	
1957	昭和32	8/20~25	京都 南座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（伊達改め 土佐＝藤蔵）。 ※角書「三勝／半七」。 ※竹本土佐大夫襲名披露。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（文雀）、舅半兵衛（淳造）、半兵衛女房（常次）、娘おその（文五郎事 難波掾）、親宗岸（玉市）。
1957	昭和32	10/7~	地方公演 （静岡・船 橋） 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（伊達改め 土佐＝藤蔵）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（玉昇）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（常次）、娘おその（亀松）、親宗岸（玉市）。
1957	昭和32	10/13~	地方公演 （近畿・中 国） 〈三和会〉	艶姿女舞衣	酒屋の段（切 つばめ＝喜左衛門）。 ※角書「三勝／半七」。	三勝（紋寿）、半七（紋弥）、舅半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（紋之丞）、嫁おその（紋之助）、親宗岸（辰五郎）。
1957	昭和32	12/14~15	神戸 神戸新聞会館 〈三和会〉	艶姿女舞衣	酒屋の段（前 源＝叶太郎、後 つばめ＝喜左衛門）。 ※桐竹紋十郎紫綬褒章受章・初代紋十郎五十年忌記念。	三勝（紋二郎）、半七（紋寿）、舅半兵衛（紋市）、半兵衛女房（国秀）、嫁おその（紋十郎）、親宗岸（辰五郎）。
1958	昭和33	2/7~11	東京 読売ホール 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 相生＝松之輔、後 土佐＝藤蔵）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（玉五郎）、茜屋半七（玉男）、舅半兵衛（淳造）、半兵衛女房（常次）、嫁おその（文五郎事 難波掾）、親宗岸（玉市）。

△	1958	昭和33	3/8	ラジオ放送 〈因会〉	(艶容女舞衣)	酒屋(山城少掾)。 ※「朝日新聞(大阪)」「毎日新聞(大阪)」「読売新聞(大阪)」 (3月8日)に拠る。	
	1958	昭和33	4/16~19	淡路・徳島 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(切 土佐=藤蔵)。 ※角書「三勝/半七」。 ※日程は『松竹百年史』に拠る。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(玉幸)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(常次)、嫁おその(亀松)、親宗岸(玉市)。
	1958	昭和33	5/26~ 6/10	地方公演 (東北・北陸) 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(切 土佐=藤蔵)。 ※角書「三勝/半七」。 ※日程は『松竹百年史』に拠る。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(玉幸)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(常次)、嫁おその(亀松)、親宗岸(玉市)。
	1958	昭和33	6/15	足利市 興国化学講堂 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(前 つばめ=喜左衛門、後 源=叶太郎)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(勘之助)、半七(紋弥)、半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(国秀)、おその(紋十郎)、宗岸(辰五郎)。
	1958	昭和33	6/28	東京 三越劇場 〈三和会〉	三勝半七	酒屋の段(つばめ=喜左衛門)。 ※第102回三越名人会。	
	1958	昭和33	7/10~17	京都 南座 〈合同〉	艶容女舞衣	酒屋の段(前 相生=松之輔、後 土佐=藤蔵)。 ※角書「三勝/半七」。 ※因会三和会初合同公演。	三勝(玉五郎)、半七(玉男)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(兵次)、娘お園(栄三)、親宗岸(玉市)。
	1958	昭和33	10/5~18	地方公演 (関東・信越) 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(切 つばめ=喜左衛門)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(紋二郎)、半七(紋弥)、半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。
	1958	昭和33	10/14~23	地方公演 (九州) 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(伊達改め 土佐=藤蔵)。 ※角書「三勝/半七」。 ※日程は『松竹百年史』に拠る。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(玉昇)、茜屋半兵衛(淳造)、半兵衛女房(玉米)、嫁おその(亀松)、親宗岸(玉市)。
	1958	昭和33	11/30	徳島 徳島市立新町 小学校体育館 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(切 つばめ=喜左衛門)。 ※豊竹若大夫芸道60年記念。	三勝(勘之助)、半七(紋寿)、しゅうと半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。
	1958	昭和33	12/11~19	地方公演 (東海・関東) 〈三和会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(切 つばめ=喜左衛門)。	三勝(紋二郎)、半七(紋弥)、半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。
	1959	昭和34	1/1~25	道頓堀文楽座 〈合同〉	艶容女舞衣	酒屋の段(親宗岸—若・嫁お園—松・美濃屋三勝—南部・茜屋半七—織の・おつう—小松・半兵衛女房—雛・茜屋半兵衛—相生=清六・琴 清治)。 ※松竹経営50年祭記念。	美濃屋三勝(紋之助)、茜屋半七(東太郎)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(常次)、嫁おその(亀松)、親宗岸(辰五郎)。
	1959	昭和34	1/26	道頓堀文楽座 〈合同〉	艶容女舞衣	酒屋の段(前 織の=勝平、後 織部=清好・琴 清治)。 ※文楽三業養成会主催、文楽人形浄瑠璃若手勉強発表会。	美濃屋三勝(勘之助)、茜屋半七(一暢)、茜屋半兵衛(玉之助)、半兵衛女房(東太郎)、娘お園(紋二郎)、親宗岸(紋弥)。

1959	昭和34	1/27~28	道頓堀文楽座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大合同公演。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（玉幸）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（常次）、嫁お園（亀松）、親宗岸（玉助）。
1959	昭和34	2/13~16	東京 新橋演舞場 〈合同〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 相生＝松之輔、後 土佐／松＝清六・高音 清好）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（紋之助）、茜屋半七（紋二郎）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（常次）、嫁お園（亀松）、親宗岸（辰五郎）。
1959	昭和34	2/21~3/4	地方公演 （関東） 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（切 つばめ＝喜左衛門）。 ※角書「三勝／半七」。	三勝（紋二郎）、半七（紋弥）、半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（国秀）、嫁おその（紋十郎）、親宗岸（辰五郎）。
1959	昭和34	3/25~28	地方公演 （東北） 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（切 つばめ＝喜左衛門）。 ※角書「三勝／半七」。	三勝（紋二郎）、半七（紋弥）、半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（国秀）、嫁おその（紋十郎）、親宗岸（辰五郎）。
1959	昭和34	3/28	神戸 国際会館 〈因会〉	酒 屋	（綱＝弥七）。 ※NHK邦楽名流大会。	
△	1959	昭和34	4/17	ラジオ放送 〈因会〉	酒屋の段（綱＝弥七）。 ※「朝日新聞（大阪）」「毎日新聞（大阪）」「読売新聞（大阪）」（4月17日）に拠る。	
1959	昭和34	6/10~12	名古屋 御園座 〈合同〉	艶容女舞衣	酒屋の段（親宗岸—若・嫁お園—松・半兵衛女房—和佐・娘おつう—津の子・美濃屋三勝—織の・茜屋半七—古住・舅半兵衛—相生＝前 松之輔・後 清六・高音 清好）。 ※角書「三勝／半七」。 ※鶴沢清六休演（『御園座七十年史』）。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（紋二郎）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（国秀）、嫁おその（亀松）、親宗岸（玉助）。
1959	昭和34	6/18	今橋クラブ・ ホール 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（土佐＝藤蔵）。 ※映画「日本の宝」特別試写会。	（亀松）。
1959	昭和34	6/19~28	地方公演 （中国・九州） 〈三和会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段（切 つばめ＝喜左衛門）。	三勝（紋二郎）、半七（紋弥）、半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（国秀）、嫁おその（紋十郎）、親宗岸（辰五郎）。
1959	昭和34	11/19~30	道頓堀文楽座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 津＝寛治、後 土佐＝藤蔵・高音 藤二郎）。 ※角書「三勝／半七」。 ※吉田難波掾文化功労者受章記念。 ※竹本津太夫休演の日あり、竹本織の太夫が代演（「日本経済新聞（大阪）」（11月22日）、「日刊スポーツ」（11月27日）に拠る）。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（小玉）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（兵次）、嫁お園（玉五郎）、親宗岸（玉助）。
1960	昭和35	2/21~25	東京 新橋演舞場 〈合同〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 相生＝松之輔、後 土佐＝清六・高音 清好）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（東太郎）、茜屋半七（玉男）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（国秀）、娘お園（前＝難波掾、後＝亀松）、親宗岸（辰五郎）。
1960	昭和35	3/1~8	京都 南 座 〈合同〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 津＝寛治、後 土佐＝藤蔵・高音 藤二郎）。 ※角書「三勝／半七」。 ※紋之助改め豊松清十郎襲名披露。芸術院会員吉田難波掾文化功労者受章記念興行。	美濃屋三勝（紋之助改め 清十郎）、茜屋半七（東太郎）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（国秀）、娘おその（紋十郎）、親宗岸（辰五郎）。

	1960	昭和35	4/11	毎日ホール 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（綱＝弥七）。 ※一九六〇年大阪芸術祭開幕披露芸能祝典。 ※さわり 難波掾（『文楽興行記録昭和篇』）。	お園（難波掾）。
	1960	昭和35	4/19	東京 新橋演舞場 〈両派〉	艶容女舞衣	酒屋の段（つばめ＝喜左衛門）。 ※角書「三勝／半七」。 ※綱弥会・西東会共催文楽素浄瑠璃の会。	
	1960	昭和35	9/27	松坂会館 〈因会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段。 ※有楽会素義会。	三勝（一暢）、半七（文昇）、半兵衛（玉昇）、半兵衛女房（玉米）、おその（玉五郎）、親宗岸（玉市）。
△	1960	昭和35	10/4～12	地方公演 （中国・四国） 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 津＝団六、後 松＝徳太郎）。 ※『昭和35年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。 ※『文楽興行記録昭和篇』には「四日より中国・四国・九州巡業」とある。	三勝（一暢）、半七（玉幸）、半兵衛（玉男）、半兵衛女房（玉米）、お園（玉五郎）、親宗岸（玉市）。
△	1960	昭和35	10/16	兵庫 黒井三峰庵 〈因会〉	（艶容女舞衣）	酒屋（南部＝錦糸）。 ※『吉田文雀ノート』に拠る。	お園（文雀）。
	1960	昭和35	11/3～23	道頓堀文楽座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（松改め 春子＝松之輔・琴 団二郎）、道行霜夜の千日（三勝一南部・半七一織の＝吉三郎・徳太郎・新三郎・団二郎・藤二郎）。 ※角書「三勝／半七」。 ※鷺谷樗風＝補訂、西亭＝作曲、花柳芳次郎＝振付、大塚克三＝装置（「道行霜夜の千日」）。 ※竹本春子大夫襲名披露狂言。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（東太郎）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（兵次）、嫁お園（亀松）、親宗岸（玉助）。
	1960	昭和35	12/20～23	東京 新橋演舞場 〈合同〉	艶容女舞衣	酒屋の段（松改め 春子＝松之輔・高音 団二郎）、道行霜夜の千日（三勝一南部・半七一織の＝藤蔵・徳太郎・団六・勝平・藤二郎）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（東太郎）、舅半兵衛（辰五郎）、半兵衛女房（国秀）、嫁お園（一日替 亀松／栄三）、親宗岸（玉市）。
△	1961	昭和36	3/25～ 4/15	地方公演 （東海・関東・信越） 〈三和会〉	（艶容女舞衣）	酒屋の段（つばめ＝喜左衛門）。 ※『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	三勝（紋寿）、半七（紋弥）、半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（国秀）、お園（紋十郎）、宗岸（辰五郎）。
	1961	昭和36	4/8～11	京都 南座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 相生＝重造、松改メ 春子＝松之輔・高音 藤二郎）。 ※角書「三勝／半七」。 ※松大夫改メ三代目竹本春子大夫襲名披露。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（玉昇）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（兵次）、娘お園（前＝栄三、後＝難波掾）、親宗岸（玉助）。
△	1961	昭和36	4/27	大原町 大原劇場 〈三和会〉	（艶容女舞衣）	酒屋の段（文字＝勝太郎、源＝叶太郎）。 ※『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	三勝（勘之助）、半七（紋弥）、半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（国秀）、お園（紋十郎）、宗岸（辰五郎）。
△	1961	昭和36	6/9～18	地方公演 （関東・東北・北陸） 〈合同〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 文字＝勝太郎、後 春子＝松之輔）。 ※『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	三勝（文雀）、半七（東太郎）、半兵衛（玉市）、女房（兵次）、お園（亀松）、宗岸（玉助）。
△	1961	昭和36	6/24	横浜 共立学園 〈三和会〉	（艶容女舞衣）	酒屋（つばめ＝喜左衛門）。 ※『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	三勝（勘之助）、半七（紋弥）、半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（国秀）、おその（紋十郎）、宗岸（辰五郎）。

	1961	昭和36	7/3~9	東京 三越劇場 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（中 小松＝勝平、切 つばめ＝喜左衛門）。 ※角書「三勝／半七」。	三勝（清十郎）、半七（紋弥）、半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（国秀）、おその（紋十郎）、宗岸（辰五郎）。
△	1961	昭和36	7/12~22	地方公演 （関東・東北） 〈三和会〉	（艶容女舞衣）	酒屋の段（つばめ＝喜左衛門）。 ※『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	三勝（清十郎）、半七（紋弥）、半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（国秀）、お園（紋十郎）、宗岸（辰五郎）。
△	1961	昭和36	10/6~21	地方公演 （東海・関東） 〈三和会〉	（艶容女舞衣）	酒屋の段（南部＝市治郎）。 ※竹本源太夫休演につき竹本南部太夫代演（『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る）。 ※『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。『文楽興行記録昭和篇』には「配役は三業共、三、四月巡業、七月巡業と同じ」とある。	三勝（紋寿）、半七（紋弥）、半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（国秀）、お園（紋十郎）、宗岸（辰五郎）。
	1962	昭和37	2/12~16	地方公演 （東京） 〈三和会〉	（艶容女舞衣）	酒屋の段（つばめ＝喜左衛門）。 ※日程は『昭和37年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	三勝（紋寿）、半七（紋弥）、半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（国秀）、お園（紋十郎）、宗岸（辰五郎）。
	1962	昭和37	3/26~29	御堂会館 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（前 小松＝燕三、切 つばめ＝喜左衛門）。 ※角書「三勝／半七」。 ※桐竹紋二郎改メ三世吉田蓑助襲名披露、初代野沢喜左衛門・二代鶴沢寛治郎・四代野沢勝市追善。	美濃屋三勝（紋二郎改メ 蓑助）、半七（勘之助）、舅半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（国秀）、嫁おその（清十郎）、親宗岸（辰五郎）。
	1962	昭和37	7/1~8	道頓堀文楽座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（切 土佐＝藤蔵・琴 寛弘）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（東太郎）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（淳造）、嫁おその（亀松）、親宗岸（玉助）。
	1962	昭和37	10/20~24	京都南座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（中 織の＝徳太郎、切 土佐＝藤蔵・琴 寛弘）。 ※角書「三勝／半七」。	三勝（文昇）、半七（玉昇）、半兵衛（兵次）、半兵衛女房（淳造）、お園（亀松）、宗岸（玉市）。
△	1962	昭和37	12/8	名古屋愛知文化講堂 〈因会〉	（艶容女舞衣）	酒屋の段（中 大隅＝吉三郎、前 相生＝重造、後 土佐＝藤蔵・琴 寛弘）。 ※『昭和37年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	三勝（一暢）、半七（玉幸）、半兵衛（兵次）、半兵衛女房（常次）、お園（栄三）、宗岸（玉市）。
	1963	昭和38	2/8~13	東京東横ホール 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（中 大隅＝吉三郎、前 相生＝重造、後 土佐＝藤蔵・琴 寛弘）。 ※角書「三勝／半七」。 ※東京お名残自主公演。 ※文楽協会設立に伴う因会最期の自主公演（『文楽興行記録昭和篇』）。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（玉幸）、半兵衛（兵次）、半兵衛女房（常次）、お園（亀松）、宗岸（玉助）。
	1963	昭和38	5/11~23	地方公演 （中国・九州）	艶容女舞衣	酒屋の段（つばめ＝喜左衛門）。 ※角書「三勝／半七」。 ※文楽協会誕生記念地方公演。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して—文楽協会』に拠る。	三勝（蓑助）、茜屋半七（紋弥）、舅半兵衛（常次）、半兵衛女房（兵次）、お園（紋十郎）、親宗岸（玉市）。
	1963	昭和38	6/8・14~21	地方公演 （東海・信越）	艶容女舞衣	酒屋の段（土佐＝勝太郎・団二郎）。 ※文楽協会誕生記念地方公演。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して—文楽協会』に拠る。	三勝（小玉）、茜屋半七（紋弥）、舅半兵衛（淳造）、半兵衛女房（国秀）、おその（栄三／亀松）、親宗岸（辰五郎）。

1963	昭和38	10/2~12	地方公演 (四国・九州)	艶容女舞衣	酒屋の段(春子=松之輔)。 ※文楽協会誕生記念地方公演。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して—文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(文昇)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(常次)、お園(栄三)、親宗岸(玉市)。
1964	昭和39	1/15~29	地方公演 (東海・関東)	艶容女舞衣	酒屋の段(織=藤蔵、春子=吉三郎改め 吉兵衛)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して—文楽協会』に拠る。	三勝(文昇)、半七(紋弥)、半兵衛(国秀)、半兵衛女房(兵次)、お園(亀松)、宗岸(辰五郎)。
△ 1964	昭和39	1/22~27	地方公演 (山陽)	(艶容女舞衣)	酒屋。 ※『文楽 協会創立二十五周年を記念して—文楽協会』に拠る。	(不明)
1964	昭和39	3/3~22	朝日座	艶容女舞衣	酒屋の段(土佐=吉兵衛・琴 清治)。 ※文五郎事吉田難波掾追善。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(簗助)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁お園(紋十郎)、親宗岸(玉市)。
1964	昭和39	4/4~7	地方公演 (関東・信越)	艶容女舞衣	酒屋の段(春子=松之輔・琴 団二郎)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して—文楽協会』に拠る。	三勝(文昇)、茜屋半七(作十郎)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(国秀)、お園(栄三)、親宗岸(玉市)。
1964	昭和39	9/26~27	名古屋 愛知文化講堂	艶容女舞衣	酒屋の段(若=喜左衛門)。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(文昇)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(常次)、嫁お園(栄三)、親宗岸(玉市)。
1964	昭和39	11/23~29	地方公演 (関東)	艶容女舞衣	酒屋の段(若=重造・琴 勝之輔)。 ※11月29日は東京・大妻講堂で大学歌舞伎研究連盟主催公演。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して—文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝(簗助)、茜屋半七(玉男)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(国秀)、お園(紋十郎)、親宗岸(玉助)。
1964	昭和39	12/4~12	地方公演 (北九州・山陽)	艶容女舞衣	酒屋の段(春子=吉兵衛・琴 寛弘)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して—文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(玉男)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(国秀)、お園(紋十郎)、親宗岸(玉市)。
1964	昭和39	12/13	神戸 国際会館	艶容女舞衣	酒屋の段(春子=吉兵衛・琴 寛弘)。 ※神戸労音公演。	三勝(文雀)、半七(玉男)、半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(国秀)、お園(紋十郎)、宗岸(玉市)。
1965	昭和40	2/7~21	朝日座	艶容女舞衣	酒屋の段(若=勝太郎・琴 勝之輔)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(簗助)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁お園(紋十郎)、親宗岸(玉市)。
1965	昭和40	6/29~ 7/11	東京 三越劇場	艶容女舞衣	酒屋の段(春子=松之輔・琴 勝之輔)。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(清十郎)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(常次)、娘お園(紋十郎)、親宗岸(亀松)。
1965	昭和40	9/2~14	地方公演 (北陸・信越)	艶容女舞衣	酒屋の段(つばめ=喜左衛門・勝平)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して—文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(簗助)、舅半兵衛(玉昇)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(玉男)。
1965	昭和40	10/22~24	京都 祇園会館	艶容女舞衣	酒屋の段(若=勝太郎・勝之輔)。	美濃屋三勝(小玉)、茜屋半七(紋寿)、舅半兵衛(国秀)、半兵衛女房(常次)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。
1967	昭和42	1/8~22	朝日座	艶容女舞衣	酒屋の段(中文字=徳太郎、切 つばめ改め 越路=喜左衛門・高音 勝之輔)。 ※豊竹つばめ大夫改め四世竹本越路大夫襲名披露狂言。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(紋弥)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(玉男)。

1967	昭和42	1/23~24	朝日座	艶容女舞衣	酒屋の段（中 小春＝勝之輔、文字／織＝清治）。 ※復活第1回文楽人形浄瑠璃若手向上会。	美濃屋三勝（勘寿）、茜屋半七（福丸）、舅半兵衛（文雀）、半兵衛女房（玉昇）、嫁おその（文昇）、親宗岸（養助）。
1967	昭和42	2/22	東京三越劇場	艶容女舞衣	酒屋の段（越路＝喜左衛門）。 ※豊竹若大夫を慰める素浄るりの会。	
1967	昭和42	5/27~28	名古屋中日劇場	艶容女舞衣	酒屋の段（つばめ改め 越路＝喜左衛門・勝平）。 ※豊竹つばめ大夫改め四世竹本越路大夫襲名披露。	美濃屋三勝（紋寿）、茜屋半七（一暢）、舅半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（国秀）、嫁お園（紋十郎）、親宗岸（玉男）。
1967	昭和42	11/2	尼崎尼崎文化会館	艶容女舞衣	酒屋の段（三味線 源平）。 ※文楽人形浄瑠璃大会。語りは尼崎太十会による。	美濃屋三勝（紋寿）、茜屋半七（一暢）、舅半兵衛（辰五郎）、半兵衛女房（国秀）、嫁おその（紋十郎）、親宗岸（亀松）。
1967	昭和42	11/5~19	地方公演（中国・九州）	艶容女舞衣	酒屋の段（土佐＝吉兵衛・高音 清治）。	美濃屋三勝（紋寿）、茜屋半七（一暢）、舅半兵衛（勘十郎）、半兵衛女房（国秀）、娘お園（紋十郎）、親宗岸（玉男）。
1967	昭和42	11/13	福岡明治生命ホール	艶容女舞衣	酒屋の段（土佐＝吉兵衛・高音 清治）。	美濃屋三勝（紋寿）、茜屋半七（一暢）、舅半兵衛（勘十郎）、半兵衛女房（国秀）、娘お園（紋十郎）、親宗岸（玉男）。
1968	昭和43	9/6~8	京都ヤサカ会館	艶容女舞衣	酒屋の段（越路＝喜左衛門・高音 団二郎）。 ※日程は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	美濃屋三勝（紋寿）、茜屋半七（紋弥）、舅半兵衛（辰五郎）、半兵衛女房（玉五郎）、娘お園（紋十郎）、親宗岸（亀松）。
1969	昭和44	4/20~5/5	朝日座	艶容女舞衣	酒屋の段（呂＝勝平、春子＝勝太郎・高音 勝之輔）、道行霜夜の千日（三勝＝嶋・半七＝松香・ツレ 英＝叶太郎・勝平・勝之輔）。 ※角書「三勝／半七」。 ※豊竹若大夫三回忌追善狂言。 ※野沢松之輔＝改訂・作曲、沢村龍之介＝振付、大塚克三＝装置（「道行霜夜の千日」）。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（文昇）、舅半兵衛（辰五郎）、半兵衛女房（国秀）、嫁おその（紋十郎）、親宗岸（亀松）。
1969	昭和44	6/11~26	地方公演（北陸・関東・東海）	艶容女舞衣	酒屋の段（伊達路＝勝平、文字＝重造・高音 仙次郎）。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝（紋寿）、茜屋半七（玉幸）、舅半兵衛（玉昇）、半兵衛女房（常次）、娘お園（紋十郎）、親宗岸（辰五郎）。
1969	昭和44	9/5~6	地方公演（豊岡・篠山）	（艶容女舞衣）	酒屋の段（文字＝勝太郎・高音 団二郎）。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（小玉）、舅半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（玉五郎）、嫁おその（紋十郎）、親宗岸（勘十郎）。
1969	昭和44	10/14~18	地方公演（四国）	艶容女舞衣	酒屋の段（文字＝勝太郎・高音 団二郎）。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して一文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（小玉）、舅半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（玉五郎）、嫁おその（紋十郎）、親宗岸（勘十郎）。
1970	昭和45	2/8~22	東京国立劇場小劇場	艶容女舞衣	上塩町酒屋の段（中 相子＝団六、切 相生＝重造）。 ※桐竹紋十郎文化功労者選定記念狂言。	美濃屋三勝（養助）、茜屋半七（紋弥）、舅半兵衛（清十郎）、半兵衛女房（玉五郎）、嫁お園（紋十郎）、親宗岸（勘十郎）。
1972	昭和47	1/2~21	朝日座	艶容女舞衣	酒屋の段（相生＝清治、南部＝松之輔）、道行霜夜の千日（三勝＝嶋・半七＝松香・ツレ 緑＝道八・団六・清治）。 ※野沢松之輔＝改訂・作曲、沢村龍之介＝振付、大塚克三＝装置（「道行霜夜の千日」）。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（文昇）、舅半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（国秀）、嫁おその（栄三）、親宗岸（辰五郎）。

1972	昭和47	6/3~5	京都 京都府立文化 芸術会館	艷容女舞衣	酒屋の段（嶋＝叶太郎、南部＝吉兵衛）。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（小玉）、舅半兵衛（勘十郎）、半兵衛女房（玉五郎）、嫁おその（亀松）、親宗岸（辰五郎）。
1972	昭和47	11/12~19	東京 国立劇場小劇場	艷容女舞衣	酒屋の段（織＝喜左衛門）。 ※竹本織太夫休演のため、「酒屋の段」を竹本文字太夫が代演。	美濃屋三勝（勘寿）、茜屋半七（和生）、茜屋半兵衛（玉幸）、茜屋女房（勘十郎）、嫁お園（簗助）、舅宗岸（作十郎）。
1973	昭和48	2/27~ 3/15	地方公演 （東海・関東）	艷容女舞衣	酒屋の段（越路＝吉兵衛）。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して—文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝（和生）、茜屋半七（玉女）、舅半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（小玉）、嫁おその（栄三）、親宗岸（辰五郎）。
1973	昭和48	4/5~17	地方公演 （中国・九州）	艷容女舞衣	酒屋の段（越路＝吉兵衛）。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して—文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝（和生）、茜屋半七（玉女）、舅半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（小玉）、嫁おその（栄三）、親宗岸（辰五郎）。
1973	昭和48	10/24	兵庫 芦屋市民会館 ルナ・ホール	艷容女舞衣	酒屋の段（南部＝道八・高音 清友）。 ※近松門左衛門没後二五〇周年記念。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（簗助）、舅半兵衛（玉幸）、半兵衛女房（小玉）、嫁おその（亀松）、親宗岸（勘十郎）。
1974	昭和49	5/16~18	京都 京都府立文化 芸術会館	艷容女舞衣	酒屋の段（織＝吉兵衛・高音 清友）。	美濃屋三勝（紋寿）、茜屋半七（文昇）、舅半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（玉五郎）、嫁おその（清十郎）、親宗岸（勘十郎）。
1974	昭和49	7/17~30	朝日座	艷容女舞衣	長町美濃屋の段（南部＝松之輔）、酒屋の段（呂＝重造、越路＝喜左衛門）、道行霜夜の千日（三勝—嶋・半七—津駒・ツレ 南司／武蔵＝叶太郎・団六・清友・清介・浅造／喜久三郎／松也）。 ※角書「三勝／半七」。 ※渡欧公演帰朝記念。 ※大塚克三＝装置（「長町美濃屋の段 「女舞剣紅楓」より」）。野沢松之輔＝改訂・作曲、沢村龍之介＝振付、大塚克三＝装置（「道行霜夜の千日」）。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（文昇）、舅半兵衛（清十郎）、半兵衛女房（国秀）、嫁おその（亀松）、親宗岸（勘十郎）。
1974	昭和49	9/29	仙台 電力ホール	艷容女舞衣	酒屋の段（南部＝道八・琴 松也）、道行霜夜の千日（三勝—嶋・半七—松香・ツレ 緑＝勝平・団二郎・勝之輔）。 ※野沢松之輔＝改訂・作曲、沢村龍之介＝振付、大塚克三＝装置（「道行霜夜の千日」）。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（文昇）、舅半兵衛（玉幸）、半兵衛女房（紋寿）、嫁おその（清十郎）、親宗岸（勘十郎）。
1974	昭和49	12/6~7	名古屋 中日劇場	艷容女舞衣	酒屋の段（呂＝道八、越路＝喜左衛門）。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（小玉）、舅半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（紋寿）、娘おその（亀松）、親宗岸（勘十郎）。
1975	昭和50	5/10~24	東京 国立劇場小劇場	艷容女舞衣	酒屋の段（中 小松＝重造、切 越路＝喜左衛門）、道行霜夜の千日（三勝—嶋・半七—相生・三輪／貴＝叶太郎・勝平・勝司・寛平）。 ※野沢松之輔＝改訂・作曲、沢村龍之介＝振付、大塚克三＝装置（「道行霜夜の千日」）。	美濃屋三勝（文雀）、茜屋半七（文昇）、茜屋半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（国秀）、嫁おその（清十郎）、親宗岸（勘十郎）。
△	昭和50	11/9~11	地方公演 （近畿）	艷容女舞衣	酒屋（南部＝吉兵衛）。 ※『演劇界』（昭和50年12月号）に拠る。	（不明）
1977	昭和52	2/5~19	東京 国立劇場小劇場	艷容女舞衣	酒屋の段（中 呂＝勝平、奥 南部＝重造）。	美濃屋三勝（紋寿）、茜屋半七（小玉）、茜屋半兵衛（玉幸）、半兵衛女房（玉松）、嫁おその（簗助）、親宗岸（作十郎）。

	1977	昭和52	3/5~29	地方公演 (関東・北 陸・東海・近 畿・中国)	艶容女舞衣	酒屋の段(文字=道八)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して—文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝(一暢)、茜屋半七(和生)、舅半 兵衛(玉松)、半兵衛女房(作十郎)、嫁おそ の(亀松)、親宗岸(玉昇)。
	1979	昭和54	7/7~22	朝日座	艶容女舞衣	酒屋の段(相生=勝司、南部=燕三)、道行霜夜の千日(三勝—嶋・半 七—英・ツレ 文字登・千歳/津梅=団二郎・弥三郎・燕太郎・燕二 郎)。 ※角書「三勝/半七」。 ※野沢松之輔=改訂・作曲、沢村龍之介=振付、大塚克三=装置(「道 行霜夜の千日」)。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(一暢)、舅半 兵衛(玉松)、半兵衛女房(玉五郎)、嫁おそ の(文雀)、親宗岸(作十郎)。
	1980	昭和55	9/24	東京 国立劇場小劇 場	艶容女舞衣	下の巻 酒屋の段(呂=清治・琴 清介)。 ※第4回花光会。	
△	1980	昭和55	10/5	横浜 横浜市教育文 化ホール	艶容女舞衣	酒屋の段(文字=勝平)。 ※角書「三勝/半七」。 ※第18回横浜文楽教室、第1回自主公演。 ※『横浜文楽同好会会報』第5号に拠る。	
	1981	昭和56	11/12~29	地方公演 (北海道・東 北・関東・東 海)	艶容女舞衣	酒屋の段(切 文字=勝平)。	美濃屋三勝(玉英)、茜屋半七(玉輝)、舅半 兵衛(玉幸)、半兵衛女房(紋寿)、嫁おそ の(簗助)、親宗岸(文昇)。
	1981	昭和56	11/30	泉佐野市民会 館	艶容女舞衣	酒屋の段(文字=勝平)。 ※大阪府民劇場。	美濃屋三勝(玉英)、茜屋半七(玉輝)、舅半 兵衛(玉幸)、半兵衛女房(紋寿)、嫁おそ の(簗助)、親宗岸(文昇)。
	1982	昭和57	3/10~28	地方公演 (東北・関 東・九州・四 国・近畿)	艶容女舞衣	酒屋の段(切 文字=勝平、後 嶋=清介)。	美濃屋三勝(和生)、茜屋半七(勘寿)、舅半 兵衛(玉松)、半兵衛女房(作十郎)、嫁おそ の(玉男)、親宗岸(文雀)。
	1982	昭和57	6/25~28	京都 京都府立文化 芸術会館	艶容女舞衣	酒屋の段(中 呂=錦弥、織=燕三)。	美濃屋三勝(紋寿)、茜屋半七(小玉改め 文 吾)、舅半兵衛(玉幸)、半兵衛女房(玉五 郎)、嫁おその(文雀)、親宗岸(文昇)。
	1983	昭和58	9/3~18	東京 国立劇場小劇 場	艶容女舞衣	酒屋の段(中 小松=浅造、切 文字=勝平)。	美濃屋三勝(紋寿)、茜屋半七(玉女)、舅半 兵衛(玉松)、半兵衛女房(一暢)、嫁お園 (文雀)、親宗岸(作十郎)。
△	1983	昭和58	9/10	東京 銀座ラ・ポー ラ二階催しサ ロン	(艶容女舞 衣)	酒屋(津=団七)。 ※花暦銀座邦楽名人会。 ※『文楽』第2号に拠る。	
	1983	昭和58	10/14~30	朝日座	艶容女舞衣	酒屋の段(中 相生=清友、切 文字=勝平)。	美濃屋三勝(紋寿)、茜屋半七(和生)、舅半 兵衛(玉松)、半兵衛女房(玉五郎)、嫁おそ の(簗助)、親宗岸(勘十郎)。

△	1984	昭和59	12/8	横浜 横浜市教育文化ホール	艶容女舞衣	酒屋の段（越路＝清治・高音 清二郎）。 ※横浜文楽同好会主催「素浄瑠璃を聴く会」。 ※『横浜文楽同好会会報』第12・19号に拠る。	
	1987	昭和62	1/3～25	国立文楽劇場	艶容女舞衣	酒屋の段（中 英＝燕二郎、切 越路＝清治）。 ※竹本越路太夫3～6日休演のため、「酒屋の段・切」を豊竹嶋太夫が代演。	美濃屋三勝（和生）、茜屋半七（文吾）、舅半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（玉五郎）、嫁お園（簗助）、親宗岸（玉男）。
△	1987	昭和62	3/6～22	西ドイツ	艶容女舞衣	酒屋の段。 ※ドイツ文楽教室ツアー（ドイツ人形演劇研究所主催）。 ※『文楽』第6号に拠る。	
	1987	昭和62	9/12～27	東京 国立劇場小劇場	艶容女舞衣	上塩町酒屋の段（中 英＝燕二郎、切 越路＝清治）。	美濃屋三勝（勘寿）、茜屋半七（簗太郎）、舅半兵衛（玉松）、半兵衛女房（文昇）、嫁お園（簗助）、親宗岸（作十郎）。
	1990	平成2	1/27	京都 南 座	艶容女舞衣	酒屋の段（織＝清治・高音 清二郎）。 ※竹本織大夫・春日とよ子の会。素浄瑠璃。	
	1991	平成3	4/6～25	国立文楽劇場	艶容女舞衣	酒屋の段（中 緑＝弥三郎、切 住＝燕三）。	美濃屋三勝（清之助）、茜屋半七（和生）、舅半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（玉五郎）、嫁お園（簗助）、親宗岸（玉松）。
	1992	平成4	5/9～24	東京 国立劇場小劇場	艶容女舞衣	上塩町酒屋の段（中 千歳＝清二郎、切 住＝燕三）。	美濃屋三勝（和生）、茜屋半七（玉女）、舅半兵衛（玉幸）、半兵衛女房（紋寿）、嫁お園（簗助）、親宗岸（作十郎）。
	1995	平成7	11/4～26	国立文楽劇場	艶容女舞衣	酒屋の段（中 千歳＝燕二郎、切 嶋＝富助・高音 清太郎）。	美濃屋三勝（清之助）、茜屋半七（玉女）、舅半兵衛（文吾）、半兵衛女房（勘寿）、嫁お園（簗助）、親宗岸（作十郎）。
	1996	平成8	4/29～30	愛媛 内子 座	艶容女舞衣	酒屋の段（切 嶋＝燕二郎）。 ※第2回内子座文楽。	美濃屋三勝（清之助）、茜屋半七（文司）、舅半兵衛（一暢）、半兵衛女房（玉也）、嫁お園（簗助）、親宗岸（文吾）。
	1996	平成8	12/2	東京 国立演芸場	艶容女舞衣	酒屋の段（津駒＝清友）。 ※若手素浄瑠璃の会。	
	1997	平成9	1/27	T. B. ホール			
	1997	平成9	9/28～10/16	地方公演 （中部・東海・関東・北海道・東北）	艶容女舞衣	酒屋の段（切 嶋＝清介）。	美濃屋三勝（亀次）、茜屋半七（勘緑／玉志）、舅半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（勘寿）、嫁おその（文雀）、親宗岸（文吾）。
	1997	平成9	10/18～22	地方公演 （関東・信越・東海）	艶容女舞衣	酒屋の段（切 嶋＝清介）。 ※文化庁主催移動芸術祭。	美濃屋三勝（亀次）、茜屋半七（玉志）、舅半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（勘寿）、嫁おその（文雀）、親宗岸（文吾）。
	1998	平成10	3/3～24	地方公演 （近畿・中国・九州・四国・東海・関東・北陸）	艶容女舞衣	酒屋の段（呂＝富助）。	美濃屋三勝（勘弥）、茜屋半七（幸助）、舅半兵衛（文吾／一暢）、半兵衛女房（文司／玉英）、嫁おその（文雀）、親宗岸（玉幸）。

1999	平成11	9/4~19	東京 国立劇場小劇場	艷容女舞衣	上塩町酒屋の段（中 南都=八介、切 嶋=団六）。	美濃屋三勝（清之助）、茜屋半七（一暢）、舅半兵衛（作十郎）、半兵衛女房（紋寿）、嫁お園（簗助）、親宗岸（文吾）。	
2000	平成12	3/25	国立文楽劇場 小ホール	艷容女舞衣	酒屋の段（英=清友）。 ※若手素浄瑠璃公演「雅会」。		
2000	平成12	4/1~23	国立文楽劇場	艷容女舞衣	酒屋の段（中 千歳=宗助、切 綱=清二郎）。 ※文化財保護法50年記念。	美濃屋三勝（清之助）、茜屋半七（玉輝）、舅半兵衛（玉幸）、半兵衛女房（勘寿）、嫁お園（簗助）、親宗岸（文雀）。	
2002	平成14	10/26	東京 国立劇場小劇場	艷容女舞衣	上塩町酒屋の段（切 住=錦糸・高音 清丈）。 ※「清丈」の「丈」は異体字。 ※第14回文楽素浄瑠璃の会（第121回邦楽公演）。		
2004	平成16	10/2~21	地方公演 （関東・東北・北陸・中京・山陽）	艷容女舞衣	酒屋の段（中 松香=清志郎、切 嶋=清介）。	美濃屋三勝（清三郎）、茜屋半七（玉女）、舅半兵衛（玉也）、半兵衛女房（紋豊）、嫁お園（文雀）、親宗岸（文吾）。	
2005	平成17	3/5~24	地方公演 （中国・九州・近畿・東海・関東・北陸）	艷容女舞衣	酒屋の段（中 睦=清丈、切 嶋=清介）。 ※「清丈」の「丈」は異体字。	美濃屋三勝（勘弥）、茜屋半七（簗一郎）、舅半兵衛（玉輝）、半兵衛女房（紋豊）、嫁お園（簗助）、親宗岸（玉女）。	
2005	平成17	4/2~24	国立文楽劇場	艷容女舞衣	酒屋の段（中 英=宗助、切 綱=清二郎）、道行霜夜の千日（三勝—津駒・半七—呂勢・ツレ 咲甫・相子・呂茂=団七・団吾・喜一朗・龍聿・龍爾）。 ※野沢松之輔=改訂・作曲、沢村龍之介=振付（「道行霜夜の千日」）。	美濃屋三勝（清之助）、茜屋半七（玉女）、舅半兵衛（玉也）、半兵衛女房（紋豊）、嫁お園（文雀）、親宗岸（文吾）。	
△	2005	平成17	6/30	東京 紀尾井ホール	艷容女舞衣	酒屋（切 住=錦糸・高音 清丈）。 ※「清丈」の「丈」は異体字。 ※「住大夫三夜」。素浄瑠璃。 ※竹本住大夫『文楽のこころを語る』（文庫版）に拠る。	
2006	平成18	5/12~28	東京 国立劇場小劇場	艷容女舞衣	上塩町酒屋の段（中 文字久=宗助、切 綱=清二郎）。 ※吉田文吾休演のため、親宗岸を吉田和生が代演。	美濃屋三勝（簗一郎）、茜屋半七（幸助）、舅半兵衛（玉輝）、半兵衛女房（玉英）、嫁お園（文雀）、親宗岸（文吾）。	
2007	平成19	7/7	国立文楽劇場	艷容女舞衣	酒屋の段（住=錦糸・高音 龍爾）。 ※第10回文楽素浄瑠璃の会（文楽劇場第29回邦楽公演）。		
2007	平成19	11/3~25	国立文楽劇場	艷容女舞衣	酒屋の段（中 呂勢=喜一朗、切 嶋=宗助）。 ※吉田文吾休演のため、親宗岸を桐竹勘十郎が代演。	美濃屋三勝（清之助）、茜屋半七（清五郎）、舅半兵衛（玉輝）、半兵衛女房（紋豊）、嫁お園（簗助）、親宗岸（文吾）。	
2008	平成20	11/27	神戸 神戸新聞松方ホール	艷容女舞衣	酒屋の段（切 住=錦糸）。 ※神戸新聞創刊110周年記念。	美濃屋三勝（勘弥）、茜屋半七（一輔）、舅半兵衛（玉也）、半兵衛女房（簗二郎）、嫁お園（文雀）、親宗岸（和生）。	
2009	平成21	9/5~23	東京 国立劇場小劇場	艷容女舞衣	酒屋の段（中 英=団七、切 嶋=清友）。	美濃屋三勝（清三郎）、茜屋半七（一輔）、舅半兵衛（玉輝）、半兵衛女房（勘寿）、嫁お園（文雀）、親宗岸（玉女）。	

2011	平成23	4/2~24	国立文楽劇場	艶容女舞衣	酒屋の段（中 文字久=喜一朗、前 千歳=宗助、後 津駒=寛治）、道行霜夜の千日（三勝—文字久・半七—咲甫・ツレ つばさ・希・小住=富助・清旭・清丈・清公・錦吾）。 ※野沢松之輔=改訂・作曲、沢村龍之介=振付（「道行霜夜の千日」）。 ※「清丈」の「丈」は異体字。 ※吉田文雀19~24日休演のため、嫁お園を吉田和生が代演。	美濃屋三勝（簗二郎）、茜屋半七（勘弥）、舅半兵衛（玉輝）、半兵衛女房（亀次）、嫁お園（文雀）、親宗岸（玉也）。
2012	平成24	5/12~28	東京国立劇場小劇場	艶容女舞衣	酒屋の段（中 松香=清友、切 嶋=富助、切 源=藤蔵）。	美濃屋三勝（紋臣）、茜屋半七（勘市/玉佳）、舅半兵衛（玉也）、半兵衛女房（勘寿）、嫁お園（簗助）、親宗岸（紋寿）。
2012	平成24	12/22~23	福岡博多座	艶容女舞衣	酒屋の段（前 英=清介、後 呂勢=藤蔵）。	美濃屋三勝（文昇）、茜屋半七（幸助）、舅半兵衛（玉輝）、半兵衛女房（簗一郎）、嫁お園（和生）、親宗岸（玉也）。
2013	平成25	5/1	東京高輪区民センター一区民ホール	艶容女舞衣	酒屋の段（千歳=燕三）。 ※素浄瑠璃の会。	
2016	平成28	10/29~11/20	国立文楽劇場	艶容女舞衣	酒屋の段（中 希=清丈、前 文字久=宗助、奥 津駒=寛治）。 ※「清丈」の「丈」は異体字。 ※国立劇場開場50周年記念。	美濃屋三勝（簗助）、茜屋半七（勘弥）、舅半兵衛（文司）、半兵衛女房（簗一郎）、嫁お園（勘十郎）、親宗岸（勘寿）。
2019	令和1	9/7~23	国立劇場小劇場	艶容女舞衣	酒屋の段（中 靖=錦糸、前 藤=清友、奥 津駒=藤蔵）、道行霜夜の千日（三勝—睦、半七—南都、ツレ 咲寿・碩・文字栄=勝平・清旭・友之助・清公・清允）。 ※「日本博」参画プロジェクト	美濃屋三勝（一輔）、茜屋半七（玉助）、舅半兵衛（玉志）、半兵衛女房（簗一郎）、嫁お園（清十郎）、親宗岸（玉也）。
2021	令和3	2/25	国立文楽劇場小ホール	艶容女舞衣	酒屋の段（希=清公）。 ※第16回若手素浄瑠璃の会 ※伝承者養成事業50周年記念 ※国立文楽劇場文楽既成者研修発表会	
2022	令和4	2/5~22	国立劇場小劇場	艶容女舞衣	上塩町酒屋の段（中 靖=清旭、前 藤=清友、奥 呂勢=清治）。 ※国立劇場開場55周年記念 ※文楽座命名一五〇年 ※「日本博」参画プロジェクト ※出演者に新型コロナウイルスの陽性反応が確認されたため、5日第二部・第三部、6~12日の公演中止	美濃屋三勝（紋臣）、茜屋半七（紋秀）、舅半兵衛（玉輝）、半兵衛女房（文昇）、嫁お園（簗二郎）、親宗岸（勘寿）。